

複数領域統合型世帯調査に関する調査研究
(調査実施上の論点の検討)
報告書

令和8年3月

みずほリサーチ＆テクノロジーズ株式会社

社会政策コンサルティング部

目次

報告書内で用いる用語等の定義	1
I 本研究の概要	3
1. 背景・目的	3
2. 主な研究内容と結果の概要	5
3. 今後の課題	7
II 複数領域統合型世帯調査の試行調査	8
1. 試行調査の概要	8
(1) 試行調査の目的・概要	8
(2) 検証テーマ	12
(3) 回答の概要	18
(4) 検証テーマの結果	19
III 複数領域統合型世帯調査の各国における公表状況	62
1. 各国の公表状況	62
(1) ユーロッパの事例(EU-SILC)	62
(2) 我が国の事例(国民生活基礎調査)	66
2. 公表状況の比較から見た我が国の特徴	69
(1) 公表方法の違い	69
(2) 調査票情報(マイクロデータ)の提供方法の違い	71
参考資料	72
A 研究会実施概要	72
B 予備調査における基本統計量等	74
C 本調査における基本統計量等	78
D 回帰分析による追加分析	85
E 参考文献リスト(アルファベット順)	97
F 調査票(α 票)	99

報告書内で用いる用語等の定義

用語	概要
ウェルビーイング指標	本報告書では、WHO 憲章における健康の定義に準拠し、「肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、全てが満たされた状態」（日本 WHO 協会訳）を包括的に網羅するための指標とする。主観指標と客観指標両者を含み、後述の主観的ウェルビーイング指標も含む。具体的なウェルビーイングの枠組みとして、OECD Well-being Framework 等が開発されている。
感情（Affect）	主観的ウェルビーイングを構成する要素の一つ。特定の期間（例えば「昨日」など）において回答者が経験した、喜びや楽しさなどの「ポジティブな感情」と、悲しみや怒り、心配などの「ネガティブな感情」を指す。
客観指標	主観指標以外の指標。
行政記録情報等	本報告書では、国の行政機関が保有する各種行政記録情報（統計調査によって得られた情報を除く。）や地方公共団体が保有する業務記録情報を指す。具体的には、個別の法令の規定に基づいて為される申請、届出、登録、報告等によって国の行政機関に蓄積される情報や、国の行政機関の日々の業務活動（統計調査を除く。）を通じて収集される情報を指す（e-Stat「行政記録情報等を活用している統計」）。 なお、行政記録情報は統計法上次のように明記されている。「行政機関の職員が職務上作成し、又は取得した情報であって、当該行政機関の職員が組織的に利用するものとして、当該行政機関が保有しているもののうち、行政文書（行政機関の保有する情報の公開に関する法律（平成十一年法律第四十二号）第二条第二項に規定する行政文書をいう。）に記録されているもの（基幹統計調査及び一般統計調査に係る調査票情報、事業所母集団データベースに記録されている情報並びに匿名データを除く。）をいう。」（統計法第2条第10項）
公的統計	行政機関、地方公共団体又は独立行政法人等が作成する統計（統計法第2条第2項）を指す。 具体的には、「統計調査により作成される統計（調査統計）のほか、業務データを集計することにより作成される統計（業務統計）や他の統計を加工することにより作成される統計（加工統計）についても該当する」（総務省 HP「統計法について」より）。 なお、統計法では、公的統計の基本理念として以下が明記されている（統計法第3条）。 - 公的統計は、行政機関等における相互の協力及び適切な役割分担の下に、体系的に整備されなければならない。 - 公的統計は、適切かつ合理的な方法により、かつ、中立性及び信頼性が確保されるように作成されなければならない。 - 公的統計は、広く国民が容易に入手し、効果的に利用できるものとして提供されなければならない。 - 公的統計の作成に用いられた個人又は法人その他の団体に関する秘密は、保護されなければならない。
項目	調査票の中で、質問文と回答選択肢から構成される個々の項目を指す。多項目尺度の場合は、複数の項目が1つの尺度を構成する。
サティスファイサー （Satisficer: 省力回答者）	アンケート調査において、質問文を注意深く読まず、労力を最小限化するような回答をする者を指す（三浦・小林 2018; 大森 2021）。
尺度	概念を測定するための道具であり、1 つ以上の項目によって構成される。尺度の水準（「名義尺度」「順序尺度」「間隔尺度」「比率尺度」）によって分類されることもある。多次元性尺度の場合は、複数の下位尺度から構成され、各下位尺度は1 つ以上の項目によって構成される。
ストレートライナー/ストレートライニング回答	アンケート調査において、質問紙などで一直線に同じ回答を続ける回答者を指す。例えば、リッカート尺度が連続する設問において、全てを「0」や「5」を選ぶような回答者及び回答を指す。

社会的望ましきバイアス (Social Desirability Bias)	回答者が自身の真の感覚や意見ではなく、「社会的に受け入れられやすい」「他者から良く見られる」であろう回答を無意識又は意図的に選んでしまう傾向 (Crowne & Marlowe 1960)。
主観指標	本報告書では、回答者の自己報告によって得られた心・精神の状態を測定する指標を指す。具体的には、意識、情動、欲求、態度等を含む。
主観的ウェルビーイング指標	本報告書では、ウェルビーイング指標に該当する指標のうち、特に主観指標として心・精神の自己報告によって得られた指標を主観的ウェルビーイング指標とする。本報告書では主にユーダイモニア、生活満足度、感情を指す。
順序効果 (Order Effects) / 同化効果 (Assimilation Effects)	アンケート調査において、設問を提示する順序が回答に影響を与えること。特に、直前に回答した特定領域の設問内容に引きずられて、直後の総合的な設問の回答が似たような傾向になる現象を同化効果と呼ぶ (Strack et al.1988)。
生活満足度 (Life Satisfaction)	主観的ウェルビーイングを構成する要素の一つ。回答者が自身の人生や生活全体、あるいは特定の領域 (仕事、家計など) について、認知的に振り返り評価したもの。本報告書における「総合生活満足度」や「領域別生活満足度」が該当する。
単極尺度 (Unipolar) / 双極尺度 (Bipolar)	尺度の構造を示す用語。unipolar は、「全く満足していない (0)」から「非常に満足している (10)」のように、ゼロ地点から一方向への強さや度合いを測定する尺度。bipolar は、「非常に不満 (-5)」から「非常に満足 (+5)」のように、互いに対立する概念を両極に配置し、中央を中立とする尺度。
DQS (Directed Question Scale : 直接質問尺度)	調査票調査において適切な回答がなされているか検知する手法の一つ。調査設問において、特定の回答選択肢を選ぶように指示し、その指示を調査対象者が遵守したか否かによって、回答が十分に検討されたかを判断する (Maniaci & Rogge 2014)。
非遵守回答	本報告書では、アンケート試行調査において設定した DQS 設問等に対して、調査者が指定する回答を選択しなかった回答を非遵守群と定義した。
マイクロデータ (Microdata / 個票データ)	集計される前の、個々の世帯や個人の回答結果が記録されたデータのこと。
ユーダイモニア (Eudaimonia)	主観的ウェルビーイングを構成する要素の一つ。「人生の意味や目的」「自己実現」「達成感」などを指す。一時的な感情や単なる満足度ではなく、より本質的で持続的な心理的豊かさを評価する概念であり、OECD ガイドライン (2013) でも測定が推奨されている。
リッカート尺度 (Likert Scale)	アンケート調査で用いられる回答尺度の一つ。提示された文章や項目に対し、「全くそう思わない」から「非常にそう思う」までの段階的 (5 件法や 7 件法など) な選択肢を提示し、回答者の同意や評価の程度を測定する尺度。

I 本研究の概要

1. 背景・目的

「公的統計の整備に関する基本的な計画」は、平成19年に全面改正された統計法(平成19年法律第53号)に基づき、公的統計の整備に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、おおむね5年ごとに策定されるものである。令和5年に閣議決定された「公的統計の整備に関する基本的な計画」(第IV期公的統計基本計画)では、統計委員会は「社会経済情勢の変化に対応した公的統計の整備・改善に向けた観点から、その課題等を抽出し、統計整備に資するパイロット的な調査研究等を推進し、それらの研究成果を踏まえ、必要な統計の整備や改善に向けた方法を検討する」こととされている。この方針の下、総務省統計委員会担当室では、新統計の基礎研究や、複数統計に跨がる統計技術的・横断的課題等の研究を行っている。

こうした取組の一つとして、令和5～6年度にかけて統計委員会担当室では、複雑化・多様化する経済社会情勢を多面的に捉える調査手法である「複数領域統合型世帯調査」に関する調査研究を実施した。複数領域統合型世帯調査とは、世帯を対象として、医療、教育、所得等の複数の領域について統合的に調査するものであり、諸外国において整備が進んでいる。

令和5年度の研究では、特にEUの所得・生活状態統計であるEU-Statistics on Income and Living Conditions(以下「EU-SILC」という。)を典型例として、欧米諸国における複数領域統合型世帯調査の統計整備の状況を整理した。その結果、EU-SILC等では、主観的ウェルビーイング指標・主観指標を調査に組み込むことで、客観指標と組み合わせた分析が可能となり、調査の有用性を高めている実態を明らかにした。さらに、主観的ウェルビーイング指標・主観指標の分析・活用事例や、利活用に当たっての留意事項等について、OECDの議論等を参照しつつ整理したところ、主観指標・主観的ウェルビーイング指標の測定においては、文化的価値観や、それに基づく回答傾向の差異を考慮することが極めて重要であることが明らかになった。

この結果を踏まえ令和6年度は、我が国と近い文化的価値観を有する国が存在すると考えられるアジア地域を中心に、複数領域統合型世帯調査や主観的ウェルビーイング指標に関する事例調査等を行った。その結果、大韓民国、シンガポール等のアジア諸国においても、主観的ウェルビーイング指標を調査項目として設定しながら複数領域統合型世帯調査を実施している事例が複数みられ、欧米のみならずアジアにおいても同調査の有用性が認識され、統計整備が進んでいることが確認された。また、主観的ウェルビーイング指標の設定に当たっては、国際比較可能性を意識する一方で、文化的価値観に基づく回答傾向を補正しようとする試みもみられる等、主観的ウェルビーイングの測定やその利活用を巡る課題が改めて明らかとなった。

こうした令和5～6年度の研究成果により、複数領域統合型世帯調査における主観的ウェルビーイング指標の重要性が明らかになった一方で、その適切な測定方法については、更なる検証が必要であることも判明した。そこで、令和7年度は、調査実施上の具体的・技術的な論点に焦点を当てた実証的な研究を行った。主観的ウェルビーイングの測定においては、指標(設問)の選定に加え、設問の表現、回答形式、尺度の件数、全体の設問数、設問の順序等が回答傾向に系統的影響を与え得るため、調査票の設計が極めて重要であることが、先行研究において指摘されている。こうした論点が具体的に回答傾向に与える影響について検証すべく、複数領

域統合型の試行的なウェブ調査を実施し、結果についての分析を行った。また、国内外の事例に基づき、複数領域統合型世帯調査における主観指標・客観指標のクロス集計・公表状況等、データ提供の実態について文献調査を行い、整理した。

2. 主な研究内容と結果の概要

本研究を通じて得られた示唆等の概要について、以下のとおり整理する。

1) 主な研究内容

本研究では、調査実施上の技術的論点を実証的に検証するため、試行的なウェブ調査を実施した。調査の設計・実施に当たっては、専門性を有する有識者を交えた研究会を設置し、同研究会での議論を踏まえつつ、段階的に実施した。また、文献調査では、国内外の複数領域統合型世帯調査のデータ公表・提供状況の現状について、調査実施機関の公表資料や統計表等に基づき整理を行った。

試行調査では、主観指標・主観的ウェルビーイング指標の測定において、複数の論点について実証的な検証を行った。第一に、参照期間の明確化、設問順序、「わからない」等の不明の選択肢の有無等が回答に与える影響について、異なる調査票バージョンを用いた比較実験により検証した。第二に、代表的な主観的ウェルビーイング指標の一つである「生活満足度」と、これまで主観的ウェルビーイング測定では必ずしも広く用いられてこなかった「不満」という概念の回答差異について、両指標の同時測定により検証を行った。また、複数領域統合型世帯調査の性格に鑑み、調査項目数の多さが回答に与える影響についても検証を行った。具体的な調査項目の設定に当たっては、令和 5～6 年度の研究によって得られた国内外の様々な事例も参考にしつつ、多様な主観指標・主観的ウェルビーイング指標と客観指標を組み合わせた複数領域統合型世帯調査となるよう設計した。

試行調査全体の進め方として、二段階のアプローチを採用した。第一段階として、相対的に小さなサンプルサイズ(1,000 件)を対象とした、簡易な調査票による予備調査を実施し、その調査結果に基づき、設定した検証テーマや調査票設計の適否について研究会において詳細な議論を行った。そのうえで第二段階として、相対的に大きなサンプルサイズ(5,200 件)を対象とした本調査を実施し、各テーマについての検証を行うこととした。調査方法に関しては、限られた研究期間の中で、議論に応じた調査票設計の機動性と、相当数のサンプルサイズ確保を両立する観点から、ウェブ調査を採用した。

文献調査では、我が国及び諸外国における複数領域統合型世帯調査のデータ公表・提供の実態を把握するため、主観指標と主観・客観指標のクロス集計表の公表状況、匿名データの提供状況等について、調査実施機関の公表資料や統計表等に基づき調査を実施した。

2) 結果の概要

試行調査及び文献調査により、主観的ウェルビーイング指標を組み込んだ複数領域統合型世帯調査の設計・実施・公表・提供に関して、①利活用上の有用性や結果精度の向上、②回答者負担の軽減、③統計ユーザーの利便性向上、④回答者への十分な配慮という 4 つの観点から、様々な示唆が得られた。以下、各観点について述べる。

① 利活用上の有用性や結果精度の向上

主観的ウェルビーイングの測定を巡っては、従来の指標のみにとらわれず、測定目的や分析内容に応じて適切な指標を用いながら多面的に把握するアプローチが重要である。試行調査では、生活満足度の測定に際し、国際比較でも用いられる「最近の生活にどの程度満足していますか」という設問において、「最近」という言葉に

より回答者が実際に想起した期間を別途問うたところ、回答者によって想起期間には相当の差があることが明らかになった。国際比較の観点からは、単に「最近」とする生活満足度を聞くことも重要であるが、一方で、特定の政策効果や社会事象・イベントの影響について分析する観点からは、参照期間を明確化した系列を併せてみることも重要であると考えられる(検証テーマ 1))。

また、今回の試行調査では、代表的な主観的ウェルビーイング指標である「生活満足度」と共に「生活に対する不満」の度合いについて別途測定した。その結果、両指標の回答傾向の分布や他の主観指標・客観指標との相関関係等は必ずしも対称的ではなく、それぞれ異なっており、「生活満足度」だけでは把握できていない要素を「不満」を通じて捉える、というアプローチの有効性が示唆された(検証テーマ 4))。

この他、今回の検証では、設問順序、「不明」の選択肢の有無、尺度件数、選択肢のラベリング、デバイスによる視認性の差などの調査票設計上の論点は、主観指標に関する回答傾向や、主観指標と他の主観・客観指標との関係性に影響を与え得ることが明らかになった(検証テーマ 2)、3)、6))。複数領域統合型世帯調査に主観指標・主観的ウェルビーイング指標を組み込む場合、こうした論点を踏まえながら、細心の注意を払って調査票を設計していくことが望ましいといえる。

② 回答者負担の軽減

多数の主観指標・客観指標を組み込んだ複数領域統合型世帯調査では、当然ながら回答者の時間的、又は心理的負担が大きいものとなりやすく、結果的に回答への集中力の低下や設問の誤認識、回答精度の悪化につながる恐れがある。特に、主観的ウェルビーイング指標は認知的な処理を要するため、疲労の影響を受けやすいことが考えられる。実際、今回の試行調査では、予備調査から本調査に向けて設問数を増やしたとき、DQS(Directed Question Scale)の指示を遵守しなかった者の割合が統計的に有意に大きくなるといった結果が得られており、設問数の増加が回答品質に影響を与える可能性が確認された(検証テーマ 5))。

こうしたことを踏まえ、複数領域統合型世帯調査のような多くの設問数がある調査では、例えば諸外国のように行政記録情報等の活用により客観指標を代替するなど、回答者負担を軽減しつつ、調査の有用性を確保することが重要であると考えられる。

③ 統計ユーザーの利便性向上

文献調査の結果からは、我が国の代表的な複数領域統合型世帯調査である国民生活基礎調査においては、主観指標×主観指標や主観指標×客観指標のクロス集計表が、EU-SILC と比較して相対的に充実しており、多様な分析ニーズに対応できる形でデータ提供が行われている事実が明らかになった。過去の研究でも指摘してきたとおり、複数領域統合型世帯調査に様々な主観指標・主観的ウェルビーイング指標を組み込むことは、分析の有用性を大きく高めることになるが、クロス集計表の充実は、そうした有用性を損なうことなくユーザーに提供できるという点で、利便性向上に資するものである。

将来的に、我が国の複数領域統合型世帯調査に主観指標・主観的ウェルビーイング指標を組み込みながら拡充していく場合においても、現状のようにクロス集計表の公表を充実させる、又は二次利用を促進するなどして、ユーザーの利便性向上に向けて不断に取り組んでいくことが重要である。

④ 回答者への十分な配慮

今回の試行調査の一部設問において、諸外国の例に倣い「答えたくない」という選択肢を用意したところ、一定程度の割合で、当該選択肢を選ぶ回答者がみられた。主観指標・主観的ウェルビーイング指標のうち、センシティブな内容に関わるものについては、そうした選択肢を設定し、回答者に対して十分に配慮することも重要だと考えられる。

3. 今後の課題

本研究においては、主観的ウェルビーイング指標を組み込んだ複数領域統合型世帯調査の設計・実施・公表・提供に関する多くの示唆を得ることができた。一方で、本研究の範囲や方法の制約もあり、今後更に検討を要する重要な論点も明らかになった。以下、主要な課題を整理する。

第一に、本研究で実施した試行調査は、横断的な単回実施の調査であった。このため、主観指標・主観的ウェルビーイング指標の時系列変化を把握する際の測定方法の適切性、特に、パネル調査として同一個人を追跡する場合と、反復横断調査として毎回異なる標本を抽出する場合との比較検討や、調査頻度（年次、月次等）が結果に与える影響等について、今後研究していく必要がある。関連して、調査への回答経験の蓄積による、いわゆる「調査慣れ」が回答結果に与える影響についても、今後検証すべき重要な点である。

第二に、調査方法（対面聴取、ウェブ調査、郵送調査等）が回答結果に及ぼす影響、いわゆる「モード効果（Mode Effects）」についても、十分な検証が求められる。先行研究では、主観的ウェルビーイング指標の測定において、対面調査では社会的望ましきバイアス（Social Desirability Bias）により肯定的な回答が増加する傾向や、ウェブ調査では回答時間が短縮される一方で不注意回答が増加するリスク等が指摘されている。前述のとおり、今回の研究においては、調査内容の機動的な修正を可能にしつつ、短期間で分析に必要なサンプル数を確保するため、調査方法はウェブ調査のみとしたが、とりわけ主観指標を含む調査においては、調査方法の差異が回答内容に与える影響を適切に把握することが重要である。

第三に、不満と満足度の評価構造の差異、並びにそれらを踏まえた複数領域統合型世帯調査における不満の測定方法についても、理論的・実証的な研究が必要である。顧客満足度（Customer Satisfaction）研究の分野では、満足と不満は単に反対の概念ではなく、それぞれ別の構造・要因によって発生する独立した状態であるとする考え方がある。一方で、主観的ウェルビーイングの主たる測定概念である生活評価（Life Evaluation）の指標としては「生活満足度」が用いられることが一般的であり、「不満」を別の指標で捉えようとする試みはまだ多くない。尺度設計、言語表現、領域別指標の設定有無、感情尺度との区別など、「不満」の測定の在り方にはまだ研究すべき論点が数多く存在する。また、複数領域統合型世帯調査の枠組みの中では、「不満」を聞く場合、何の客観指標を併せて調査すべきか、という論点も非常に重要である。

今後、これらの重要課題に関する研究を着実に進め、その成果が、将来的な我が国における複数領域統合型世帯調査の整備・拡充及び実施方法の改善に向けた検討の一助として活用されることが期待される。また、こうした研究の推進に当たっては、国内外の最新の研究・議論の動向を的確に把握し、その知見を活用していくことも重要である。

Ⅱ 複数領域統合型世帯調査の試行調査

複数領域統合型世帯調査について、調査票の設計が結果に与える影響について検証を行うことで、調査実施上の課題・留意点を明らかにするための試行調査を行った。

1. 試行調査の概要

(1) 試行調査の目的・概要

試行調査では、調査票の設計(質問内容、質問順序等)の差異が回答へ与える影響を分析し、主観指標等を含む複数領域統合型世帯調査を実施する上での課題・留意点について検討することを目的とした。試行調査はウェブ調査を通じて検証を行った。

調査領域は、EU-SILC や我が国における複数領域統合型世帯調査の例も参考にしながら、領域横断的なデータ分析ができるよう次の 10 個を設定した。

A.主観指標群	B.個人属性
C.住宅・居住環境	D.家計支出・やりくり
E.子育て	F.労働環境
G.教育	H.健康状況
I.所得・資産	J.社会とのつながり

各領域の調査事項は表 1 のとおり。特に「A.主観指標群」領域については、EU-SILC で採用されている「生活満足度」や疎外感・孤独感のほか、OECD(2025)の議論を踏まえ、ユーダイモニアや感情等の主観指標を含めるよう設計した¹。

¹ 主観的ウェルビーイングの構成要素である生活評価(Life Evaluation)、感情(Affect)、ユーダイモニア(Eudaimonia)について、OECD(2025)における Core and extended survey modules の記載内容を踏まえている。

表 1 調査領域・事項

領域	調査事項
A.主観指標群	総合生活満足度 (Unipolar)
A.主観指標群	総合生活満足度で想起した期間 ※α票のみ
A.主観指標群	1年前の総合生活満足度
A.主観指標群	将来への希望
A.主観指標群	総合生活満足度 (①1～3か月間、②1年間、③3～5年間) ※β-1票は①→②→③の順、β-2票は③→②→①の順
A.主観指標群	領域別生活満足度 (住宅の質、家計支出、育児、就業状況、教育環境等) ※β票は総合生活満足度 (Unipolar) の前に配置
A.主観指標群	ユー・ダイモニア (人生の価値)
A.主観指標群	ユー・ダイモニア (やりたいことの実施、達成感、ポジティブな気持ち、人生における成長) ※α票は11件法、β票は7件法
A.主観指標群	総合生活満足度 (Bipolar) ※α票のみ
A.主観指標群	生活の不満
A.主観指標群	過去7日間の痛み
A.主観指標群	感情経験 (幸せ、心配、落ち着き、悲しみ、怒り、楽しい、疲れ、ストレス、笑い)
A.主観指標群	主観的健康 ※α票は選択肢が言葉による表現、β票は選択肢が数値
A.主観指標群	主観的健康 (心の状態)
A.主観指標群	主観的健康 (緊張、不安、イライラの頻度)
A.主観指標群	主観的健康 (落ち着き、意欲、睡眠、興味)
A.主観指標群	疎外感 ※α票のみ選択肢「わからない」、「答えたくない」あり
A.主観指標群	孤独感 ※α票のみ選択肢「わからない」、「答えたくない」あり
A.主観指標群	総合生活満足度 ※α票は回答尺度が昇順、β票は回答尺度が降順
B.個人属性	世帯構成 (同居)
B.個人属性	世帯構成 (世帯員数)
B.個人属性	家族関係 (世帯主との続柄)
B.個人属性	個人属性1 (年齢、生年月)
B.個人属性	個人属性2 (性別)
B.個人属性	個人属性2 (居住地)
B.個人属性	個人属性2 (婚姻状態)
C.住宅・居住環境	住宅特性 (居住形態：持ち家、賃貸、社宅等)
C.住宅・居住環境	住宅特性 (部屋数)
C.住宅・居住環境	住宅特性 (床面積)
C.住宅・居住環境	住宅費用 (家賃)
D.家計支出・やりくり	やりくりの難しさ (現在の家計)
D.家計支出・やりくり	家庭の経済的余裕 (休暇を自宅外で過ごす、住居を適温に保つ等)
D.家計支出・やりくり	支払い延滞 (家賃、住宅ローン、消費者ローン、光熱水費)
E.子育て	子どもの年齢
E.子育て	保育・学童等の利用状況
E.子育て	祖父母やその他の親戚等による保育

領域	調査事項
F.労働環境	現在の就業状態（本人）
F.労働環境	現在の就業状況（配偶者）
F.労働環境	現在の就業状態（主な仕事の業種）
F.労働環境	雇用形態（無期、有期等）
F.労働環境	就業履歴・失業期間（過去1週間の総就業日数）
F.労働環境	就業履歴・失業期間（過去1週間の総就業時間）
F.労働環境	就業履歴・失業期間（過去5年間における失業期間）
F.労働環境	就業希望の有無
F.労働環境	求職活動実施の有無
G.教育	最高学歴
G.教育	就学状況（教育参加の有無）
H.健康状況	長期の健康問題の有無
H.健康状況	日常活動制限（活動制限の有無・程度）
H.健康状況	睡眠時間（過去1か月間の平均睡眠時間）
H.健康状況	DQS
I.所得・資産	収入（世帯全体の年間収入）
I.所得・資産	収入（あなた自身の年間収入）
I.所得・資産	資産（世帯全体の金融資産）
J.社会とのつながり	親族・友人との接触頻度
J.社会とのつながり	社会活動への参加
J.社会とのつながり	困った時に頼れる人の有無（金銭的）
J.社会とのつながり	困った時に頼れる人の有無（非金銭的）
J.社会とのつながり	経験やライフイベント（引っ越し、同居、転職等）

※ハイライトされているセルは、 α 票と β 票で調査票設計を変えている調査事項を示す。

また、調査票設計の差異が回答に与える影響を検証するために、後述する検証テーマにしたがって、調査票を α 票と β 票($\beta-1$ 票、 $\beta-2$ 票)の3種類に分けて配布し、対照比較を行った。なお、回答者への調査票の割付は無作為に行い、調査票間の比較可能性を確保した。

本試行調査は検証テーマの適切性を精査するために、調査事項やサンプルサイズを限定した予備調査を行ったうえで、「本調査」として実施した。以降に示す調査概要・結果は、特に断りのない限り、「本調査」に関するものである。なお、予備調査の概要・結果等は参考資料に付した。

試行調査の実施概要は表2のとおりである。調査名は回答者に事前に調査の量や内容に偏った印象を与えないよう中立的な名称とした。

表 2 試行調査の実施概要

調査名	あなたの身の回りや生活に関するアンケート
回答数	α 票 2,600 件、 β 票 2,600 件(うち、 β -1 票 1,300 件、 β -2 票 1,300 件)
調査方法	ウェブ調査
対象者	日本国内居住の 18 歳～74 歳のインターネット登録モニター
回答対象選定方法	日本の人口動態に応じた性年齢階級別の比例割当て法 (男女別、18-24 歳、25-34 歳、35-44 歳、45-54 歳、55-64 歳、65-74 歳)
調査期間	2026 年 2 月 7 日(土)～2026 年 2 月 9 日(月)

コラム1:ウェブ調査において留意すべきデータの偏りについて

本調査研究はあらかじめ登録されたモニター（調査協力者）集団に対しウェブ調査によるアンケートを行った。ウェブ調査は他の郵送調査や調査員調査と比較して次のような特徴を有していることが知られている（Tourangeau et al.(2013)）。統計調査においては、調査方法ごとの特徴を把握したうえで目的に即した適切なものを選択することが重要である。とりわけ主観的ウェルビーイング指標の測定において、OECD（2025）は、ウェブ調査は他モードよりも社会的望ましさバイアスが弱く、実態に即してスコアが低く出る傾向があると言及しており、ウェブ調査特有の性質を理解した調査設計が求められる。

■ウェブ調査で留意すべき特徴と主観的ウェルビーイング測定への影響

- カバレッジ誤差 : 多くのウェブ調査は抽出枠（リスト）が対象とする母集団を完全に網羅していない。主観的ウェルビーイング指標は通常 IT リテラシー等と相関することがあるため、インターネット非利用層が漏れる等の偏りが生じ得る。
- 選択バイアス : 郵送・調査員調査は「確率抽出（無作為抽出）」を基本とするが、ウェブ調査の多くは「非確率抽出（オプトイン・パネル）」に依存するため、系統的な自己選択バイアスが生じる可能性がある。例えば、時間的・精神的に余裕のある層が多く参加し、孤独感や抑うつ傾向の強い層が参加しにくい等である。
- ※非確率抽出時のみ
- ストレートライニングの誘発 : ウェブ調査は調査員の監視がないため、一定の生活満足度の問いが連続すると、深く考えずに同じ番号を選び続ける事象が発生しやすい。

■ウェブ調査が主観的ウェルビーイング測定において利点となり得る特徴

- 社会的望ましさバイアスの低減 : 調査員等の他者が介在しないため、回答時の社会的望ましさの偏りを減らすことができる。特にネガティブな感情やセンシティブな情報について正直な回答を得やすくなる。
- システム制御によるプライミング（文脈）効果等の抑制 : 主観指標は直前の質問（所得や政治への不満など）に引きずられて回答が変わる「プライミング効果」を受けやすい。ウェブ調査では「前のページに戻れない設定」や「1 ページ 1 問表示」等のシステム制御が容易であり、当該行動を抑制する設計が行える。
- 回答負荷の低減 : 回答者が容易に質問を読み返したり、進捗管理したりできるため認知的負担が低い。「昨日どう感じたか」といった感情評価を、急かされずに落ち着いて振り返ることができる。

(2) 検証テーマ

本節では、試行調査において設定した検証テーマについて、選定の背景や検証方法の概要を整理する。なお、統計的仮説検定においては、 p 値 <0.05 を統計的に有意とみなした。

1) 参照期間の明確化が回答に与える影響

主観指標の測定においては、参照期間(Reference Period)の設定やその表現方法によって、回答結果が異なり得ることが指摘されている。Tourangeau et al.(2000)によれば、参照期間が長期化するほど、記憶検索の負荷が高まり、回答者は中間的な選択肢を選びやすくなる傾向が生じる。これに関連して、令和 6 年度の調査研究(総務省(2024))では、大韓民国の社会統合実態調査(Social Integration Survey)において、幸福感を問う際に参照期間を明確化することで、文化的価値観に基づく中心化傾向バイアスを補正しようとする試みを確認している。

OECD(2013, 2025)では、先行研究や各国の調査事例の蓄積を踏まえつつ、実務的あるいは国際比較可能性の観点から、主観的ウェルビーイングの構成要素ごとに適切な質問形式を整理している。具体的には、感情(Affect)については「昨日」などの短い期間、満足度などの生活評価(Life Evaluation)については「最近(These Days)」や「現在の生活全体」といった比較的曖昧な期間、ユーダイモニア(Eudaimonia)については特定の参照期間を設定しないことを推奨している。一方で、特に生活評価やユーダイモニアの測定において、参照期間が与える影響はあまり明らかになっておらず、例えば政策効果の検証といった観点からは参照期間を(推奨されている期間や表現から)修正することも重要な論点であり、更なる研究が必要であると指摘している。

こうした背景を踏まえ本試行調査では、生活満足度に関し、「最近」と言われた際に具体的に想起する期間や、参照期間を明確化した場合の回答傾向の変化について検証することとした。具体的には、まず α 票において、「最近」の総合生活満足度²と、「最近」で想起した期間を併せて尋ねた。一方、 β 票では、①最近、②最近 1~3 か月、③最近 1 年間、④最近 3 年~5 年の 4 つの期間を尋ねた³。両票の比較及び β 票での同一個人内での比較(①~④の結果の比較)から、参照期間の明確化が回答傾向に与える影響と、異なる参照期間における満足度の関連性を検証した。

2) 「わからない」の選択肢が回答に与える影響

社会調査の分野では、調査票を用いた調査において、回答者が設問に対して十分な判断材料を持たない、あ

² 本報告書では、住宅の質・家計支出・育児等の個別の領域に関する領域別評価(Domain Evaluation)である「領域別生活満足度」と区別する観点で、生活全体に関する満足度を「総合生活満足度」とする。

³ なお、②~④については、順序効果の影響も考えられるところ、 β -1票では②、③、④の順、 β -2票では④、③、②の順としている。

るいは評価を形成することが困難な場合などに備え、「わからない」といった「不明」の回答選択肢を設定することがある。実際、令和 6 年度の調査研究（総務省(2024)）では、EU-SILC の孤独感・疎外感に関する設問において、「わからない(Don't Know)」の選択肢を設けている点を確認している。

「不明(わからない)」の選択肢が回答行動に及ぼす影響については、多くの先行研究や論点が存在する。Krosnick(1991)によって提唱された省力化原理(Satisficing Principle)では、認知的負荷が高い質問において、回答者が負担を軽減するために「不明」と回答する、最初や中間に位置する選択肢を回答するなどの行動をとることを指摘している。この点を踏まえれば、明示的に「不明」の選択肢を設けることにより、測定誤差を含む省力化回答を識別・除外し、回答精度を改善する可能性があると考えられる。一方で、「不明」の選択肢の設定により、回答者に対して「不明」を選択するという省力化を促し、結果的に潜在的な測定値が得られず、データの欠測を増やしてしまう効果も考えられる。「不明」の選択肢が回答精度に与える影響について検証した研究⁴も数多く存在するが、一様の評価は得られていない。

また、「不明」の選択肢は、質問に答えたくない場合にも選択される点にも留意が必要である。Tourangeau & Yan(2007)は、収入や心理状態等の繊細な質問に対して回答を拒否する代わりに「不明」と回答する場合があると指摘している。これを踏まえれば、主観的ウェルビーイングの測定において「不明」の選択肢を設定すると、潜在的に低い測定値を持つ回答者が逃避的に「不明」の選択肢に流入するなどして、回答結果にバイアスが生じる可能性も否定できない。

以上を踏まえ、本試行調査においては疎外感・孤独感に関する設問に「わからない」及び「答えたくない」の選択肢を設け、回答傾向の違いを検証することとした。具体的には、疎外感・孤独感に関する設問の回答選択肢について、 α 票は「わからない」と「答えたくない」の両方を設け、 β 票はいずれも設けず尋ねた。これら α 票と β 票の回答結果(中間回答の多寡等)や、各選択肢を選んだ回答者の属性等を分析することで、「わからない」の選択肢の有無が回答に与える影響を検証した。

3) 設問順序が回答に与える影響

調査票における設問の順序に関しては、回答者に提示する順序の相違が回答結果に影響を及ぼす順序効果(Order Effects)の存在が知られており、調査票設計上の重要な論点の一つである。

生活満足度を尋ねる際に、総合生活満足度と領域別生活満足度のどちらを先に尋ねるかによって生じる影響については、主に McClendon & O'Brien(1988)をはじめとして、先に特定の領域別生活満足度を尋ねると、その回答が次に尋ねる総合生活満足度を評価する際の主要な判断材料になってしまう同化効果(Assimilation Effects)を指摘している。同化効果等の影響を重要な設問に与えないようにするため、OECD(2025)では主観的ウェルビーイング指標は調査の冒頭で尋ねることを推奨している。また、主観的ウェ

⁴ こうした研究のサーベイとしては、例えば増田・坂上(2014)や DeCastellarnau(2017)が詳しい。

ルビーイングにかかる設問群(Module)内の順序に関しては、一般的な質問から具体的な質問の順を原則とし、生活満足度については総合生活満足度の次に領域別生活満足度を尋ねる設計が提案されている。

以上を踏まえ、本試行調査においては総合生活満足度と領域別生活満足度の配置順序を変えることによる回答傾向の違いを検証することとした。具体的には、 α 票は最初に総合生活満足度、その後に領域別生活満足度の設問順、 β 票は最初に領域別生活満足度、その後に総合生活満足度の設問順とし、両調査票での回答結果を比較分析することで、設問順序の違いにより総合生活満足度・領域別生活満足度の回答傾向や指標間の関係性に変化が生じるかを検証した。

4) 満足と不満の回答差異

OECD(2025) では、主観的ウェルビーイングに関するデータ収集の意義の一つとして社会情勢のモニタリングを挙げ、評価、感情、ユーダイモニアのトレンドが、現状への不満(Dissatisfaction)といった客観指標では捉えられない側面を明らかにする可能性がある指摘している。感情に関する質問群では、ポジティブな感情(幸福、穏やか、楽しい等)とネガティブな感情(心配、悲しい、怒り等)を多面的に測定することが提案されているが、評価に関する質問群では、現在の生活満足度の他は過去的生活満足度、将来に関する見通しといった異なる時間軸、又は領域別生活満足度といったアプローチが提案されており、不満(Dissatisfaction)はあくまでも満足度の低い測定値として捉えられている。

主観的ウェルビーイングの観点から不満を直接的に測定する取組はあまり多くないが、例えば Davern & Cummins(2006) では、unipolar 型の生活満足度(Life Satisfaction)と不満(Life Dissatisfaction)の測定結果を比較し、両者の強い負の相関から、不満が満足の鏡像的対極(Mirror Opposite)であると示唆している。

もっとも、心理学や消費者行動、特に顧客満足度(Customer Satisfaction)の分野では、満足と不満を分離可能な概念として扱う数多くの研究がみられる⁵。また、令和 6 年度の調査研究(総務省(2024))や本研究会では、政策的インプリケーションの観点から、主観指標として満足度に加え、「不満」を別途測定することの意義についても指摘があった。

以上の先行研究や政策的問題意識を踏まえ、本試行調査においては、生活満足度と不満の回答傾向や他の指標との関係性の違いを検証することとした。具体的には、 $\alpha \cdot \beta$ の両調査票において、0~10 の尺度の総合生活満足度に加えて、0~10 の尺度の不満を尋ね、これら二つの設問の回答結果を比較分析することで、満足と不満の回答傾向に差異が生じるかを確認した。また、 α 票においては、0~10 の unipolar 型の生活満足度に加え、-5(非常に不満)~+5(非常に満足)の bipolar 型の満足/不満尺度を設け、両者の回答結果を比較した。

⁵ これらのサーベイとしては、Souders & Yu (2025) が詳しい。

5) 調査項目数の多さが回答に与える影響

複数領域統合型世帯調査は、幅広い領域にわたる主観・客観指標を組み込む点にその有用性があるが、調査の性質上、回答者の時間的、又は心理的負担が大きいものとなりやすいといえる。社会調査の方法論では、質問紙調査の設問数や所要時間の増加は、回答負担を通じ回答率や無回答、回答の質に影響を与えることが古くから論じられてきた(Burchell & Marsh(1992))。増田 et al.(2017)では、調査項目の多さによる回答精度の低下について、先行研究をレビューするとともに、省力化(Satisficing)の結果として調査票の後半で中間選択が増加するか検証している。

以上を踏まえ本試行調査では、調査票の後半において、特定の回答を選ぶよう指示する DQS(Directed Question Scale)型の設問を配置し、設問数が相対的に少ない予備調査における DQS の回答結果と比較することで、調査項目数の多さが回答に与える影響について検証することとした。また、増田 et al.(2017)同様、調査票における設問の位置と、中間回答の割合との関係についても検証を行った。

6) その他調査票設計が回答に与える影響

回答選択肢の件数

回答選択肢の件数が回答内容に与える影響については、令和 6 年度の調査研究(総務省(2024))でも精査すべき点として言及されている。

OECD(2025)では、多くの主観的ウェルビーイング指標について、0 から 10 の 11 件法の数値尺度を使用して測定することが推奨されている。理由としては、回答者の状態を詳細に表現することができること、国際的な比較可能性を向上することが挙げられている。しかし、回答選択肢の件数の設定は、回答者の回答傾向・回答精度に影響する可能性が先行研究等で報告されているものの、主観指標を測定するうえで望ましい回答選択肢の件数については必ずしもコンセンサスは得られていない。Lozano et al.(2008)は回答選択肢の件数を 7 以上に増やしても回答精度はほとんど向上しなくなることを示唆している。また、本研究に係る研究会でも、有識者から尺度件数の増加は、認知能力の限界等から中間回答等の省力回答が増える懸念も示された。特に複数領域統合型世帯調査においては設問数が多く、認知的負荷の低減のために適切な尺度件数を検討することは有用である。

以上を踏まえ本試行調査では、ユーダイモニアに関する設問の回答選択肢の件数を変えることによる回答傾向の違いを検証するために、次のように調査票ごとに選択肢の件数を変えた設問を設定した。ユーダイモニアに関する 4 つの設問について、 α 票では回答選択肢が 0~10 の 11 件法で尋ね、 β 票は 0~6 の 7 件法で尋ねた。 α 票と β 票の結果を比較分析することで、回答選択肢の件数の違いによる回答傾向に変化が生じるかを確認した。

回答選択肢の表示順序

先述の順序効果については、設問中の選択肢の表示順序においても観察されることが複数の先行研究で報

告されている。Tourangeau et al.(2004)は回答選択肢が論理的な順序で表示されている場合、より迅速に回答が行われる可能性を示唆している他、選択肢の配置における視覚的な情報が回答内容に影響を与える可能性を示唆している。また、Krosnick & Alwin(1987)は回答選択肢の表示順序を逆転させた場合、従来の表示順序における回答傾向と異なる傾向が得られることを示唆している。

そこで、本試行調査においては、総合生活満足度について、回答選択肢の表示順序を変えることによる回答傾向の違いを検証することとした。 α 票は総合生活満足度の回答選択肢の表示順序について左端を0とし、右端に向かって10に近づいていく順序、 β 票は左端を10とし、右端に向かって0に近づいていく順序とした。 α 票と β 票の回答結果を比較分析することで、回答選択肢の表示順序の違いにより総合生活満足度の回答傾向に変化が生じるかを確認した。

回答選択肢のラベルの表示形式

回答選択肢のラベルの表示形式も重要な論点である。令和6年度の調査研究(総務省(2024))ではEU-SILCと日本の調査の調査票を比較し、主観的健康に係る同様の指標であっても、調査票ごとに選択肢のラベルが言葉のみ、又は言葉と数値の併記といった表示形式が異なるケースを示している。

OECD(2025)では、多くの主観的ウェルビーイング指標について、回答選択肢は数値での記載(かつ、両端のみ言葉を付すこと)を推奨している。数値の記載については、言葉によるラベル(「満足」、「やや不満」等)のついたリッカート尺度と比較して数値尺度は各段階の間隔が等しいと認識されやすい効果があるからとしている。また、両端のみ言葉を付す点に関しては、両端以外の尺度について、翻訳や個人の解釈の一貫性を保つことが難しいことを理由として挙げている。他方で、主観的健康にかかる設問群(Population Mental Health Extended Module)では、回答選択肢は言葉のみによるラベルが提示されている。

以上を踏まえ本試行調査においては、主観的健康を対象に、回答選択肢のラベルの表示形式を変えることによる回答傾向の違いを把握するために、調査票ごとに、次のようにラベルを設定した。 α 票は、言葉のみで表示して尋ねた(非常に悪い、悪い、ふつう、良い、非常に良い)。 β 票は、ラベルを数値で表示し、両端のみ言葉と併記して尋ねた(1=非常に悪い、5=非常に良い)。 α 票と β 票の回答結果を比較分析することで、回答選択肢のラベルの表示形式の違いにより主観的健康の回答傾向に変化が生じるかを確認した。

本節の整理として、上述した検証テーマとその比較方法について、表3に試行調査の検証テーマ一覧を示す。

なお、本調査では複数の仮説を並行して検証しているが、各検証テーマが相互に影響を及ぼすことを極力抑制するため、設問票を3種類用意し、検証テーマごとに回答条件を統制している。具体的には、設問順序の入れ替え、回答選択肢の提示方法の変更、設問数の調整などを実施し、特定の設問が後続の回答に与える影響を最小化するよう設計している。そのため、観測された差異は、可能な限り各検証要因の効果として解釈できるよう配慮した。ただし、残存する交絡要因を完全に排除するものではない点には留意が必要である。

表 3 試行調査の検証テーマ一覧

検証テーマ	検証の概要	α票（または予備調査票）	β票（または本調査票）
(1)参照期間の明確化が回答に与える影響	総合生活満足度を回答する際、参照期間を明示する場合と明示しない場合で回答傾向に差が生じるか	参照期間を「最近」とした総合的生活満足度、「最近」として想起した期間に関する設問	β-1票 参照期間（昇順）： 最近 1～3か月間、最近1年間、最近3～5年間の総合生活満足度 β-2票 参照期間（降順）： 最近3～5年間、最近1年間、最近1～3か月の総合生活満足度
(2)「わからない」の選択肢が回答に与える影響	疎外感・孤独感を回答する際、「不明」の選択肢がある場合とない場合で回答傾向に差が生じるか	疎外感・孤独感の選択肢に「わからない」がある	疎外感・孤独感の選択肢に「わからない」がない
(3)設問順序が回答に与える影響	総合生活満足度・領域別満足度を回答する際、設問の順序の入れ替えにより回答傾向に差が生じるか	設問順序が総合生活満足度、領域別満足度の順	設問順序が領域別満足度、総合生活満足度の順
(4)満足と不満の回答差異	総合生活満足度を尋ねる場合と不満を尋ねる場合で回答傾向に差が生じるか	「全体として、最近の生活にどのくらい不満を感じていますか。」	
	総合生活満足度を回答する際、0～10の尺度で尋ねる場合と-5～+5の尺度で尋ねる場合で回答傾向に差が生じるか	総合生活満足度の選択肢が-5～+5	---
(5)調査項目数の多さが回答に与える影響	調査項目の多さによって回答精度に差が生じるか	設問数が相対的に少ない調査票（予備調査）	設問数が相対的に多い調査票（本調査）
(6)その他調査票設計が回答に与える影響			
回答選択肢の件数	ユータイムニアを回答する際、11件法で尋ねる場合と7件法で尋ねる場合で回答傾向に差が生じるか	ユータイムニアの選択肢が0～10の11件法	ユータイムニアの選択肢が0～6の7件法
回答選択肢の表示順序	総合生活満足度を回答する際、0から10の昇順で尋ねる場合と10から0の降順で尋ねる場合で回答傾向に差が生じるか	総合生活満足度の選択肢が0から10の昇順	総合生活満足度の選択肢が10から0の降順
回答選択肢のラベルの表示形式	主観的健康を回答する際、回答選択肢の表示形式が言葉の場合と数値の場合で回答傾向に差が生じるか	主観的健康の選択肢の表示形式が言葉	主観的健康の選択肢の表示形式が数値

(3) 回答の概要

本調査で得られた回答者の属性の集計結果を表 4 に示す。性・年齢・居住地については日本国内の人口動態に応じた比例割当て法によって抽出した。回答用のデバイスについては、PC・スマートフォン・その他(タブレット等)の3種類が存在し、 α 票と β 票ともに回答者の約7割はスマートフォンからの回答であった。

なお、回答用デバイスの情報については、調査会社から提供された情報(調査票外情報)を用いた。また、居住地の分類においては、「関東」を茨城県・栃木県・群馬県・埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県と定義し、「関西+中部」を新潟県・富山県・石川県・福井県・山梨県・長野県・岐阜県・静岡県・愛知県・三重県・滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県と定義した。上記以外の府県及び海外を「その他」と定義した。

表 4 本調査で得られた回答者の属性

	α 票		β 票		β -1票		β -2票	
	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合
年齢区分別								
18-24歳	257	9.9%	257	9.9%	128	9.8%	128	9.8%
25-34歳	391	15.0%	391	15.0%	196	15.1%	196	15.1%
35-44歳	439	16.9%	439	16.9%	219	16.8%	219	16.8%
45-54歳	559	21.5%	559	21.5%	280	21.5%	280	21.5%
55-64歳	486	18.7%	486	18.7%	242	18.6%	242	18.6%
65-74歳	468	18.0%	468	18.0%	235	18.1%	235	18.1%
小計	2,600	100.0%	2,600	100.0%	1,300	100.0%	1,300	100.0%
性別								
男性	1,306	50.2%	1,306	50.2%	653	50.2%	653	50.2%
女性	1,294	49.8%	1,294	49.8%	647	49.8%	647	49.8%
小計	2,600	100.0%	2,600	100.0%	1,300	100.0%	1,300	100.0%
居住地別								
関東	942	36.2%	942	36.2%	470	36.2%	470	36.2%
関西+中部	893	34.3%	893	34.3%	452	34.8%	452	34.8%
その他	765	29.4%	765	29.4%	378	29.1%	378	29.1%
小計	2,600	100.0%	2,600	100.0%	1,300	100.0%	1,300	100.0%
回答デバイス別								
PC	693	26.7%	712	27.4%	366	28.2%	346	26.6%
スマートフォン	1,838	70.7%	1,820	70.0%	902	69.4%	918	70.6%
その他(タブレット等)	69	2.7%	68	2.6%	32	2.5%	36	2.8%
小計	2,600	100.0%	2,600	100.0%	1,300	100.0%	1,300	100.0%

(4) 検証テーマの結果

1) 参照期間の明確化が回答に与える影響

参照期間の明確化が回答に与える影響の検証において、 α 票は特定の期間を設けず、「最近」の総合生活満足度、並びに「最近」で想起した期間を合わせて尋ねた。 β 票は①最近、②最近 1～3 か月間、③最近 1 年間、④最近 3～5 年間の、4 つの期間について総合生活満足度を尋ねた(図 1)。

図 1 調査票の設計(参照期間の明確化が回答に与える影響)

α 票

Q1-1 必須 全体として、最近の生活にどれくらい満足していますか。
0を「全く満足していない」、10を「非常に満足している」として、0から10のスケールで回答してください。

1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11.
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 (必ずしも整数でなくても可)

Q1-1 必須 Q1-1「全体として、最近の生活にどれくらい満足していますか。」で、あなたが「最近」として想起した期間はどれくらいですか。

テストボックス1
期間 (数字が必ずしも整数でなくても可)

単位
プルダウン1
選択してください
選択してください
1. 日
2. 週間
3. ヶ月
4. 年

β-1 票

Q1-2 必須 全体として、最近の生活にどれくらい満足していますか。
0を「全く満足していない」、10を「非常に満足している」として、0から10のスケールで回答してください。

1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11.
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 (必ずしも整数でなくても可)

Q1-3 必須 全体として、最近1～3か月の生活にどれくらい満足していますか。
Q1-4 必須 全体として、最近1年間の生活にどれくらい満足していますか。
Q1-5 必須 全体として、最近3～5年間の生活にどれくらい満足していますか。

※β-2票のQ1-3～Q1-5の並び順は上記の逆になっている

●「最近」として想起した期間の結果

α 票では、「最近」と問われた際に想起した期間を尋ねた。当該設問で得られた回答のうち、想起した期間の上位 10 位までを表 5 に示す。「最近」としての想起期間のうち最も多かった回答は、「1 年」(回答者数 685、26.3%)で、続いて「1 か月」(回答数 274、10.5%)、「5 年」(回答数 194、7.4%)であった。

表 5 「最近」で想起した期間(上位 10 位)

| 順位 | 期間 | 回答者数 | 割合 |
|-----|-----|------|-------|
| 1位 | 1年 | 685 | 26.3% |
| 2位 | 1か月 | 274 | 10.5% |
| 3位 | 5年 | 194 | 7.5% |
| 4位 | 3年 | 190 | 7.3% |
| 5位 | 3か月 | 179 | 6.9% |
| 6位 | 6か月 | 168 | 6.5% |
| 7位 | 2年 | 146 | 5.6% |
| 8位 | 10年 | 137 | 5.3% |
| 9位 | 1週間 | 100 | 3.8% |
| 10位 | 2か月 | 68 | 2.6% |

また、年齢ごとに想起する期間に差が生じているかを確認するために、年齢区別に想起期間上位 10 位までを集計した結果を表 6 に示す。いずれの年齢区分においても「1 年」と回答した割合が上位を占めており、18-24 歳では 2 位であるものの、他の年齢区分では 1 位であった。また、年齢区分が高齢になるにしたがって想起する期間が長期化する傾向がみられた。これに関連し、研究会では、参照期間の受け止め方は人生履歴や経験の蓄積による影響を受けやすいとの指摘があった。

表 6 年齢区分別「最近」で想起した期間(上位 10 位)

| 順位 | 18-24歳 | | | 25-34歳 | | | 35-44歳 | | |
|-----|--------|------|-------|--------|------|-------|--------|------|-------|
| | 期間 | 回答者数 | 割合 | 期間 | 回答者数 | 割合 | 期間 | 回答者数 | 割合 |
| 1位 | 1カ月 | 48 | 18.7% | 1年 | 92 | 23.5% | 1年 | 114 | 26.0% |
| 2位 | 1年 | 47 | 18.3% | 1カ月 | 58 | 14.8% | 1カ月 | 52 | 11.8% |
| 3位 | 3カ月 | 27 | 10.5% | 3カ月 | 30 | 7.7% | 3カ月 | 34 | 7.7% |
| 4位 | 6カ月 | 22 | 8.6% | 6カ月 | 25 | 6.4% | 5年 | 32 | 7.3% |
| 5位 | 1週間 | 17 | 6.6% | 3年 | 23 | 5.9% | 6カ月 | 26 | 5.9% |
| 6位 | 2カ月 | 14 | 5.4% | 2年 | 21 | 5.4% | 2年 | 25 | 5.7% |
| 7位 | 1日 | 13 | 5.1% | 1週間 | 20 | 5.1% | 3年 | 23 | 5.2% |
| 8位 | 15日 | 10 | 3.9% | 2カ月 | 20 | 5.1% | 1週間 | 20 | 4.6% |
| 9位 | 3年 | 7 | 2.7% | 5年 | 12 | 3.1% | 1日 | 17 | 3.9% |
| 10位 | 2年 | 5 | 1.9% | 15日 | 12 | 3.1% | 10年 | 15 | 3.4% |

| 順位 | 45-54歳 | | | 55-64歳 | | | 65-74歳 | | |
|-----|--------|------|-------|--------|------|-------|--------|------|-------|
| | 期間 | 回答者数 | 割合 | 期間 | 回答者数 | 割合 | 期間 | 回答者数 | 割合 |
| 1位 | 1年 | 161 | 28.8% | 1年 | 138 | 28.4% | 1年 | 133 | 28.4% |
| 2位 | 1カ月 | 52 | 9.3% | 5年 | 49 | 10.1% | 5年 | 49 | 10.5% |
| 3位 | 5年 | 49 | 8.8% | 3年 | 43 | 8.8% | 3年 | 49 | 10.5% |
| 4位 | 3年 | 45 | 8.1% | 10年 | 43 | 8.8% | 10年 | 40 | 8.5% |
| 5位 | 3カ月 | 40 | 7.2% | 6カ月 | 37 | 7.6% | 1カ月 | 34 | 7.3% |
| 6位 | 2年 | 35 | 6.3% | 1カ月 | 30 | 6.2% | 2年 | 32 | 6.8% |
| 7位 | 10年 | 33 | 5.9% | 2年 | 28 | 5.8% | 6カ月 | 27 | 5.8% |
| 8位 | 6カ月 | 31 | 5.5% | 3カ月 | 22 | 4.5% | 3カ月 | 26 | 5.6% |
| 9位 | 1週間 | 17 | 3.0% | 1週間 | 11 | 2.3% | 1週間 | 15 | 3.2% |
| 10位 | 20年 | 16 | 2.9% | 2カ月 | 11 | 2.3% | 2カ月 | 8 | 1.7% |

コラム2: 予備調査と本調査において表示順序を変えたときの想起する期間の比較

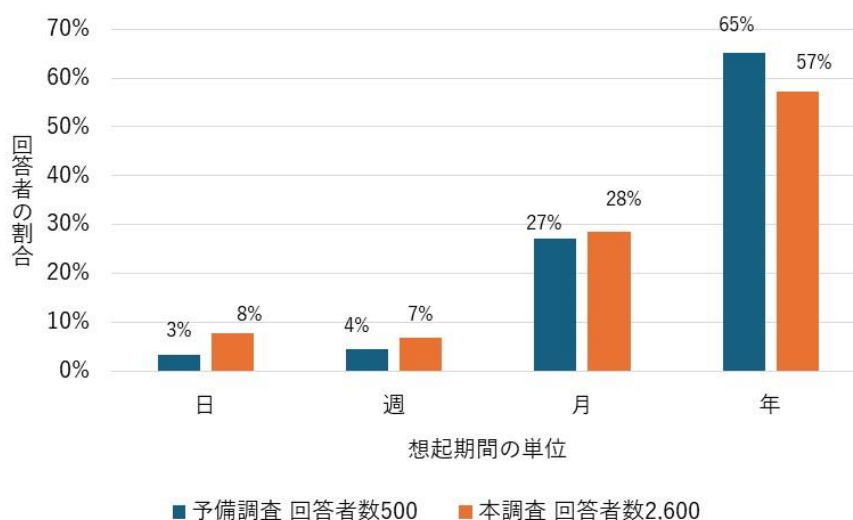
想起期間を尋ねる設問においては、図 2 のように参照期間の単位を 4 つの選択肢（日、週間、か月、年）から選択する調査票設計としていた。この選択肢の表示順序の影響を検討するために、予備調査では表示順序を降順（年、か月、週間、日）とし、本調査では表示順序を昇順（日、週間、か月、年）とした。

図 2 調査票の設計(想起期間における単位の表示)

| 予備調査 | 本調査 |
|--------------|--------------|
| 単位
プルダウン1 | 単位
プルダウン1 |
| 選択してください | 選択してください |
| 選択してください | 選択してください |
| 1. 年 | 1. 日 |
| 2. ヶ月 | 2. 週間 |
| 3. 週間 | 3. ヶ月 |
| 4. 日 | 4. 年 |

予備調査と本調査で参照期間の単位の回答内容と比較した結果は図 3 に示すとおりであった。

図 3 想起期間の単位の回答分布の比較: 予備調査 vs 本調査

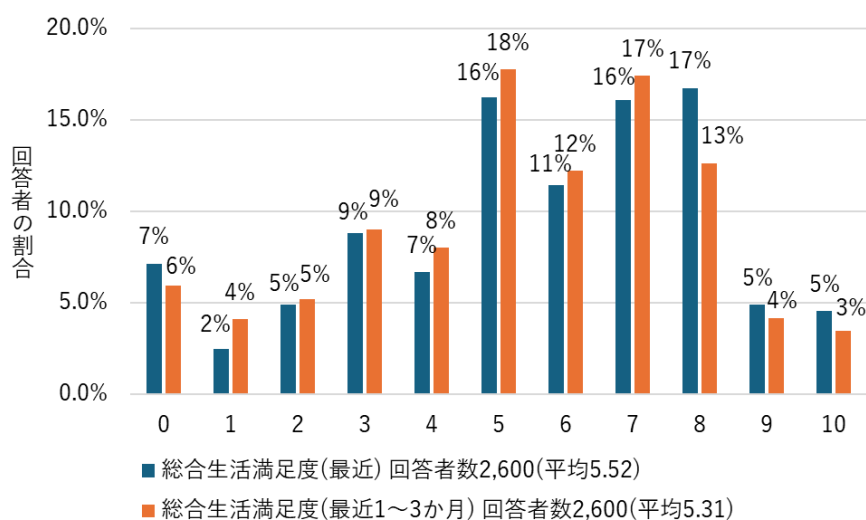


● 参照期間の明示の有無による総合生活満足度の比較

前述のように、 β 票では想起する参照期間を明示した場合の総合生活満足度を尋ねた。そこで、 β 票における各参照期間の回答と、 α 票において「最近」とだけ明示して想起する参照期間を明示しなかった場合の回答を比較・検証する。

まず、「最近」とだけ明示した α 票での回答と、 β 票で参照期間が「最近 1～3 か月間」と明示された回答を比較したところ、総合生活満足度の平均値の差は 0.21 だった (α 票=5.52、 β 票=5.31)。また、各選択肢の回答割合は図 4 に示すとおりであった。

図 4 総合生活満足度の回答分布の比較：
 α 票(参照期間が「最近」) vs β 票(参照期間が「最近 1～3 か月」)



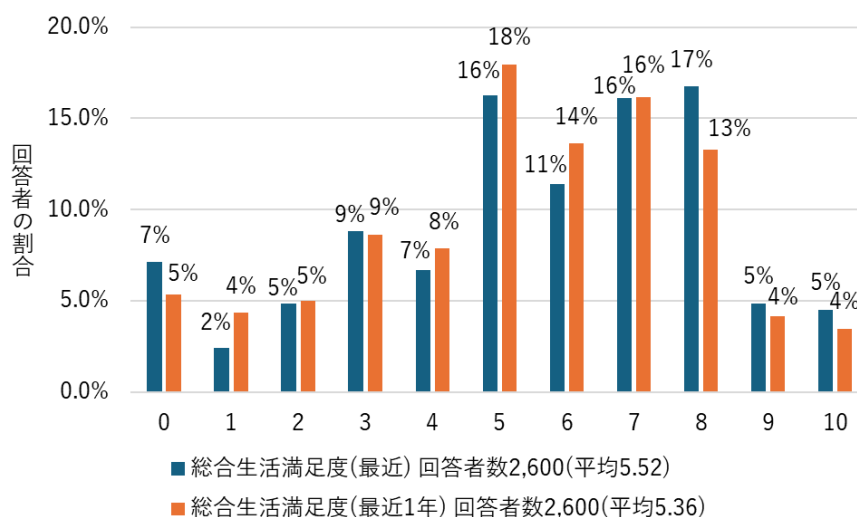
加えて、上記の分布が統計的に有意な差が生じているかを確認した。カイ二乗同質性検定を行った結果、2 群の総合生活満足度の分布には有意差が認められた ($\chi^2(df = 10) = 41.161, p < 0.001$)。 α 票のデータについて、総合生活満足度別の度数、期待度数、調整済み残差を表 7 に示す。調整済み残差は満足度 8 及び 1 において差が大きいことが観察された。

表 7 カイ二乗同質性検定におけるクロス集計結果 (α 票と β 票の生活満足度比較)

| 総合生活満足度 | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 度数 | 186 | 64 | 127 | 229 | 174 | 423 | 297 | 419 | 436 | 127 | 118 |
| 期待度数 | 170.5 | 85.5 | 131.0 | 231.5 | 191.5 | 442.5 | 307.5 | 436.0 | 382.5 | 117.5 | 104.0 |
| 調整済み残差 | 1.74 | -3.34 | -0.51 | -0.24 | -1.86 | -1.44 | -0.90 | -1.26 | 4.19 | 1.27 | 1.98 |

次に、 α 票で「最近」とだけ明示した回答と、 β 票で「最近 1 年間」と明示された回答を比較したところ、総合生活満足度の平均値の差は 0.16 だった(α 票=5.52、 β 票=5.36)。また、各選択肢の回答割合は図 5 に示すとおりであった。

図 5 総合生活満足度の回答分布の比較：
 α 票(参照期間が「最近」) vs β 票(参照期間が「最近 1 年」)



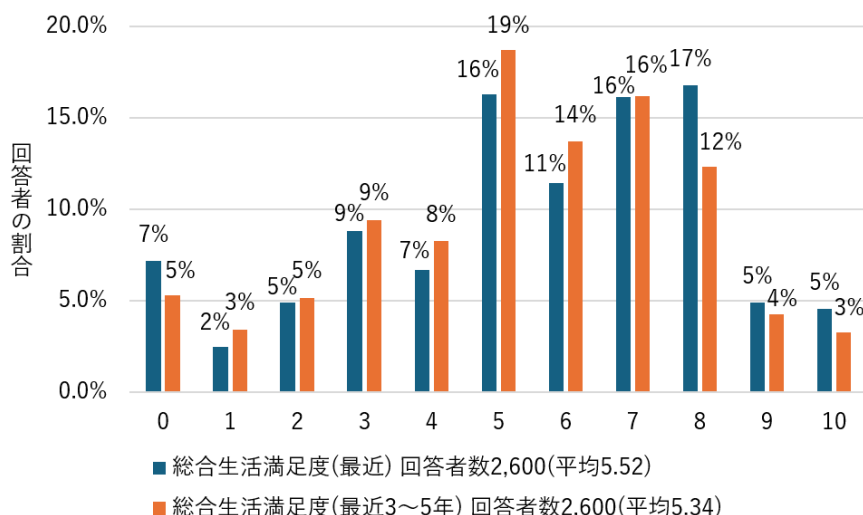
加えて、上記の分布が統計的に有意な差が生じているかを確認した。カイ二乗同質性検定を行った結果、2 群の総合生活満足度の分布には有意差が認められた($\chi^2(df=10)=45.048$, $p<0.001$)。 α 票のデータについて、総合生活満足度別の度数、期待度数、調整済み残差を表 8 に示す。調整済み残差は満足度 1 と 8 において大きな差があったことが確認された。

表 8 カイ二乗同質性検定におけるクロス集計結果(α 票と β 票の生活満足度比較)

| 総合生活満足度 | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 度数 | 186 | 64 | 127 | 229 | 174 | 423 | 297 | 419 | 436 | 127 | 118 |
| 期待度数 | 163.0 | 88.5 | 128.5 | 227.0 | 189.5 | 445.0 | 325.5 | 419.5 | 391.0 | 118.0 | 104.5 |
| 調整済み残差 | 2.63 | -3.75 | -0.19 | 0.20 | -1.65 | -1.62 | -2.39 | -0.04 | 3.49 | 1.20 | 1.91 |

最後に、 α 票で「最近」とだけ明示した回答と、 β 票で「最近 3～5 年間」と明示された回答とを比較したところ、総合生活満足度の平均値の差は 0.18 だった(α 票=5.52、 β 票=5.34)。また、各選択肢の回答割合は図 6 に示すとおりであった。

図 6 総合生活満足度の回答分布の比較：
 α 票(参照期間が「最近」) vs β 票(参照期間が「最近 3～5 年」)



加えて、上記の分布が統計的に有意な差が生じているかを確認した。カイ二乗同質性検定を行った結果、2 群の総合生活満足度の分布には有意差が認められた($\chi^2(df = 10) = 50.643, p < 0.001$)。 α 票のデータについて、総合生活満足度別の度数、期待度数、調整済み残差を表 9 に示す。調整済み残差は満足度 8 において差が大きいことが観察された。

表 9 カイ二乗同質性検定におけるクロス集計結果(α 票と β 票の生活満足度比較: α 票)

| 総合生活満足度 | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 度数 | 186 | 64 | 127 | 229 | 174 | 423 | 297 | 419 | 436 | 127 | 118 |
| 期待度数 | 161.5 | 76.5 | 130.5 | 237.0 | 194.5 | 455.0 | 326.5 | 420.0 | 378.0 | 119.0 | 101.5 |
| 調整済み残差 | 2.82 | -2.05 | -0.44 | -0.77 | -2.16 | -2.34 | -2.47 | -0.08 | 4.56 | 1.06 | 2.36 |

● 参照期間ごとの総合生活満足度の関係性

次に、 β 票において、参照期間別の総合生活満足度と、参照期間を設けずに「最近」として想起した総合生活満足度との相関係数を確認した(図 7～図 9)。下図に示すバブルチャートは、2 つの質問(図 7 の場合は最近の総合生活満足度と最近 1～3 か月の総合生活満足度)への回答内容をそれぞれ横軸と縦軸に示し、バブルの大きさによって回答者数の大きさを表現している。各バブルの位置から 2 つの質問への回答内容の関係を確認でき、また、バブルの大きさから回答者数の大小を確認できる。集計の結果、いずれの参照期間においても、「最近」の総合生活満足度との相関係数は 0.90 以上であった(「1～3 か月間」=0.93、「1 年間」=0.93、「3～5 年間」=0.91)。

図 7 「最近」の総合生活満足度と「最近 1～3 か月」の総合生活満足度の相関(β 票)

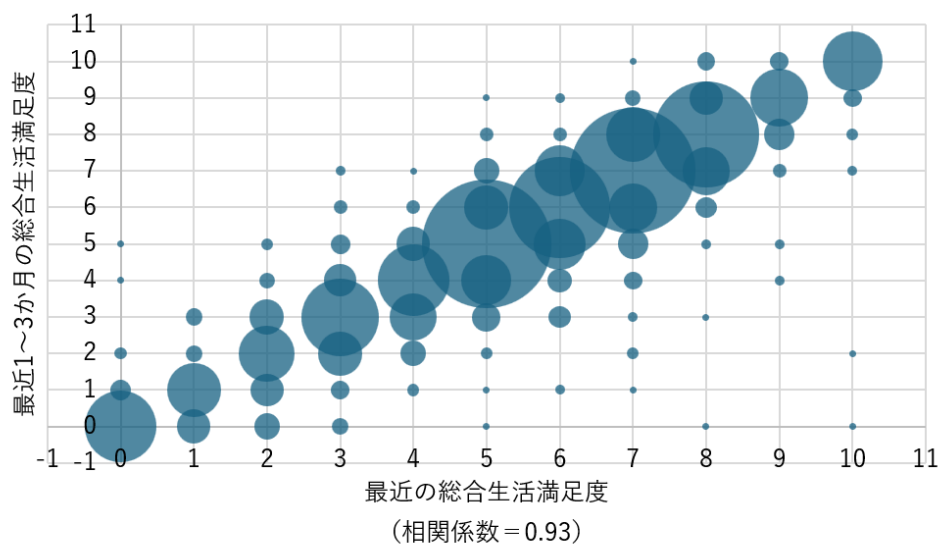


図 8 「最近」の総合生活満足度と「最近 1 年」の総合生活満足度の相関(β 票)

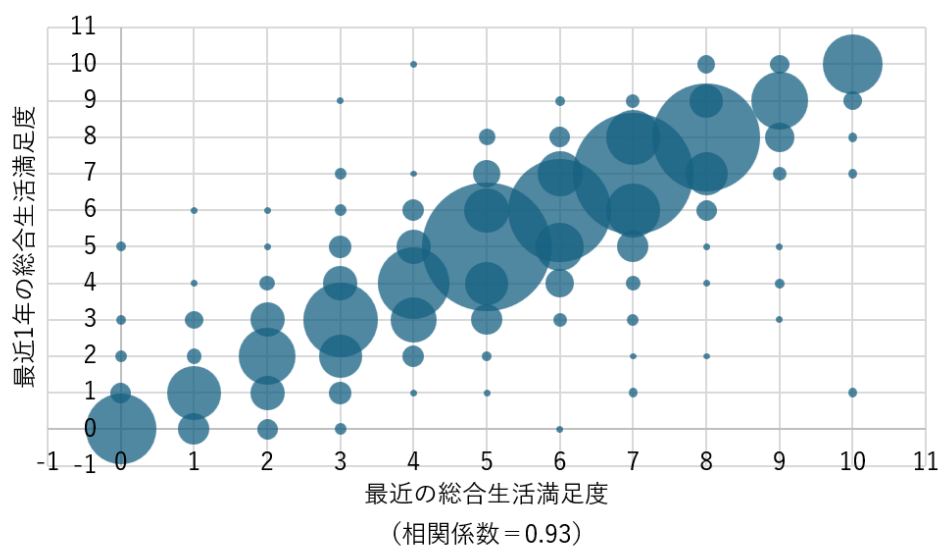
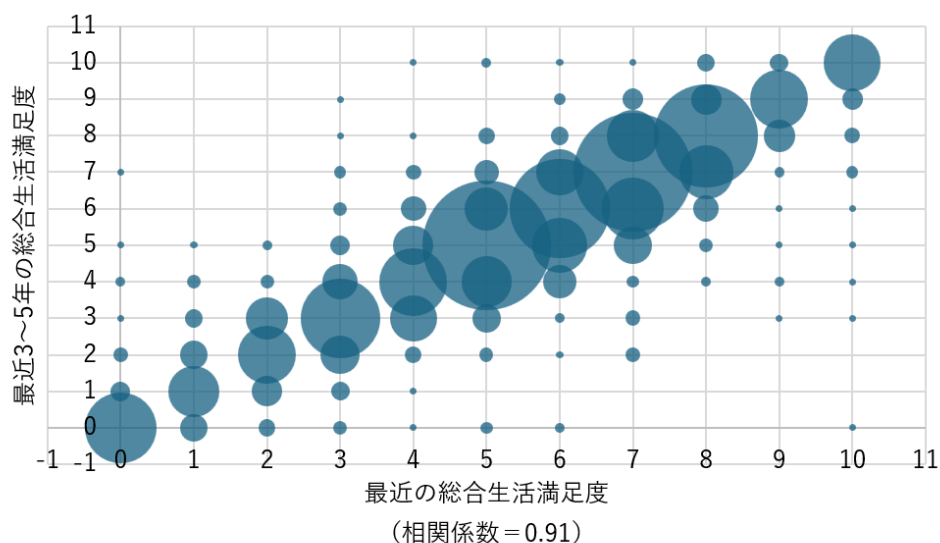


図 9 「最近」の総合生活満足度と「最近 3～5 年」の総合生活満足度の相関(β 票)



加えて、統計的に有意な差が生じているかを確認するためにフリードマン検定を行った。その結果、4 つの条件の順位和には有意差が認められた($\chi^2(df = 3) = 42.318, p < 0.001$)。

続いて、条件間の差を確認するため、ウィルコクソンの符号付き順位検定を実施した(多重検定補正はボンフェローニ法)。その結果、表 10 に示すとおり、「最近」とその他の期間はいずれも統計的に有意な差が認められた。他方で、「最近 3～5 年」は「最近」以外の期間との組合せで統計的有意な差がみられなかった等、期間ごとに違いがあった。

表 10 ウィルコクソンの符号付き順位検定のペアワイズ表

| | | β票 | | |
|----|-------|--------|-------|-------|
| | | 最近 | 1～3か月 | 1年 |
| β票 | 1～3か月 | <0.001 | - | - |
| | 1年 | <0.001 | 0.029 | - |
| | 3～5年 | <0.001 | 1.000 | 1.000 |

最後に、「最近」の総合生活満足度をβ-1票とβ-2票で比較するためにコルモゴロフ-スミルノフ検定⁶(離散補正済み)を行ったところ、2群の総合生活満足度の分布には有意差が認められなかった($D = 0.016, p = 0.996$)。

⁶ 互いに独立した2群から得られた連続データについて、2群の累積分布関数が等しいかを検定する場合に用いる。

コラム3:いずれの参照期間においても同じ総合生活満足度を選択する者の特徴

β票において、「最近」を除く3つの参照期間の全てで同じ総合生活満足度を回答した群と、それ以外の群で、年齢区分・性別の構成割合を比較した結果を表 11 に示す。参照期間の全てで同じ総合生活満足度を回答した割合は、年齢の高い区分で高い傾向がみられた。

表 11 参照期間別総合生活満足度の回答が全て同じであった者の属性: β 票

| | 「最近」を除く3つの参照期間全てで
同じ総合生活満足度を回答した群 | | それ以外の群 | |
|---------|--------------------------------------|-------|--------|-------|
| | 回答者数 | 割合 | 回答者数 | 割合 |
| 年齢区分別 | | | | |
| 18歳～24歳 | 115 | 44.9% | 141 | 55.1% |
| 25歳～34歳 | 191 | 48.7% | 201 | 51.3% |
| 35歳～44歳 | 228 | 52.1% | 210 | 47.9% |
| 45歳～54歳 | 339 | 60.5% | 221 | 39.5% |
| 55歳～64歳 | 298 | 61.6% | 186 | 38.4% |
| 65歳～74歳 | 308 | 65.5% | 162 | 34.5% |
| 小計 | 1,479 | 56.9% | 1,121 | 43.1% |
| 性別 | | | | |
| 男性 | 756 | 57.9% | 550 | 42.1% |
| 女性 | 723 | 55.9% | 571 | 44.1% |
| 小計 | 1,479 | 56.9% | 1,121 | 43.1% |

コラム4:「最近」で想起した期間の当該期間におけるイベントの有無

「最近」で想起した期間内に、下記のいずれかの出来事があった群をイベントあり群、いずれの出来事もなかった群をイベントなし群と定義した（図 10）。

図 10 調査票の設計(過去起きた出来事)

Q51 必須 過去起きた出来事についてお聞きます。
それぞれの期間に起きた出来事について当てはまるものをすべて選んでください。

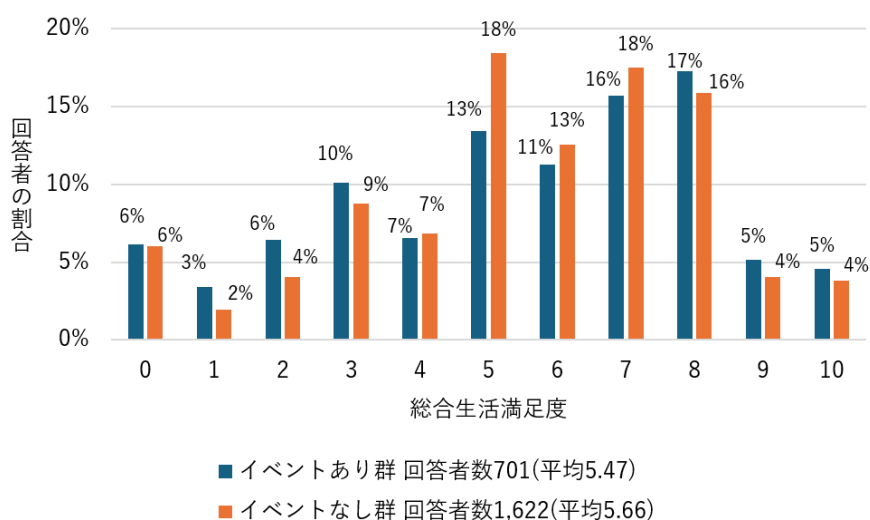
※その期間に該当するものがない場合は、「当てはまるものはない」を選んでください。
※基準日は本日とし、例えばちょうど1年前の出来事は「3か月超～1年以内」に含めてください。

| | 1. | 2. | 3. | 4. | 5. | 6. | 7. | 8. | 9. | 10. | 11. | 12. |
|--|---------|-------------------|-------------------|-------------|---------------|------|--|-------------|-------------------------|---------------------------------------|------|---------------------|
| | 引っ越しをした | 配偶者・パートナーとの同居を始めた | 配偶者・パートナーとの同居をやめた | 働き始めた（就業開始） | 仕事を辞めた（退職・退職） | 転職した | 新たな健康上の問題（病気・けが等）と診断された（あなた本人／配偶者・パートナー） | 子どもが独り立ちをした | 出産があった（あなた本人／配偶者・パートナー） | 身近な人との死別があった（配偶者・パートナー、家族・親族、親しい友人など） | 離婚した | 当てはまるものはない
(その他) |

| | | | | | | | | | | | | |
|---------------|---|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 1. 過去1か月以内 | ➡ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |
| 2. 1か月超～3か月以内 | ➡ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |
| 3. 3か月超～1年以内 | ➡ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |
| 4. 1年超から3年以内 | ➡ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |
| 5. 3年超～5年以内 | ➡ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |

上記イベントあり群とイベントなし群で、総合生活満足度（α票）の回答内容を比較した結果を図 11 に示す。比較の結果、平均値の差は 0.19 であった。

図 11 イベントあり・なし別の総合生活満足度の回答分布の比較：α 票



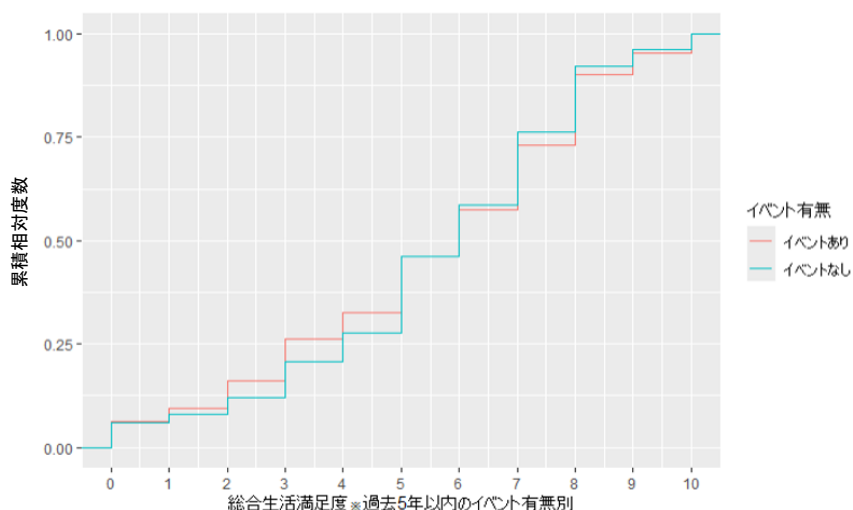
加えて、上記の分布が統計的に有意な差が生じているかを確認した。カイ二乗同質性検定を行った結果、2 群の総合生活満足度の分布には有意差が認められた ($\chi^2(df = 10) = 22.433, p = 0.013$)。α 票のイベントあり群のデータについて、総合生活満足度別の度数、期待度数、調整済み残差を表 12 に示す。イベントあり群では、総合生活満足度の低い値で調整済み残差の値がプラスで大きくなり、中間付近の値がマイナスで大きくなる傾向がみられた。

表 12 カイ二乗同質性検定におけるクロス集計結果
(イベントあり群とイベントなし群の総合生活満足度比較)

| 総合生活満足度 | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|--------|--------|-------|-------|
| 度数 | 43 | 24 | 45 | 71 | 46 | 94 | 79 | 110 | 121 | 36 | 32 |
| 期待度数 | 42.55 | 16.90 | 33.50 | 64.28 | 47.38 | 118.59 | 85.40 | 118.90 | 114.37 | 30.78 | 28.37 |
| 調整済み残差 | 0.09 | 2.09 | 2.44 | 1.05 | -0.25 | -2.97 | -0.88 | -1.07 | 0.81 | 1.15 | 0.83 |

最後に、 α 票のイベントあり群とイベントなし群の総合生活満足度について、コルモゴロフ-スミルノフ検定を行ったところ、2群の総合生活満足度の分布には有意差が認められなかった ($D = 0.053, p = 0.132$) (図 12)。

図 12 総合生活満足度の比較(累積分布)



2) 「わからない」の選択肢が回答に与える影響

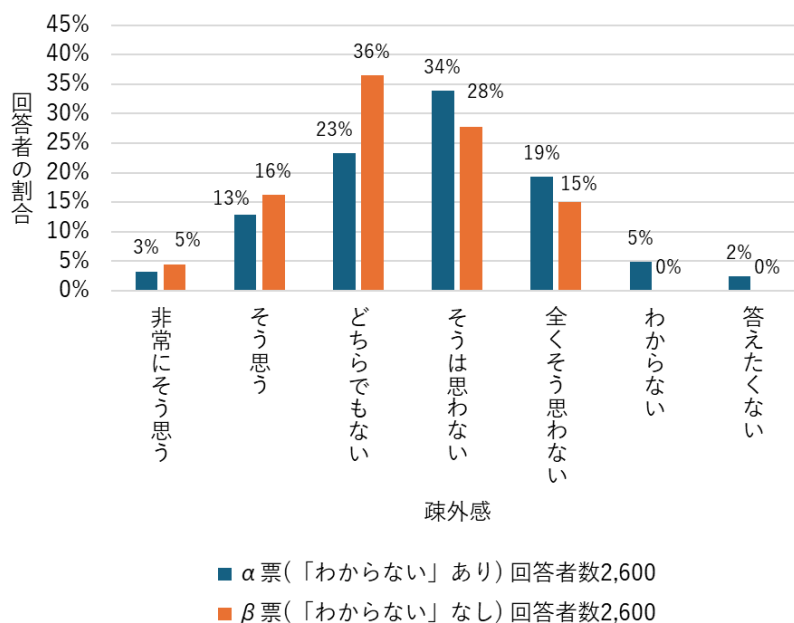
「わからない」のような不明の選択肢が回答に与える影響の検証においては、 α 票は疎外感・孤独感に関する設問の回答選択肢に「わからない」と「答えたくない」の両方を設けて尋ねた。 β 票は疎外感・孤独感に関する設問の回答選択肢に「わからない」と「答えたくない」のいずれも設けず尋ねた(図 13)。

図 13 調査票の設計(不明の選択肢が回答に与える影響(疎外感))

| α 票 | β 票 |
|---|--|
| <p>Q9 必須 (自身の社会生活、仕事、公的サービスへのアクセスを考慮して答えてください。)</p> <p>あなたは、疎外感を覚えていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ☐ 1. 非常にそう思う ☐ 2. そう思う ☐ 3. どちらでもない ☐ 4. そうは思わない ☐ 5. 全くそう思わない ☐ 6. わからない ☐ 7. 答えたくない | <p>Q9 必須 (自身の社会生活、仕事、公的サービスへのアクセスを考慮して答えてください。)</p> <p>あなたは、疎外感を覚えていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ☐ 1. 非常にそう思う ☐ 2. そう思う ☐ 3. どちらでもない ☐ 4. そうは思わない ☐ 5. 全くそう思わない |

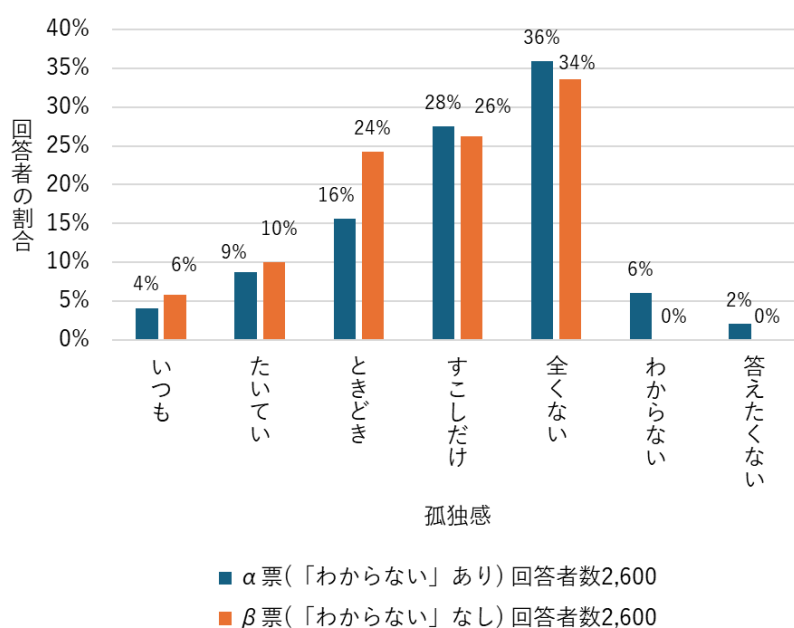
「わからない」の選択肢がある疎外感(α票)と、「わからない」の選択肢がない疎外感(β票)とを比較した結果を図 14 に示す。α票とβ票とで、中間の選択肢である「どちらでもない」を選択する回答割合の差が大きくなっていた。

図 14 疎外感の回答分布の比較: α票(「わからない」あり) vs β票(「わからない」なし)



次に、孤独感について「わからない」の選択肢があるα票と「わからない」の選択肢がないβ票を比較した結果を図 15 に示す。比較の結果、α票と比較して、β票でも疎外感の集計と同様に、中間の選択肢である「ときどき」を選択する回答割合の差が大きくなっていた。

図 15 孤独感の回答分布の比較: α票(「わからない」あり) vs β票(「わからない」なし)



さらに、「わからない」、「答えたくない」を選択した回答者の割合を年齢区分及び性別で求めて比較した結果を表 13、表 14 に示す。疎外感では、44 歳以下の年齢区分では、全体に対する割合(4.8%)より高かった。また、性別では男性において割合が高かった。孤独感についても、「わからない」では 55 歳以下の区分で、「答えたくない」については 35 歳以下の区分で同様の傾向がみられた。

表 13 「わからない」、「答えたくない」と回答した者の属性(疎外感)

| | 「わからない」
の回答者数 | 全回答者中の
「わからない」
の回答者割合 | 「答えたくない」
の回答者数 | 全回答者中の
「答えたくない」
の回答者割合 | 全回答者数 |
|---------|------------------|-----------------------------|-------------------|------------------------------|-------|
| 年齢区分別 | | | | | |
| 18歳～24歳 | 13 | 5.1% | 17 | 6.6% | 257 |
| 25歳～34歳 | 27 | 6.9% | 20 | 5.1% | 391 |
| 35歳～44歳 | 29 | 6.6% | 15 | 3.4% | 439 |
| 45歳～54歳 | 20 | 3.6% | 6 | 1.1% | 559 |
| 55歳～64歳 | 22 | 4.5% | 2 | 0.4% | 486 |
| 65歳～74歳 | 15 | 3.2% | 3 | 0.6% | 468 |
| 小計 | 126 | 4.8% | 63 | 2.4% | 2,600 |
| 性別 | | | | | |
| 男性 | 69 | 5.3% | 37 | 2.8% | 1,306 |
| 女性 | 57 | 4.4% | 26 | 2.0% | 1,294 |
| 小計 | 126 | 4.8% | 63 | 2.4% | 2,600 |

表 14 「わからない」、「答えたくない」と回答した者の属性(孤独感)

| | 「わからない」
の回答者数 | 全回答者中の
「わからない」
の回答者割合 | 「答えたくない」
の回答者数 | 全回答者中の
「答えたくない」
の回答者割合 | 全回答者数 |
|---------|------------------|-----------------------------|-------------------|------------------------------|-------|
| 年齢区分別 | | | | | |
| 18歳～24歳 | 16 | 6.2% | 13 | 5.1% | 257 |
| 25歳～34歳 | 29 | 7.4% | 21 | 5.4% | 391 |
| 35歳～44歳 | 31 | 7.1% | 8 | 1.8% | 439 |
| 45歳～54歳 | 36 | 6.4% | 8 | 1.4% | 559 |
| 55歳～64歳 | 26 | 5.3% | 3 | 0.6% | 486 |
| 65歳～74歳 | 20 | 4.3% | 2 | 0.4% | 468 |
| 小計 | 158 | 6.1% | 55 | 2.1% | 2,600 |
| 性別 | | | | | |
| 男性 | 75 | 5.7% | 29 | 2.2% | 1,306 |
| 女性 | 83 | 6.4% | 26 | 2.0% | 1,294 |
| 小計 | 158 | 6.1% | 55 | 2.1% | 2,600 |

加えて、まず疎外感について、「わからない」を選択した回答者を、中間の選択肢である「どちらでもない」を選択した回答者に積み上げて集計した結果を図 16 に示す。同様に、孤独感について、「わからない」を選択した回答者を、中間の選択肢である「ときどき」に積み上げて集計した結果を図 17 に示す。

図 16 疎外感の回答分布の比較(「わからない」を「どちらでもない」に積み上げ)：

α 票(「わからない」あり) vs β 票(「わからない」なし)

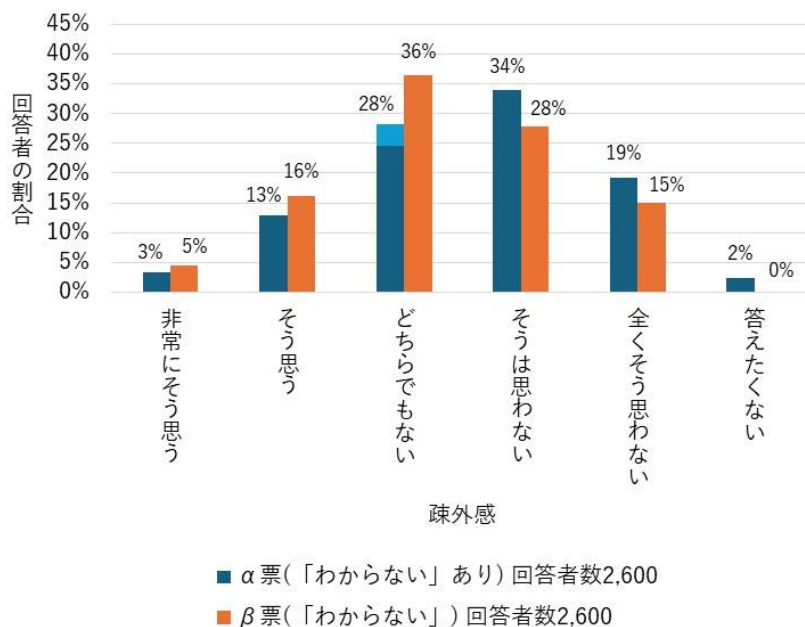
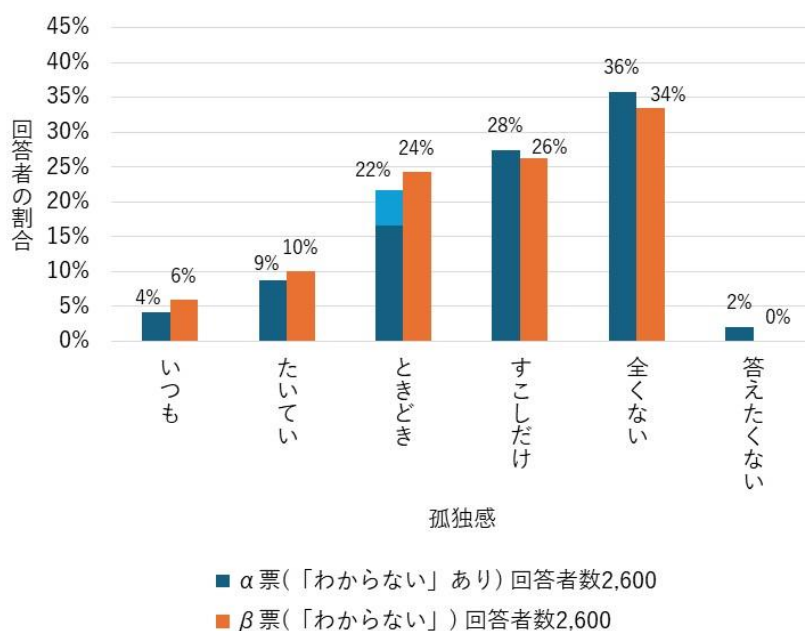


図 17 孤独感の回答分布の比較(「わからない」を「ときどき」に積み上げ)：

α 票(「わからない」あり) vs β 票(「わからない」なし)



さらに、「わからない」の積み上げ前後の分布に統計的な有意差が生じているかを確認した。カイ二乗同質性検定の結果、疎外感の分布には有意差が認められた($\chi^2(df=4)=33.416, p<0.001$)。一方、孤独感の分布には有意差が認められなかった($\chi^2(df=4)=3.328, p=0.068$)。また、有意な差が確認された疎外感の α 票のデータについて、回答選択肢ごとの度数、期待度数、及び調整済み残差を表 15 に示す。

表 15 カイ二乗同質性検定におけるクロス集計結果(α 票と β 票の疎外感比較)

| 疎外感 | 非常にそう思う | そう思う | どちらでもない
+わからない | そうは思わない | 全くそう思わない |
|--------|---------|-------|-------------------|---------|----------|
| 度数 | 85 | 335 | 733 | 882 | 502 |
| 期待度数 | 99.8 | 373.9 | 830.2 | 792.7 | 440.5 |
| 調整済み残差 | -2.12 | -3.06 | -5.78 | 5.38 | 4.53 |

3) 設問順序が回答に与える影響

設問順序が回答に与える影響の検証においては、 α 票は調査票の最初に総合生活満足度を尋ね、その後に領域別生活満足度を尋ねた。 β 票は調査票の最初に領域別生活満足度を尋ね、その後に総合生活満足度を尋ねた。

● 両票における総合生活満足度の比較結果

まず、 α 票と β 票で参照期間が「最近」である総合生活満足度を比較したところ、平均値の差は 0.09 であった(α 票=5.52、 β 票=5.43)。次に調査票間の回答傾向を把握するため、各選択肢への回答分布(図 18)、及び累積分布関数(図 19)を確認した。

図 18 「最近」の総合生活満足度の回答分布

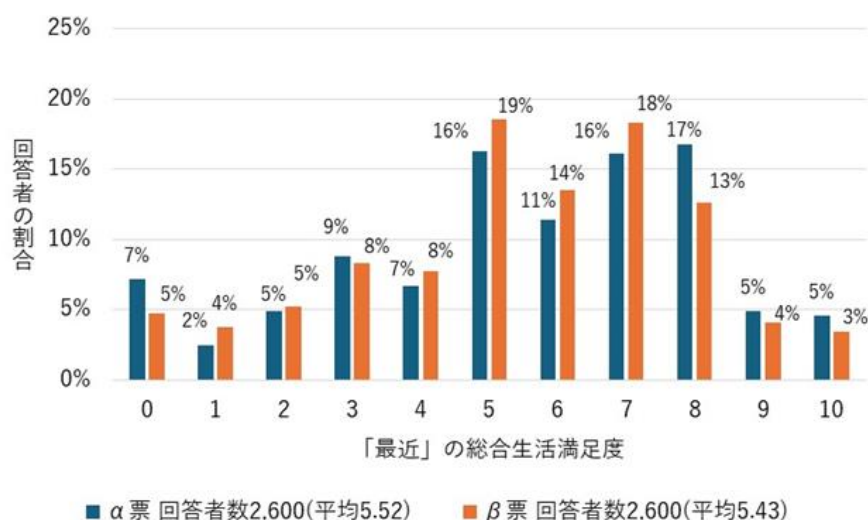
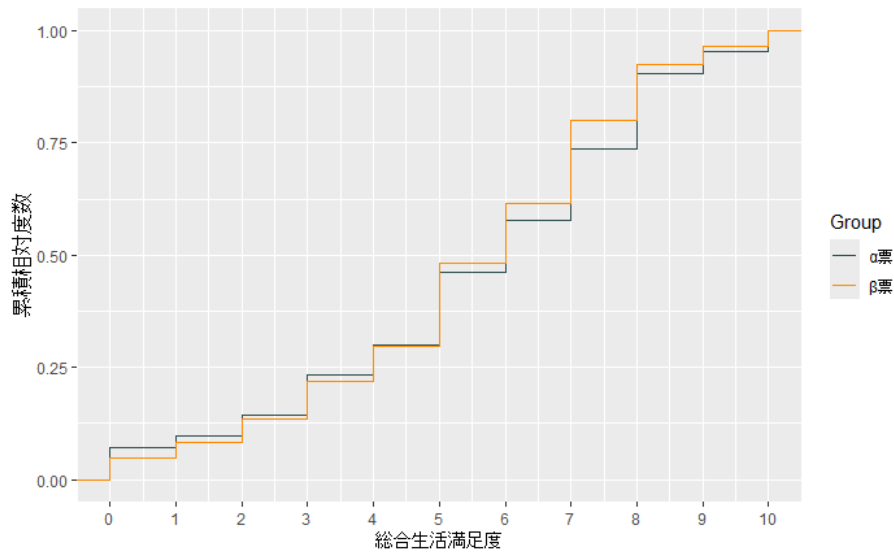


図 19 「最近」の総合生活満足度の累積分布



加えて、上記の分布が統計的に有意な差が生じているかを確認した。 α 票、 β 票の2つの標本についてそれぞれの母集団の確率分布が一致しているかどうかコルモゴロフスミルノフ検定(離散値補正)を行ったところ、2群の総合生活満足度の分布には有意差が認められた($D = 0.061, p < 0.001$)。続いて、同様にカイ二乗同質性検定を行った結果、2群の総合生活満足度の分布には有意差が認められた($\chi^2(df = 10) = 56.389, p < 0.001$)。 α 票のデータの総合生活満足度別の度数、期待度数、調整済み残差は表 16 に示すとおりであった。調整済み残差は満足度 0 と 8 において差が大きいことが観察された。

表 16 カイ二乗同質性検定におけるクロス集計結果(α 票と β 票の総合生活満足度比較)

| 総合生活満足度 | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 度数 | 186 | 64 | 127 | 229 | 174 | 423 | 297 | 419 | 436 | 127 | 118 |
| 期待度数 | 154.0 | 80.5 | 131.0 | 222.0 | 187.5 | 452.5 | 324.0 | 447.5 | 381.5 | 116.0 | 103.5 |
| 調整済み残差 | 3.76 | -2.64 | -0.51 | 0.69 | -1.45 | -2.16 | -2.27 | -2.09 | 4.27 | 1.48 | 2.06 |

● 領域別生活満足度の比較結果

続いて、 α 票と β 票で参照期間が「最近」である領域別生活満足度を比較したところ、平均値の差は労働の領域別生活満足度で最も大きく、その差は0.11であった(α 票=5.06、 β 票=5.17)。次に調査票間の回答傾向を把握するため、各選択肢への回答分布を確認した(図20～図26)。

図20 領域別生活満足度(住宅)の回答分布の比較：
 α 票(先に総合生活満足度) vs β 票(先に領域別生活満足度)

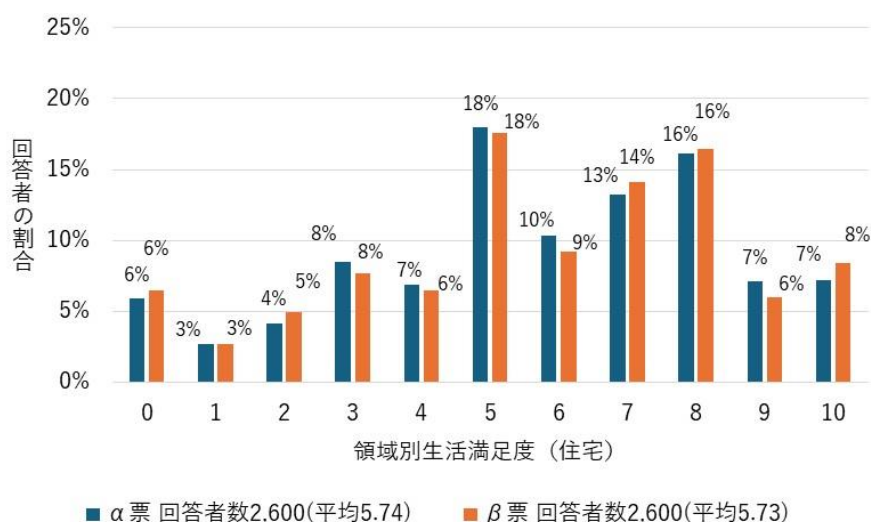


図21 領域別生活満足度(家計)の回答分布の比較：
 α 票(先に総合生活満足度) vs β 票(先に領域別生活満足度)

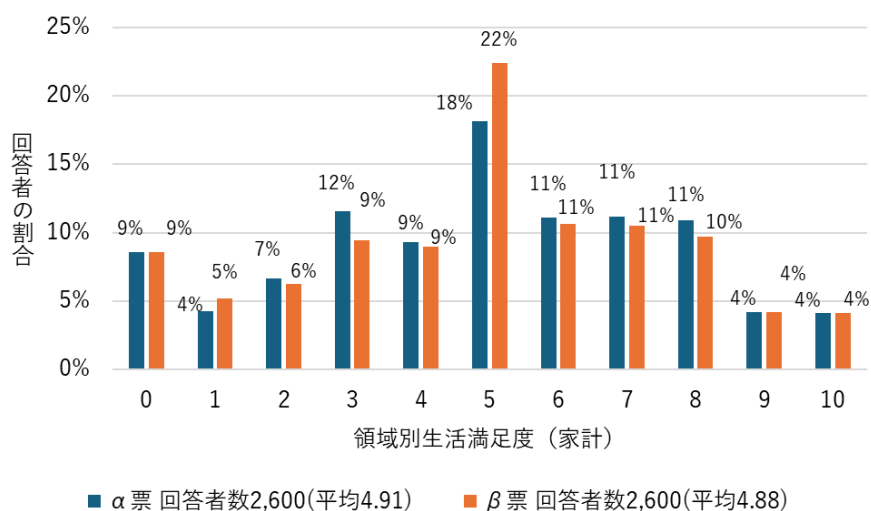


図 22 領域別生活満足度(育児)の回答分布の比較：
 α 票(先に総合生活満足度) vs β 票(先に領域別生活満足度)

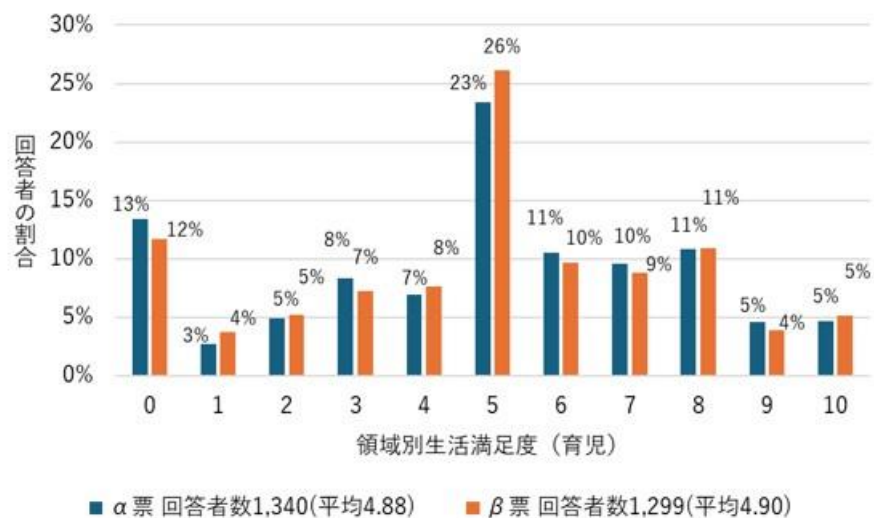


図 23 領域別生活満足度(労働)の回答分布の比較：
 α 票(先に総合生活満足度) vs β 票(先に領域別生活満足度)

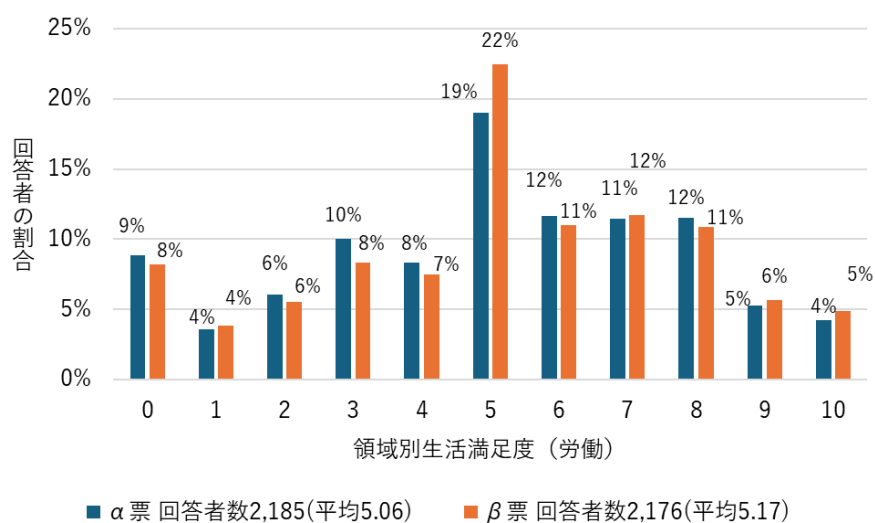


図 24 領域別生活満足度(教育)の回答分布の比較：
 α 票(先に総合生活満足度) vs β 票(先に領域別生活満足度)

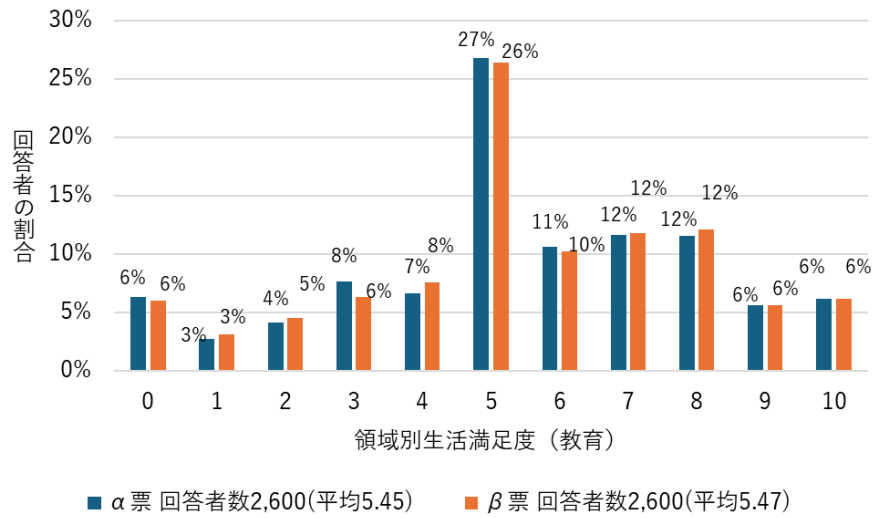


図 25 領域別生活満足度(所得)の回答分布の比較：
 α 票(先に総合生活満足度) vs β 票(先に領域別生活満足度)

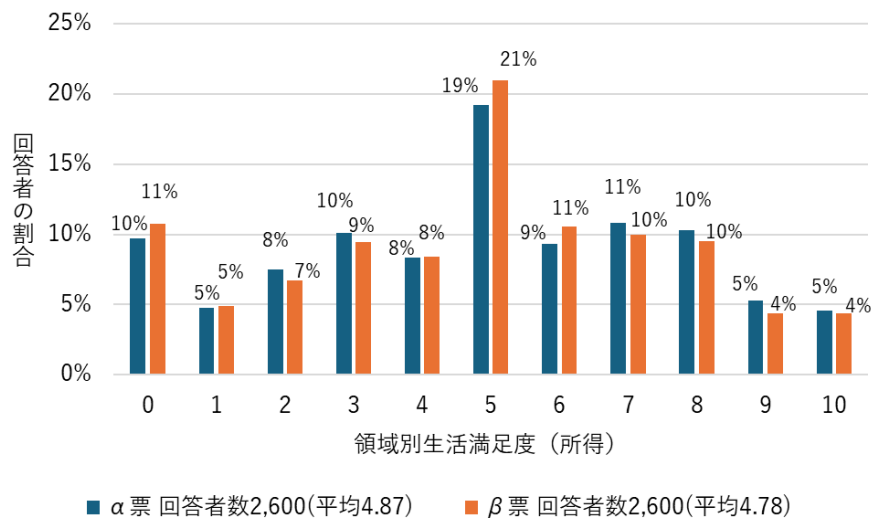
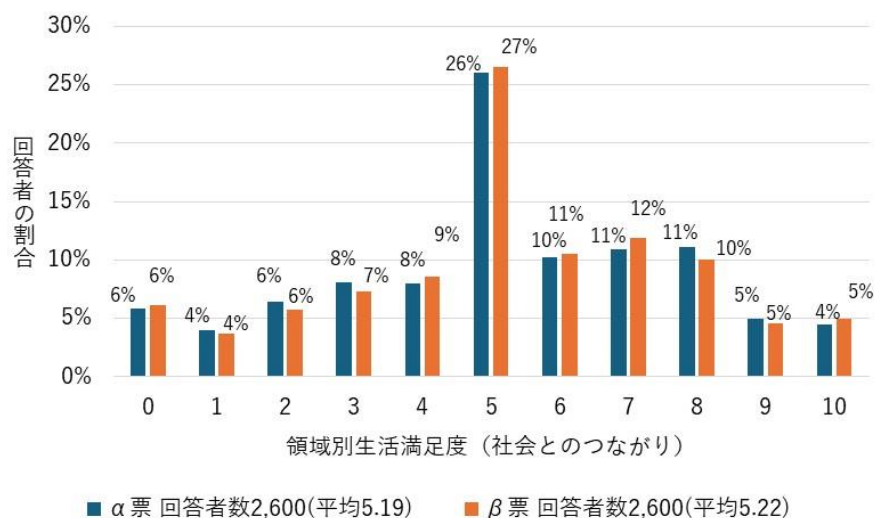


図 26 領域別生活満足度(社会とのつながり)の回答分布の比較：
 α 票(先に総合生活満足度) vs β 票(先に領域別生活満足度)



加えて、上記の分布が統計的に有意な差が生じているかを確認した。カイ二乗同質性検定を行った結果、2群の領域別生活満足度(家計)の分布でのみ有意差が認められた($\chi^2(df = 10) = 22.533, p = 0.013$)。有意差が認められた領域別生活満足度(家計)について、 α 票のデータの総合生活満足度別の度数、期待度数、調整済み残差を表 17 に示す。

表 17 カイ二乗同質性検定におけるクロス集計結果(α 票と β 票の領域別生活満足度(家計)比較)

| 領域別生活満足度 (家計) | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
|---------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 度数 | 223 | 111 | 173 | 300 | 242 | 471 | 289 | 291 | 284 | 109 | 107 |
| 期待度数 | 223.0 | 123.0 | 167.5 | 273.0 | 237.5 | 526.5 | 283.0 | 282.0 | 268.5 | 109.0 | 107.0 |
| 調整済み残差 | 0.00 | -1.57 | 0.62 | 2.44 | 0.43 | -3.83 | 0.53 | 0.80 | 1.41 | 0.00 | 0.00 |

● 総合生活満足度と領域別生活満足度との関係性

次に、総合生活満足度と各領域別生活満足度との相関関係を集計した結果を以下に示す(表 18、表 19)。集計の結果、総合生活満足度との相関係数が最も大きかった領域は、 α 票では家計に関する領域別生活満足度、 β 票では所得に関する領域別生活満足度であった。同化効果によって、総合生活満足度と近接する領域別生活満足度(α 票:住宅、 β 票:社会とのつながり)との相関関係が特に強くなることも想定されたが、そのような結果は得られなかった。

表 18 総合生活満足度及び各領域別生活満足度の相関： α 票(先に総合生活満足度)

| α 票 | 総合生活満足度 | 領域別生活満足度 | | | | | | |
|------------|---------|----------|------|------|------|------|------|----------|
| | | 住宅 | 家計 | 育児 | 労働 | 教育 | 所得 | 社会とのつながり |
| 総合生活満足度 | 1.00 | | | | | | | |
| 領域別生活満足度 | | | | | | | | |
| 住宅 | 0.63 | 1.00 | | | | | | |
| 家計 | 0.71 | 0.68 | 1.00 | | | | | |
| 育児 | 0.29 | 0.37 | 0.31 | 1.00 | | | | |
| 労働 | 0.53 | 0.49 | 0.55 | 0.49 | 1.00 | | | |
| 教育 | 0.63 | 0.67 | 0.68 | 0.39 | 0.57 | 1.00 | | |
| 所得 | 0.69 | 0.63 | 0.87 | 0.29 | 0.56 | 0.70 | 1.00 | |
| 社会とのつながり | 0.66 | 0.65 | 0.70 | 0.35 | 0.55 | 0.74 | 0.73 | 1.00 |

表 19 総合生活満足度及び各領域別生活満足度の相関： β 票(先に領域別生活満足度)

| β 票 | 総合生活満足度 | 領域別生活満足度 | | | | | | |
|-----------|---------|----------|------|------|------|------|------|----------|
| | | 住宅 | 家計 | 育児 | 労働 | 教育 | 所得 | 社会とのつながり |
| 総合生活満足度 | 1.00 | | | | | | | |
| 領域別生活満足度 | | | | | | | | |
| 住宅 | 0.66 | 1.00 | | | | | | |
| 家計 | 0.75 | 0.66 | 1.00 | | | | | |
| 育児 | 0.32 | 0.38 | 0.34 | 1.00 | | | | |
| 労働 | 0.54 | 0.51 | 0.52 | 0.52 | 1.00 | | | |
| 教育 | 0.68 | 0.63 | 0.68 | 0.39 | 0.58 | 1.00 | | |
| 所得 | 0.75 | 0.61 | 0.83 | 0.31 | 0.53 | 0.71 | 1.00 | |
| 社会とのつながり | 0.69 | 0.60 | 0.65 | 0.39 | 0.55 | 0.74 | 0.70 | 1.00 |

さらに、4つの統計量に基づき、総合生活満足度及び領域別生活満足度(群)の回答結果について、 α 票と β 票のいずれにおいて同化効果がより大きいかが検証した(表 20)。比較の結果、 β 票では領域別生活満足度が総合生活満足度と近い値を取りやすい傾向がみられ、また、 α 票では領域別生活満足度のばらつきが大きくなる傾向が確認された。これらの結果から、先に領域別生活満足度を尋ねる β 票において、同化効果がより強く生じている可能性が示唆された。

表 20 一致領域数等を用いた分析

| | 一致領域数 | ± 1 内領域数 | 個人差 総合生活満足度-
平均領域別生活満足度 の平均 | 領域別生活満足度の
個人内分散 |
|------------|-------|--------------|--------------------------------|--------------------|
| α 票 | 1.67 | 3.08 | 0.285 | 2.41 |
| β 票 | 1.77 | 3.37 | 0.213 | 2.22 |

※一致領域数：総合生活満足度と評価が同じだった領域の数（0～5領域）

※ ± 1 内領域数：総合生活満足度との差が ± 1 の範囲に収まった領域の数（0～5領域）

※個人差|総合生活満足度-平均領域別生活満足度|の平均：個人内の総合生活満足度と平均領域別生活満足度の差の大きさを、集団全体で平均した値

※5領域：①住宅の質・居住環境、②家計支出状況・やりくり、③あなたご自身の教育環境・教育水準、④世帯・自身の所得や資産、⑤社会とのつながり

※該当世帯のみを対象とした育児の状況と就労状況・労働環境については分析から除外した。

4) 満足と不満の回答差異

満足と不満の回答差異の検証においては、まず各調査票において 0～10 の尺度の総合生活満足度を尋ね、次に同調査票内で 0～10 の尺度の不満を尋ねた。

α 票、 β 票それぞれで総合生活満足度と不満の回答内容を比較した結果を以下に示す(図 27、図 28)。比較の結果、平均値の差は α 票で 0.24(総合生活満足度=5.52、不満=5.28)、 β 票で 0.28(総合生活満足度=5.43、不満=5.15)であった。また、各選択肢の回答割合の比較において、総合生活満足度と比較して不満では中間選択肢である「5」を選択する割合が高くなる傾向がみられた。

なお、調査票では不満は 0 が「全く不満はない」、10 が「非常に不満である」としているが、この検討での分析に当たっては、数値を反転させて集計した。また、 α 票においては、直前に回答選択肢が -5～+5 の bipolar の総合生活満足度を尋ねているため、設問順序の影響が含まれている可能性がある点に留意が必要である。

図 27 総合生活満足度と不満の回答分布の比較： α 票

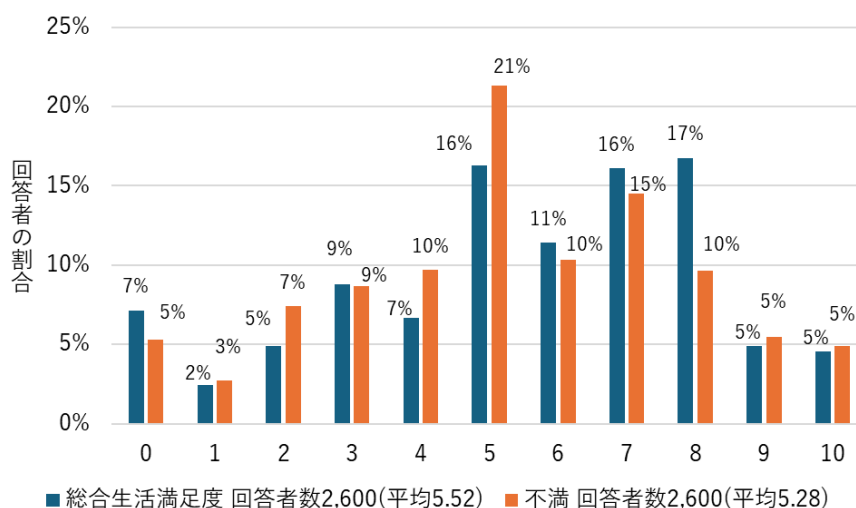
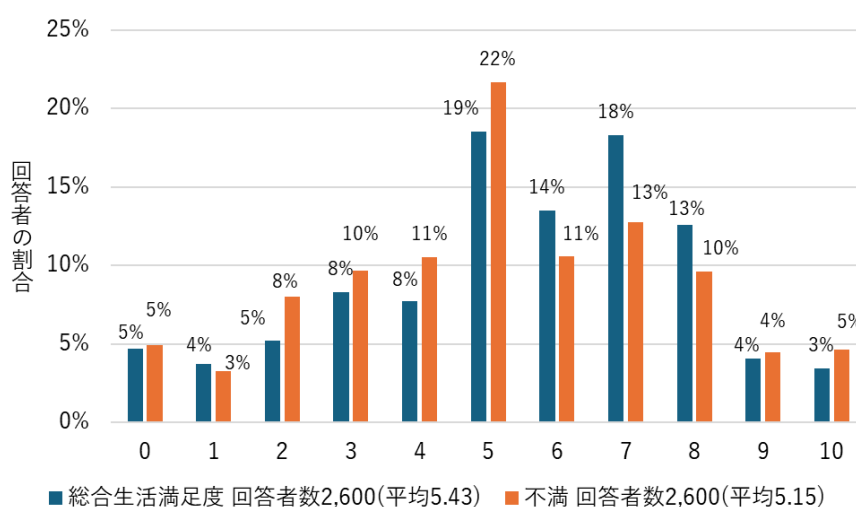


図 28 総合生活満足度と不満の回答分布の比較： β 票



次に、総合生活満足度と不満の相関係数を算出した結果を以下に示す(図 29、図 30)。その結果、 α 票・ β 票のいずれにおいても相関係数は 0.30 程度であった(α 票=0.35、 β 票=0.32)。

図 29 総合生活満足度と不満の相関： α 票

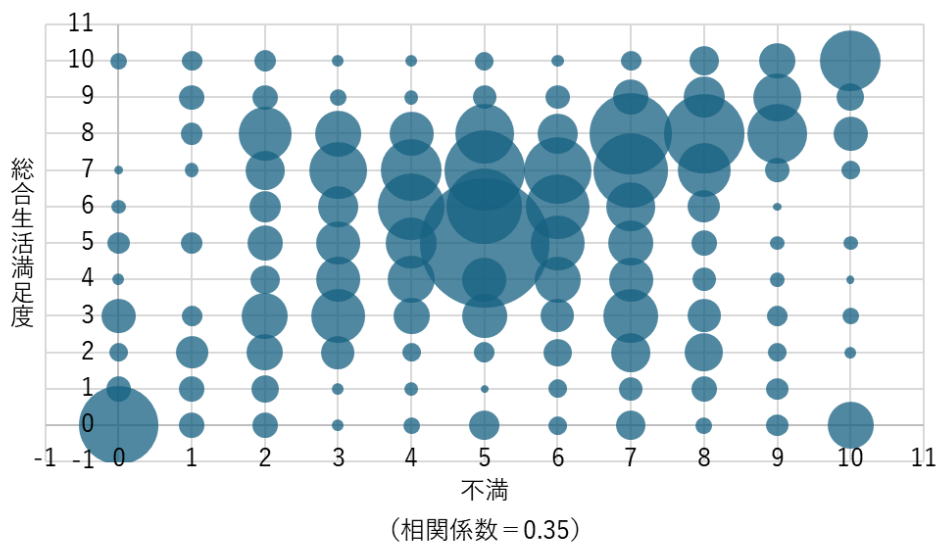
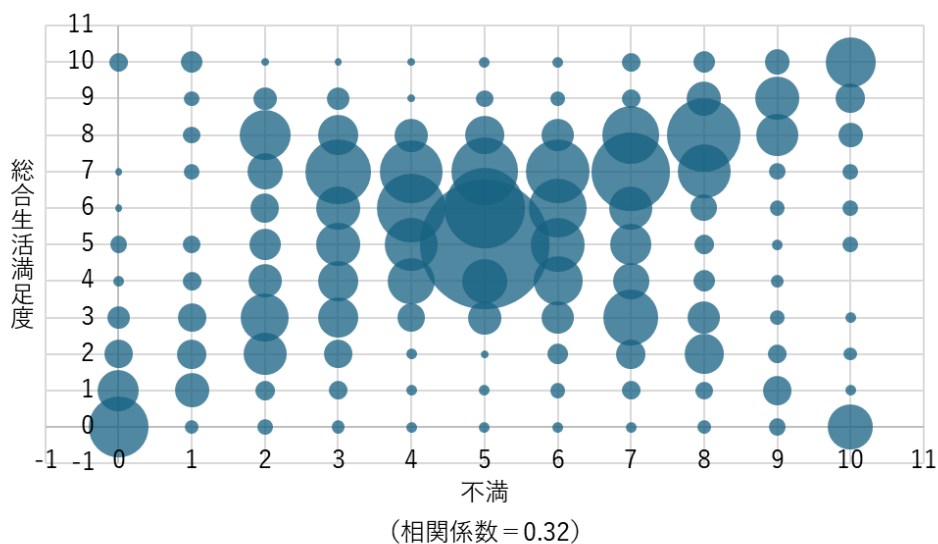


図 30 総合生活満足度と不満の相関： β 票



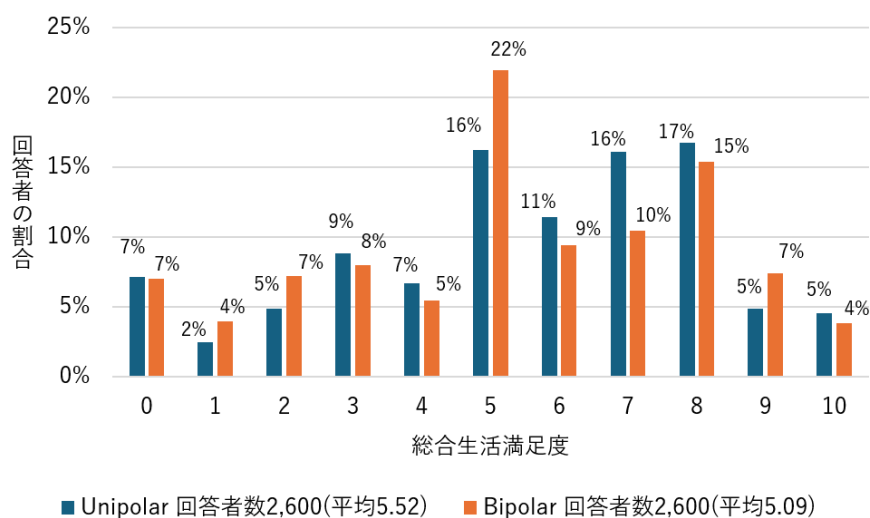
さらに、分布に統計的に有意な差が生じているかを確認するために、スチュアート・マクスウェル検定を実施した。その結果、 α 票内の総合生活満足度と不満では統計的に有意な差が認められた($p < 0.001$)。同様に、 β 票内の総合生活満足度と不満でも統計的に有意な差が認められた($p < 0.001$)。

● 回答選択肢の方向性

不満に関連して、回答選択肢の方向性を変えることによる回答内容への影響の検証においては、 α 票では総合生活満足度について、回答選択肢が0～10のunipolarと回答選択肢が-5～+5のbipolarの二つの方法で尋ねた。

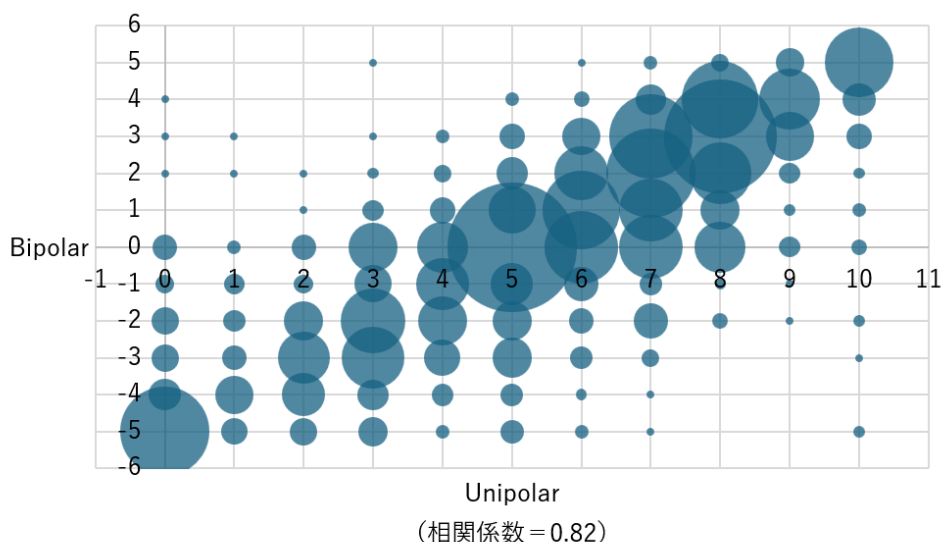
回答選択肢が0～10であるunipolarの総合生活満足度(α 票)と回答選択肢が-5～+5であるbipolarの総合生活満足度(α 票)を比較した結果を図31に示す。ここでは比較のために、bipolarの選択肢の値に5をプラスした値に変換している。その結果、平均値の差は0.43であった。また、回答分布の比較においては、unipolarの総合生活満足度と比較してbipolarの総合生活満足度では、ちょうど中間の選択肢を選択する割合が高くなる傾向がみられた。

図 31 総合生活満足度(unipolar)と総合生活満足度(bipolar)の回答分布の比較： α 票



次に、回答選択肢が 0～10 である unipolar の総合生活満足度(α 票)と回答選択肢が -5～+5 である bipolar の総合生活満足度(α 票)の相関係数を集計した結果を図 32 に示す。集計の結果、相関係数は 0.82 であった。

図 32 総合生活満足度(unipolar)と総合生活満足度(bipolar)の相関: α 票



続いて、統計的に有意な差が生じているかを確認するために、まず、ウィルコクソンの符号付き順位検定を実施した(多重検定補正はボンフェローニ法)。その結果、unipolar 型の総合生活満足度と bipolar 型の総合生活満足度では統計的に有意な差が認められた($p < 0.001$)。

さらに、スチュアート・マクスウェル検定を実施した結果も、unipolar 型の総合生活満足度と bipolar 型の総合生活満足度では統計的に有意な差が認められた($p < 0.001$)。

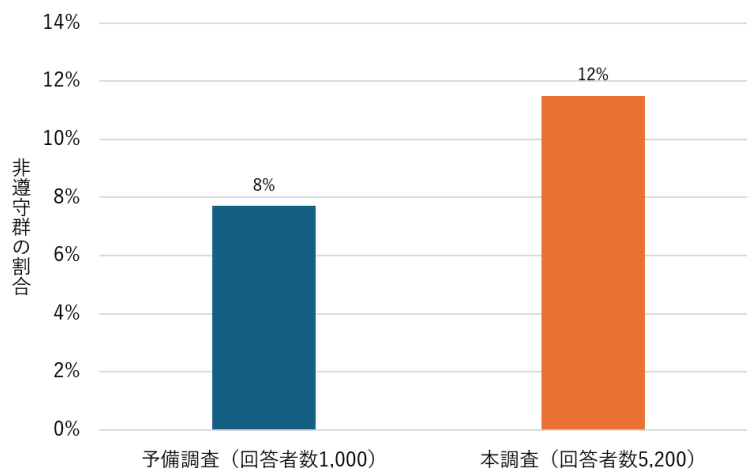
5) 調査項目数の多さが回答に与える影響

調査項目数が回答者の回答傾向にどのような影響を与えているかを確認するため、予備調査と本調査それぞれに配置した DQS(Directed Question Scale)設問の回答結果を比較することで検証した。今回実施したアンケート調査の設問数は分岐設問等を含み、予備調査で 50 問、本調査で 110 問あった。そのうち予備調査の 44 問目、本調査の 90 問目に DQS 設問として「画面表示・動作の確認です。この設問では、内容にかかわらず『趣味やスポーツに熱中している時』を選んでください。」と直接回答選択肢を選ぶように指示し、指示に従った回答を「遵守群」、従わなかった回答を「非遵守群」と定義した。

各調査における DQS の遵守群・非遵守群の割合は、予備調査(回答者数 1,000)では遵守群が 92.3%、非遵守群が 7.7%だったところ、本調査(回答者数 5,200)では遵守群が 88.5%、非遵守群が 11.5%だった(図 33)。両調査における割合に統計的に有意な差が生じているかをカイ二乗同質性検定により検討した結果、両調査間で群の分布に有意差が認められた($\chi^2(df = 1) = 11.878, p < 0.001$)。本調査では予備調査と比較し

て非遵守群の割合が有意に高く、調査項目数の増加との関連が示唆された。この要因として、調査疲れに起因する回答精度の低下や省力化が考えられる。

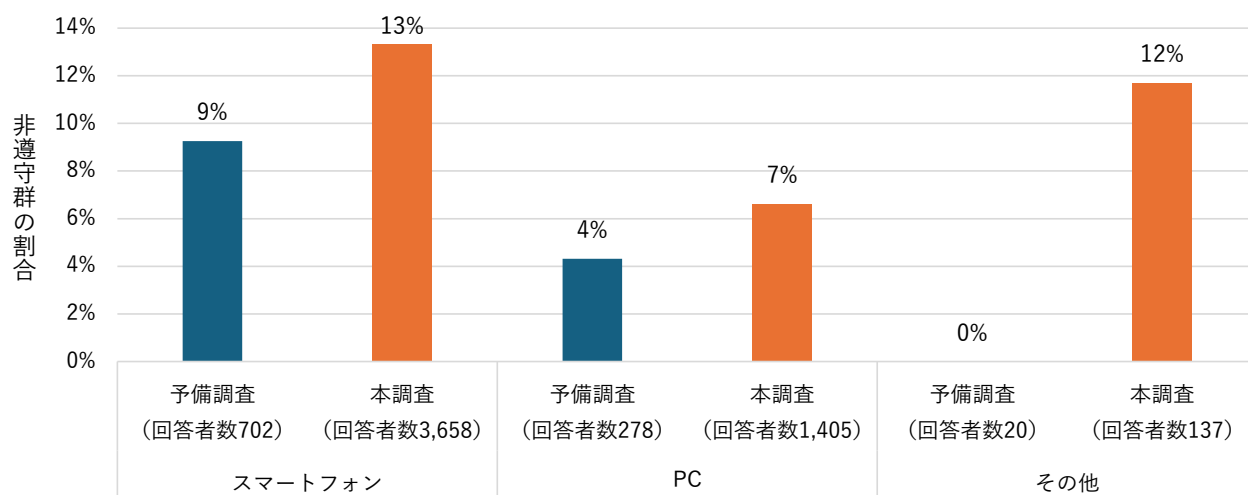
図 33 非遵守群の割合の比較: 予備調査 vs 本調査



● 回答用デバイス別の DQS 回答の傾向

次に、両調査における DQS の遵守群・非遵守群の割合をデバイス別に調べた。図 34 に示すとおり、スマートフォンでは、非遵守群の割合は予備調査が 9%、本調査が 13%、PC では予備調査が 4%、本調査が 7%、その他では予備調査が 0%、本調査が 12%だった。

図 34 デバイス別非遵守群の割合の比較: 予備調査 vs 本調査



上記の回答分布が統計的に有意な差が生じているかをカイ二乗同質性検定によって確認した。その結果、まずスマートフォンでは、両調査での割合の差に統計的に有意な差が認められた($\chi^2(df = 1) = 8.754, p = 0.0031$)。次に、PC では、統計的に有意な差は確認されなかった($\chi^2(df = 1) = 2.1036, p = 0.1469$)。最後に、その他のデバイスでは、予備調査の非遵守群が 0 件であったため、カイ二乗検定の適用条件(期待度数 5 以上)を満たさないため、フィッシャーの正確確率検定を適用して検証を行った。その結果、予備調査と本調査の間で統計的に有意な差は認められなかった($p = 0.2263$, 両側)。各デバイス別の非遵守群の度数、期待度数、調整済み残差を表 21 に示す。

表 21 カイ二乗同質性検定におけるクロス集計結果(予備調査と本調査のデバイス別 DQS 回答)

| デバイス | 調査種別 | 指標 | 遵守群 | 非遵守群 |
|---------|------|-------|---------|--------|
| スマートフォン | 予備調査 | 度数 | 637 | 65 |
| | | 期待度数 | 613.12 | 88.88 |
| | | 調整済残差 | 2.96 | -2.96 |
| | 本調査 | 度数 | 3171 | 487 |
| | | 期待度数 | 3194.88 | 463.12 |
| | | 調整済残差 | -2.96 | 2.96 |
| PC | 予備調査 | 度数 | 266 | 12 |
| | | 期待度数 | 260.66 | 17.34 |
| | | 調整済残差 | 1.45 | -1.45 |
| | 本調査 | 度数 | 1312 | 93 |
| | | 期待度数 | 1317.34 | 87.66 |
| | | 調整済残差 | -1.45 | 1.45 |
| その他 | 予備調査 | 度数 | 20 | 0 |
| | | 期待度数 | 17.96 | 2.04 |
| | | 調整済残差 | 1.61 | -1.61 |
| | 本調査 | 度数 | 121 | 16 |
| | | 期待度数 | 123.04 | 13.96 |
| | | 調整済残差 | -1.61 | 1.61 |

コラム5:調査項目数とストレートライナーの関係

アンケートでは、複数の項目を一覧表形式で回答する設問（マトリックス設問）がある。こうした設問では、全項目で同一の選択肢を選択する連続同一回答が発生することがあり、そのような回答者は「ストレートライナー」と呼ばれている。内容・形式によっては適正な回答と見なしうる場合もあるが、短時間での回答終了のみを目的としたストレートライナーが一定数発生することが知られている。本分析では、調査項目数の多さが回答に与える影響について、ストレートライナーの発生状況から分析を試みた。

今回は、「指示どおりに回答したか否か」を確認する設問（DQS）を活用し、回答者を以下の2群に分類した（全回答者：5,200人、遵守群（指示どおりに回答）：4,604人（88.5%）、非遵守群（指示に従わず回答）：596人（11.5%））。

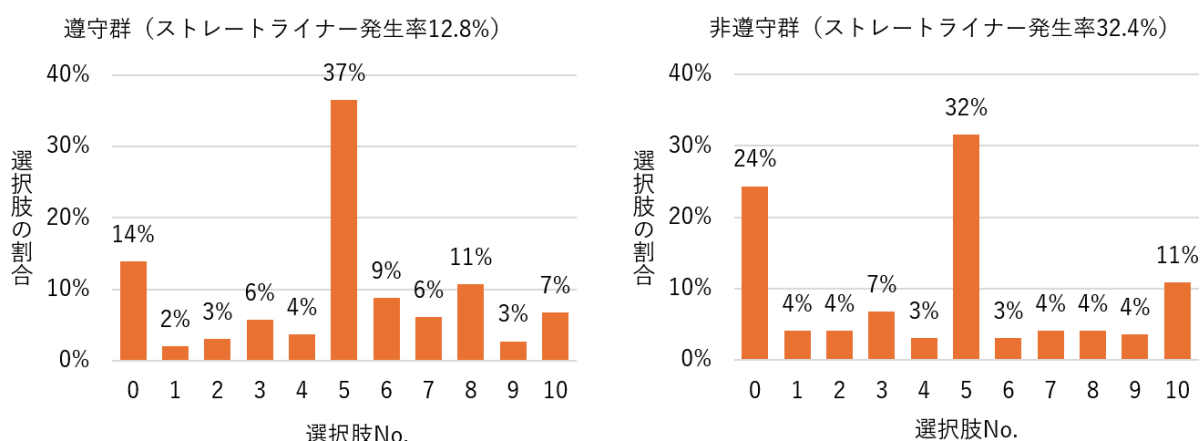
ストレートライナーの発生状況は、調査票の序盤・中盤に配置された3つのマトリックス設問で確認した。なお、全設問数は90を超える。各設問の調査票内の位置は以下のとおりである。

- ・領域別生活満足度（7領域）※第1～10問前後
- ・感情経験（9分野）※第20問前後
- ・主観的健康（5分野）※第30問前後

（1）領域別生活満足度

領域別生活満足度の設問は0～10の11件法（0：全く満足していない、10：非常に満足している）で、住宅、家計、育児、就業、教育、財産、社会とのつながりの7領域である。ストレートライナーが選んだ回答選択肢の割合を示す。7領域のストレートライナーの数は、左の遵守群で591人（遵守群中の発生率12.8%）、右の非遵守群で193人（非遵守群中の発生率32.4%）であり、発生率は非遵守群の方が高くなっている（図35）。

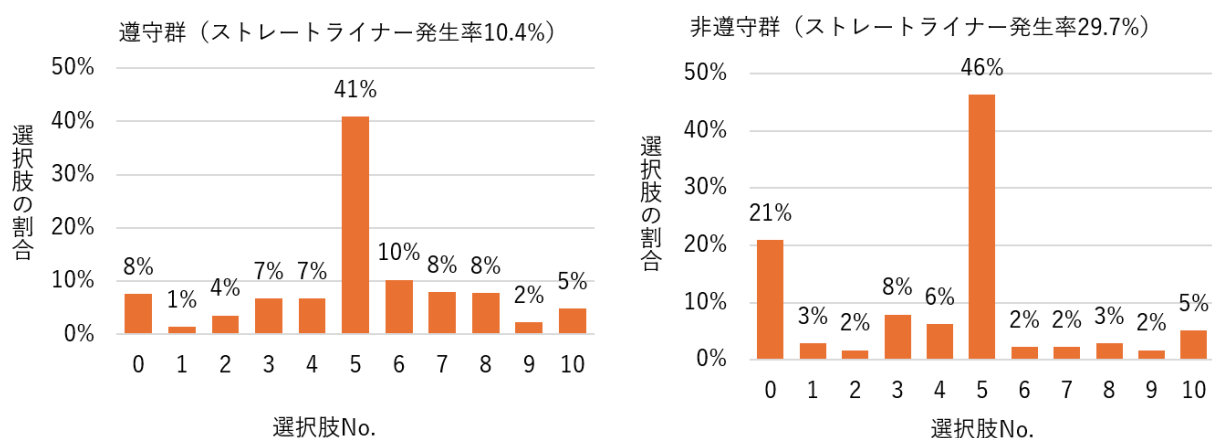
図 35 ストレートライナーが選んだ回答選択肢の割合（領域別生活満足度）



(2) 感情経験

感情経験の設問も0～10の11件法（0:全くない、10:常に（一日中））で、幸せ、心配、落ち着き、悲しみ、怒り、楽しみ、疲れ、ストレス、笑いの9分野である。9分野のストレートライナーは、左の遵守群で477人（発生率10.4%）、右の非遵守群では177人（発生率29.7%）で、非遵守群の発生率は遵守群と比べて約3倍程度と高くなっている（図36）。

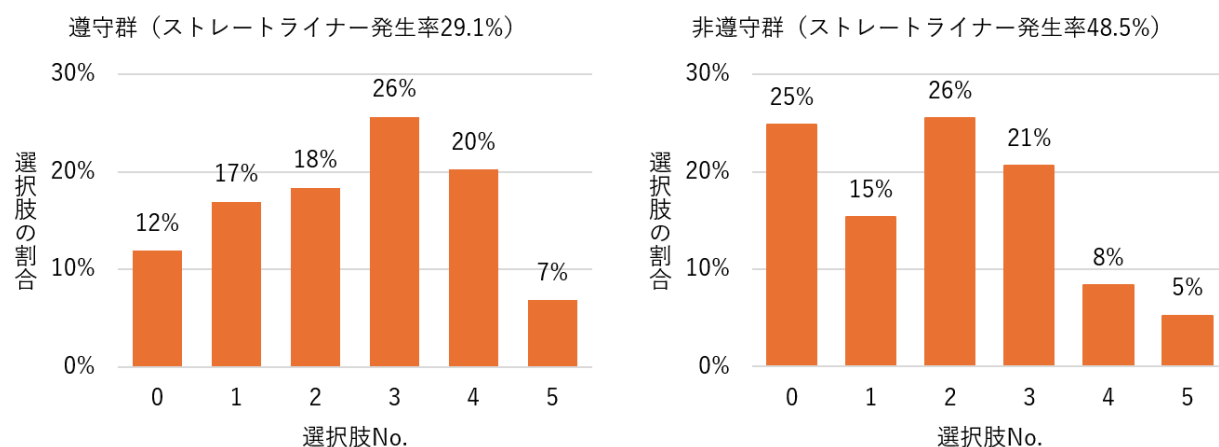
図36 ストレートライナーが選んだ回答選択肢の割合(感情経験)



(3) 主観的健康

主観的健康の設問は0～5の6件法（0:全くない、1：ほんのたまに、2：半分未満の期間を、3：半分以上の期間を、4：ほとんどいつも、5：いつも）で、明るい気分、リラックス、意欲的、睡眠十分、好奇心旺盛の5項目である。5項目のストレートライナーの数は、遵守群で1,399人（発生率29.1%）、非遵守群では289人（発生率48.5%）で、発生率は非遵守群の方が高い。さらに、ストレートライナーの数と発生率が前の2設問に比して、両群ともに大きく上昇している（図37）。

図37 ストレートライナーが選んだ回答選択肢の割合(主観的健康)



（４）設問提示順及び設問どうしの組合せとストレートライナー数、発生率

複数のマトリックス設問（領域別生活満足度、感情経験、主観的健康）に渡ってストレートライナーが発生する状況について検討した結果を図 38 に示す。図 38 の表記について、例えば $A7 \cap A13$ とは「領域別満足と感情経験のいずれの設問にも同時にストレートライナーであった回答者」の意味で、非遵守群では 137 人（ストレートライナー発生率 23.0%）となっている。

図 38 ストレートライナーの発生率（設問提示順、設問どうしの組合せ）

| | 領域別
満足度 | 感情経験 | 主観的
健康 | 設問どうしの組合せ | | | |
|-------------------|------------|------------|------------|---------------------------------|---------------------------------|----------------------------------|--|
| 遵守群=4604 | A7 | A13 | A17 | $A7 \cap A13$ | $A7 \cap A17$ | $A13 \cap A17$ | $A7 \cap A13 \cap A17$ |
| ライナー数 | 591 | 477 | 1399 | 265 | 421 | 358 | 223 |
| 遵守群のうち
ライナー発生率 | 12.8% | 10.4% | 30.4% | 5.8% | 9.1% | 7.8% | 4.8% |

| | 領域別
満足度 | 感情経験 | 主観的
健康 | 設問どうしの組合せ | | | |
|--------------------|------------|------------|------------|---------------------------------|---------------------------------|----------------------------------|--|
| 非遵守群=596 | A7 | A13 | A17 | $A7 \cap A13$ | $A7 \cap A17$ | $A13 \cap A17$ | $A7 \cap A13 \cap A17$ |
| ライナー数 | 193 | 177 | 286 | 137 | 166 | 149 | 125 |
| 非遵守群のうち
ライナー発生率 | 32.4% | 29.7% | 48.0% | 23.0% | 27.9% | 25.0% | 21.0% |

図 38 からは、いずれの単一設問及びその組み合わせにおいても、非遵守群は遵守群と比較してストレートライナー発生率が高くなっている。特に、単一設問では、設問提示順が遅い主観的健康において、前述したとおり発生率が大きく上昇していることがわかる。また、複数設問の組合せにおいても非遵守群のストレートライナー発生率が、遵守群に比べて高い傾向が確認された。例えば 3 つの設問全てで同時にストレートライナーであった $A7 \cap A13 \cap A17$ に関しては、非遵守群では 21.0%と、遵守群の 4.8%を大きく上回る非常に高い値を示した。

以上の分析結果をまとめると、

① 設問数が多い調査票では、序盤と比べて中盤においてストレートライナーの発生率が高い

② 非遵守群では遵守群と比較してストレートライナーの発生率が高いことが示された（表 22）。①については、質問量の多い調査票の後半でストレートライナーが多くなるという先行研究（Herzog & Bachman(1981)）と、②については、非遵守者の方が遵守者と比較してストレートライナーの発生率が高いという先行研究（増田 et al.(2016)）と、それぞれ整合する結果であった。

表 22 ストレートライナーの発生率一覧

| | ストレートライナー発生率 | |
|-------------|--------------|-------|
| | 遵守群 | 非遵守群 |
| (1)領域別生活満足度 | 12.8% | 32.4% |
| (2)感情経験 | 10.4% | 29.7% |
| (3)主観的健康 | 29.1% | 48.5% |

ただし、序盤の2つのマトリックス設問と中盤のマトリックス設問との間には、選択肢の件数や選択肢に付された言語ラベルの付与方法（11件法では両端のみ、6件法では全項目に付与）が異なるほか、図 35、図 36と図 37との間でストレートライナーの分布の形状にも差異が認められるなど、先行研究とは条件を異にする点が存在する。そのため、中盤でストレートライナーが増加した要因の解釈に当たっては、先行研究の知見をそのまま適用することは慎重を要し、一定の留保をもって検討する必要がある。

6) その他調査票設計が回答に与える影響

回答選択肢の件数

回答選択肢の件数を変えることによる回答内容への影響の検証について、ユーダイモニアに関する4つの設問において、 α 票では、回答選択肢が0～10の11件法で、 β 票では回答選択肢が0～6の7件法で尋ねた。

11件法(α 票)と7件法(β 票)で、選択肢の最小値、最大値、及び中央値の回答割合を、ユーダイモニアに関する4つの設問について各々比較した結果を図39～図42に示す。その結果、両端点の割合にはほとんど違いがみられなかった。また、11件法と比較して7件法では中央値の選択肢を選択する割合が高くなる傾向がみられた。ただし、11件法と比較して7件法では尺度が粗い点に留意が必要である。

図39 ユーダイモニア(人生で本当にやりたいことや価値のあることができている)の回答分布の比較:
 α 票(11件法) vs β 票(7件法)

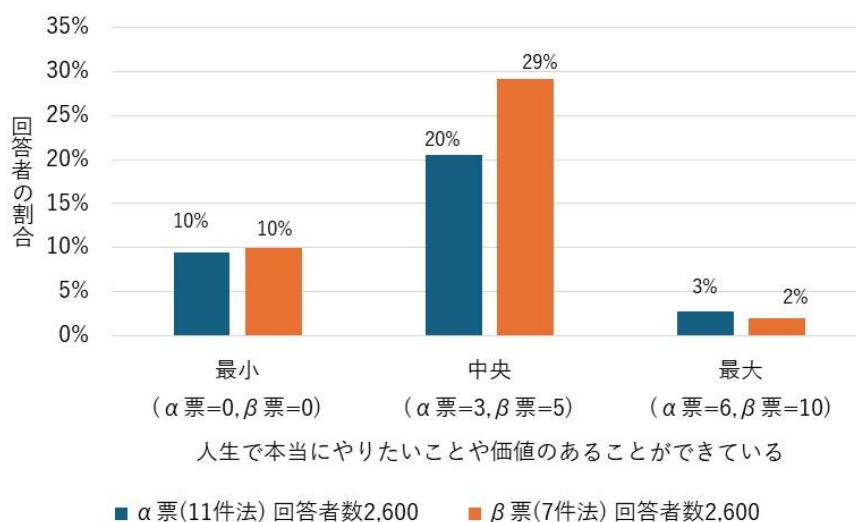


図40 ユーダイモニア(ほぼ毎日、自分の行っていることから達成感を得ている)の回答分布の比較:
 α 票(11件法) vs β 票(7件法)

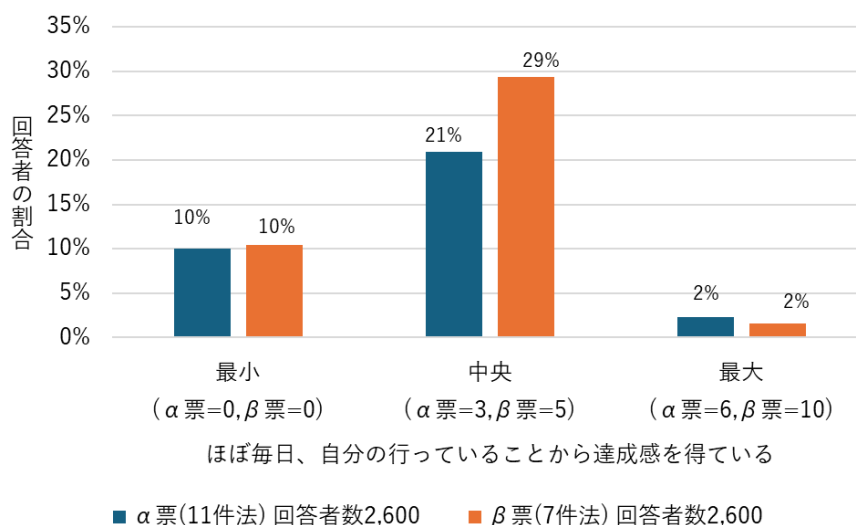


図 41 ユーダイモニア(自身についてとてもポジティブな気持ちをもっている)の回答分布の比較:
 α 票(11 件法) vs β 票(7 件法)

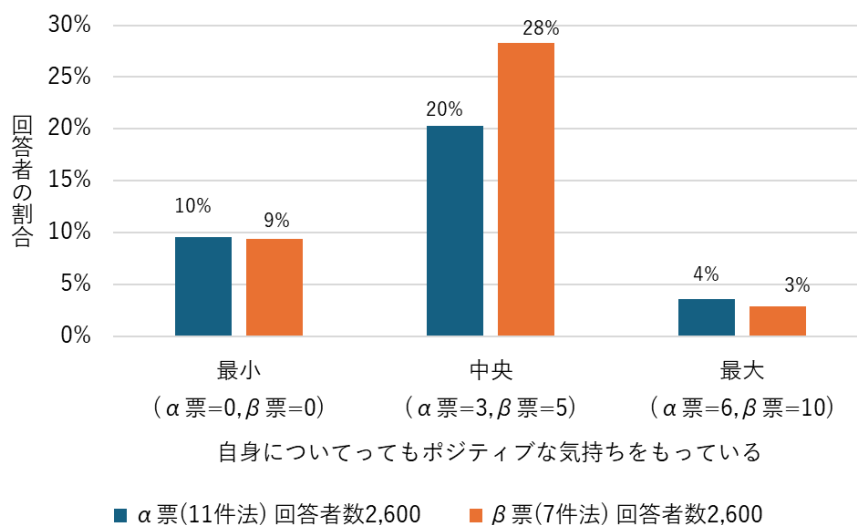
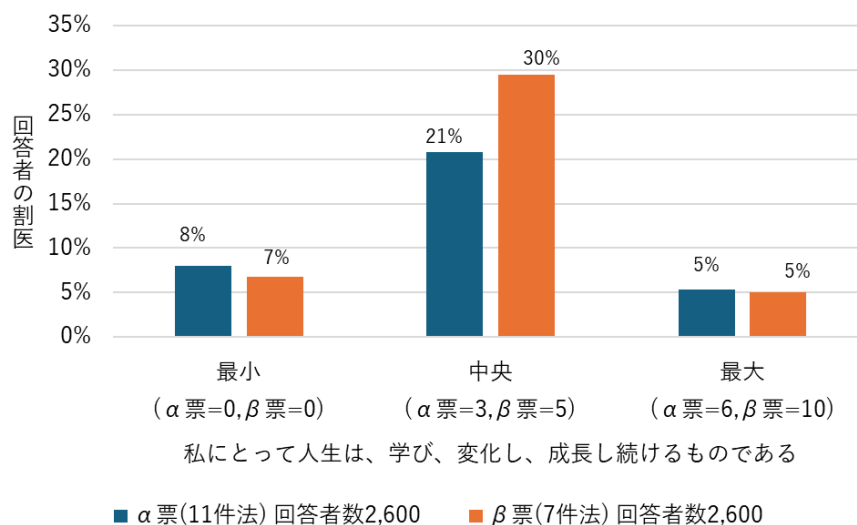
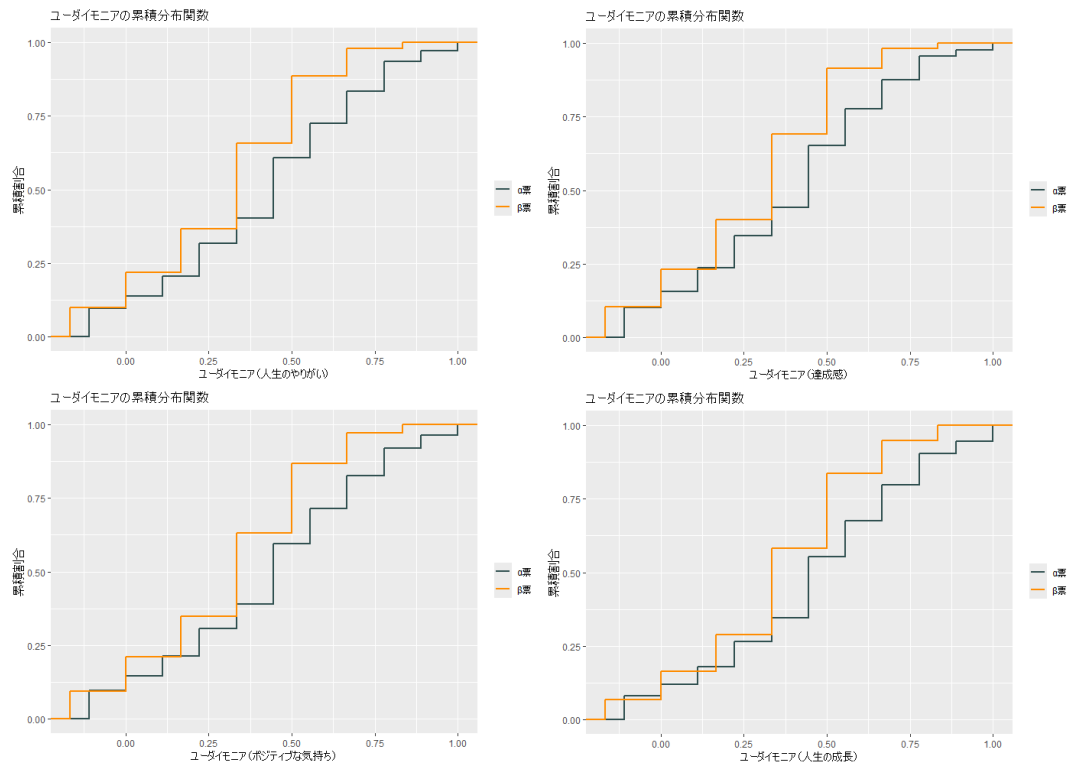


図 42 ユーダイモニア(私にとって人生は、学び、変化し、成長し続けるものである)の回答分布の比較:
 α 票(11 件法) vs β 票(7 件法)



次に、11 件法(α 票)と 7 件法(β 票)の各選択肢の回答割合について累積割合を比較した結果を図 43 に示す。比較の結果、中央付近の選択肢で 11 件法(α 票)と 7 件法(β 票)の差が大きくなる傾向がみられた。

図 43 ユーダイモニアの比較(累積分布)



回答選択肢の表示順序

回答選択肢の表示順序が、回答の選択内容に与える影響の検証については、 α 票では総合生活満足度の回答選択肢の表示順序について左端を 0 とし、右端に向かって 10 に近づいていく 11 件法で、 β 票は総合生活満足度の回答選択肢の表示順序について左端を 10 とし、右端に向かって 0 に近づいていく 11 件法で、それぞれ尋ねた(図 44)。

図 44 調査票の設計(スケールのソート順)

β 票

Q11 必須 全体として、最近の生活にどれくらい満足していますか。
10を「非常に満足している」、0を「全く満足していない」として、10から0のスケールで回答してください。

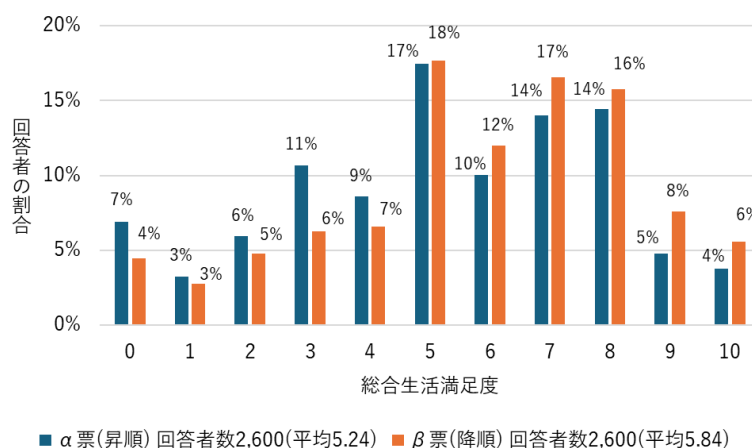
※Q1-2質問とは選択肢の順序が異なっておりますため、ご回答の際にはご注意ください。

| | 1. | 2. | 3. | 4. | 5. | 6. | 7. | 8. | 9. | 10. | 11. |
|----|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| | 10
(非常に満足している) | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0
(全く満足していない) |
| 1. | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |

回答選択肢の表示順序が昇順の総合生活満足度(α 票)と降順の総合生活満足度(β 票)を比較した結果を図 45 に示す。比較の結果、平均値の差は 0.40 であった。また、各選択肢の回答割合の比較において、 α 票では低い総合生活満足度を選択する傾向が、 β 票では高い総合生活満足度を選択する傾向がみられた。

なお、 β 票では前段で昇順の設問を設置したうえで、改めて降順の設問を設置している点に留意が必要である。

図 45 総合生活満足度の回答分布の比較： α 票(昇順) vs β 票(降順)



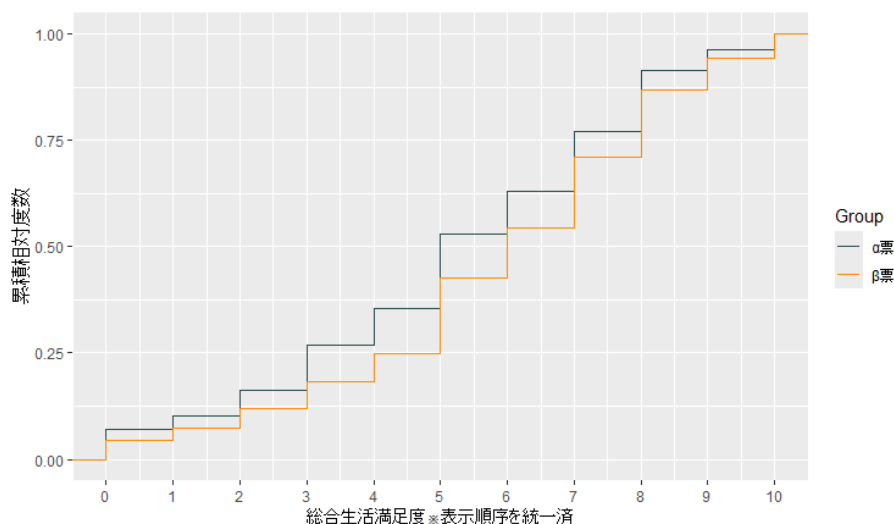
加えて、上記の分布が統計的に有意な差が生じているかを確認した。カイ二乗同質性検定を行った結果、2群の総合生活満足度の分布には有意差が認められた($\chi^2(df = 10) = 91.859, p < 0.001$)。 α 票のデータについて、総合生活満足度別の度数、期待度数、調整済み残差を表 23 に示す。

表 23 カイ二乗同質性検定におけるクロス集計結果(α 票と β 票の総合生活満足度比較)

| 総合生活満足度 | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
|---------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 度数 | 180 | 84 | 155 | 278 | 224 | 454 | 261 | 365 | 376 | 125 | 98 |
| 期待度数 | 148.0 | 78.0 | 139.5 | 220.5 | 197.5 | 457.0 | 286.5 | 397.5 | 393.0 | 161.0 | 121.5 |
| 調整済み残差 | 3.83 | 0.98 | 1.91 | 5.72 | 2.77 | -0.22 | -2.26 | -2.50 | -1.32 | -4.14 | -3.09 |

最後に、 α 票と β 票の総合生活満足度について、コルモゴロフ-スミルノフ検定を行ったところ、2 群の総合生活満足度の分布には有意差が認められた($D = 0.105, p < 0.001$) (図 46)。

図 46 総合生活満足度の比較(累積分布)



回答選択肢のラベルの表示形式

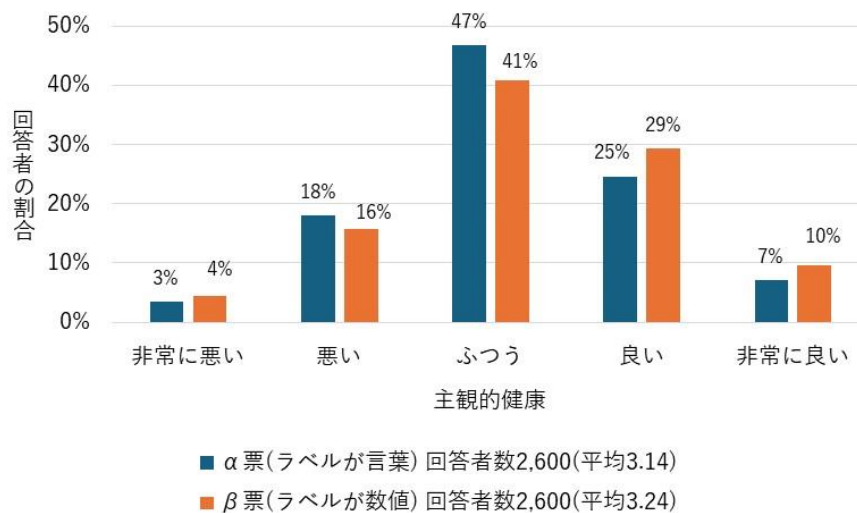
回答選択肢のラベルの表示形式が、回答内容に与える影響の検証においては、 α 票では主観的健康の回答選択肢のラベルを言葉(非常に悪い、悪い、ふつう、良い、非常に良い)で表示し、 β 票では主観的健康の回答選択肢のラベルを数値(1=非常に悪い、5=非常に良い)で表示して、それぞれ尋ねた。なお、数値による表示の際は、両端のみラベルを付与した(図 47)。

図 47 調査票の設計(ラベルが回答に与える影響)

| α 票 | β 票 |
|---|--|
| <p>Q5 必須 総合的に見て、現在の健康状態はいかがですか。</p> <p>→ [非常に悪い] [悪い] [ふつう] [良い] [非常に良い]</p> <p>1. → [] [] [] [] []</p> | <p>Q5 必須 総合的に見て、現在の健康状態はいかがですか。
1を非常に悪い、5を非常に良いとして1～5でお答えください。</p> <p>→ [1 (非常に悪い)] [2] [3] [4] [5 (非常に良い)]</p> <p>1. → [] [] [] [] []</p> |

ラベルが言葉の主観的健康(α 票)とラベルが数値の主観的健康(β 票)を比較した結果を図 48 に示す。比較の結果、平均値の差は 0.10 であった。また、各選択肢の回答割合の比較においては、どちらの票でも中間に相当する選択肢を選択する割合が高かった。

図 48 主観的健康の回答分布の比較： α 票(ラベルが言葉) vs β 票(ラベルが数値)



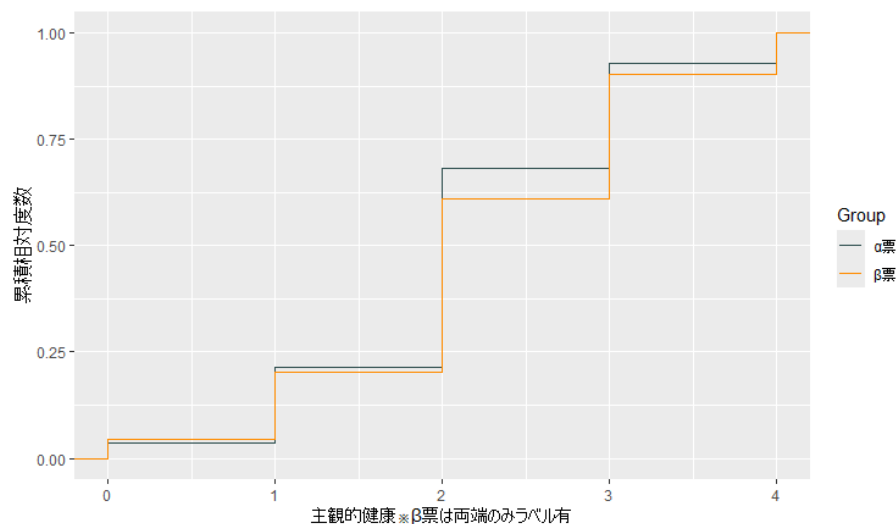
加えて、上記の分布が統計的に有意な差が生じているかを確認した。カイ二乗同質性検定を行った結果、2群の主観的健康の分布には有意差が認められた($\chi^2(df = 4) = 38.826, p < 0.001$)。 α 票のデータについて、主観的健康別の度数、期待度数、調整済み残差を表 24 に示す。

表 24 カイ二乗同質性検定におけるクロス集計結果(α 票と β 票の主観的健康比較)

| 主観的健康 | 非常に悪い | 悪い | ふつう | 良い | 非常に良い |
|--------|-------|-------|--------|-------|-------|
| 度数 | 90 | 468 | 1218 | 641 | 183 |
| 期待度数 | 102.5 | 438.5 | 1140.0 | 702.5 | 216.5 |
| 調整済み残差 | -1.78 | 2.19 | 4.36 | -3.84 | -3.36 |

最後に、 α 票と β 票の主観的健康について、コルモゴロフ-スミルノフ検定を行ったところ、2 群の主観的健康の分布には有意差が認められた ($D = 0.073, p < 0.001$) (図 49)。

図 49 主観的健康の比較(累積分布)



コラム6:DQS・ストレートライナーの回答傾向

以下の DQS 設問において指示に従った群を遵守群・指示に従わなかった群を非遵守と定義した (図 50)。

図 50 調査票の設計(DQS 設問)

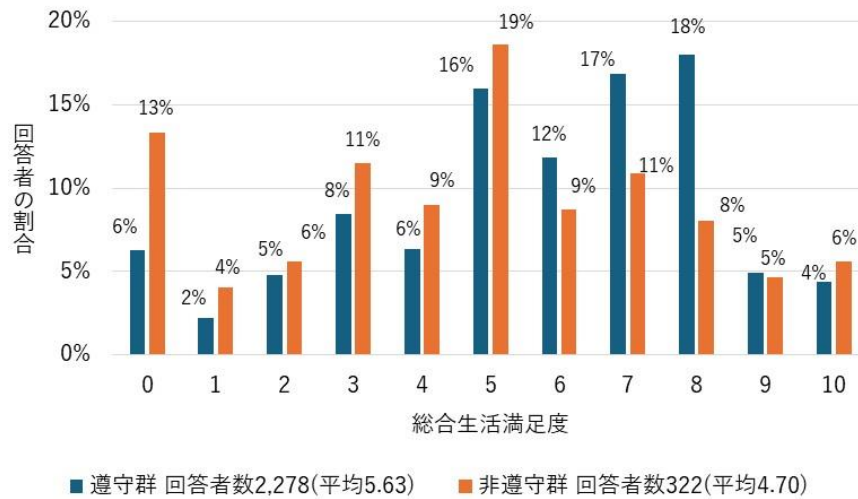
< DQS設問 >

Q43 必須 画面表示・動作の確認です。
この設問では、内容に関わらず「趣味やスポーツに熱中している時」を選んでください。

- ☐ 1. 仕事にうちこんでいる時
- ☐ 2. 勉強や教養などに身を入れている時
- ☐ 3. 趣味やスポーツに熱中している時
- ☐ 4. ゆったりと休養している時
- ☐ 5. 家族団らんの時
- ☐ 6. 友人や知人と会合、雑談している時
- ☐ 7. 社会奉仕や社会活動をしている時
- ☐ 8. その他

遵守群と非遵守群で総合生活満足度（α票）の回答内容を比較した結果を図 51 に示す。比較の結果、平均値の差は 0.93 であった。また、各選択肢の回答割合の比較においては、左端に配置された選択肢「0」又は右側に配置された「7、8」において、遵守群と非遵守群で回答割合に大きな差が認められた。

図 51 遵守群・非遵守群別の総合生活満足度の回答分布の比較：α票



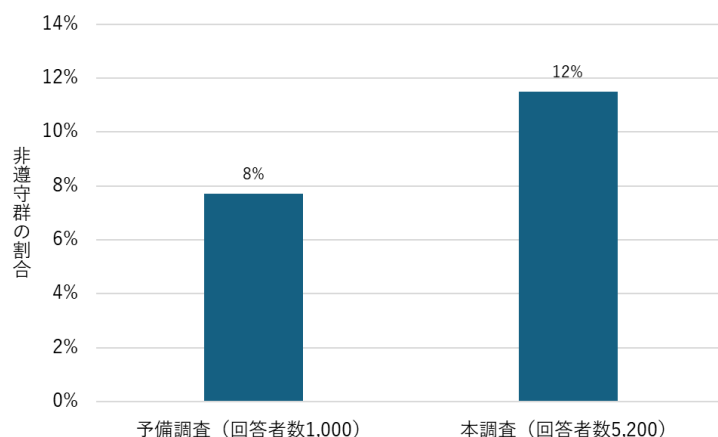
次に、遵守群と非遵守群で、年齢区分・性別の構成割合を比較した結果を表 25 に示す。比較の結果、α票とβ票では非遵守群の年齢についておおむね類似する傾向が観察された。

表 25 非遵守群の特性

| | α票 | | | β票 | | |
|---------|-----------|------------------|-------|-----------|------------------|-------|
| | 非遵守群の回答者数 | 全回答者中の非遵守群の回答者割合 | 全回答者数 | 非遵守群の回答者数 | 全回答者中の非遵守群の回答者割合 | 全回答者数 |
| 年齢階級 | | | | | | |
| 18歳～24歳 | 58 | 22.6% | 257 | 39 | 15.2% | 256 |
| 25歳～34歳 | 85 | 21.7% | 391 | 62 | 15.8% | 392 |
| 35歳～44歳 | 68 | 15.5% | 439 | 51 | 11.6% | 438 |
| 45歳～54歳 | 48 | 8.6% | 559 | 55 | 9.8% | 560 |
| 55歳～64歳 | 29 | 6.0% | 486 | 36 | 7.4% | 484 |
| 65歳～74歳 | 34 | 7.3% | 468 | 31 | 6.6% | 470 |
| 小計 | 322 | 12.4% | 2,600 | 274 | 10.5% | 2,600 |
| 性別 | | | | | | |
| 男性 | 171 | 13.1% | 1,306 | 150 | 11.5% | 1,306 |
| 女性 | 151 | 11.7% | 1,294 | 124 | 9.6% | 1,294 |
| 小計 | 322 | 12.4% | 2,600 | 274 | 10.5% | 2,600 |

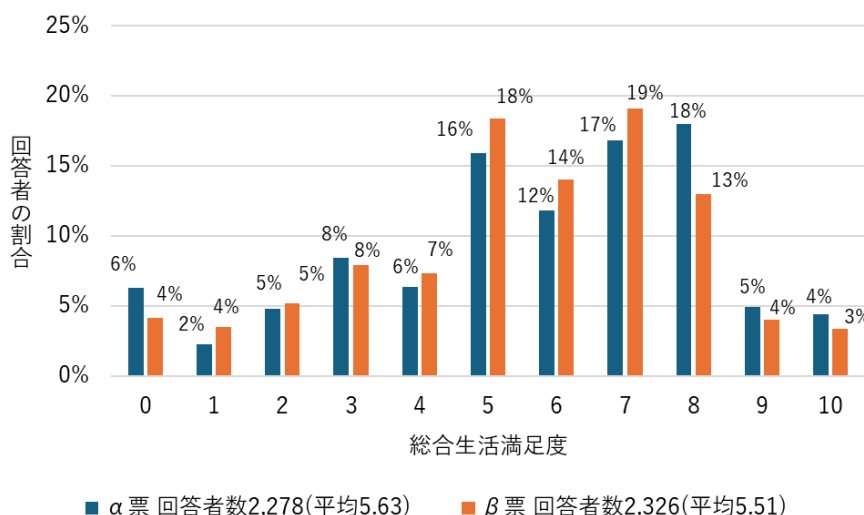
さらに、回答者全体に占める非遵守群の割合について、予備調査（設問数）と本調査（設問数）を比較した結果を図 33 に示す。比較の結果、回答者全体に占める非遵守群の割合は、予備調査で 7.7%、本調査で 11.5%であり、予備調査と比較して本調査でその割合が高くなっていた。

（再掲）図 33 非遵守群の割合の比較：予備調査 vs 本調査



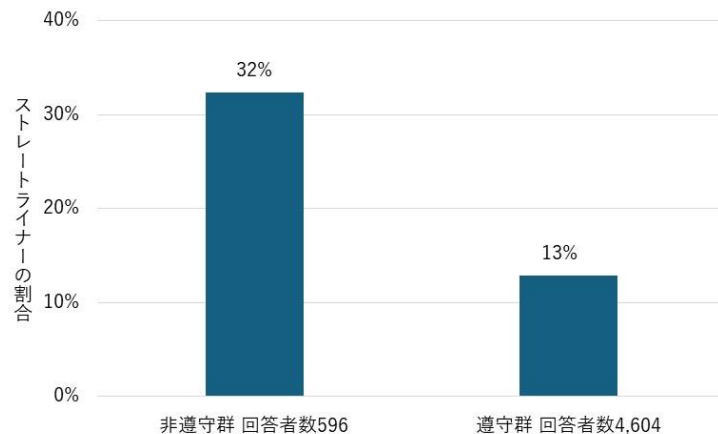
加えて、非遵守群を除外した群で総合生活満足度の回答内容を集計した結果を図 52 に示す。集計の結果、先述の非遵守群を含めた群の総合生活満足度と比較して、非遵守群を除外した群の総合生活満足度では平均値が高くなる傾向がみられた。

図 52 非遵守群を除いた総合生活満足度の比較： α 票 vs β 票



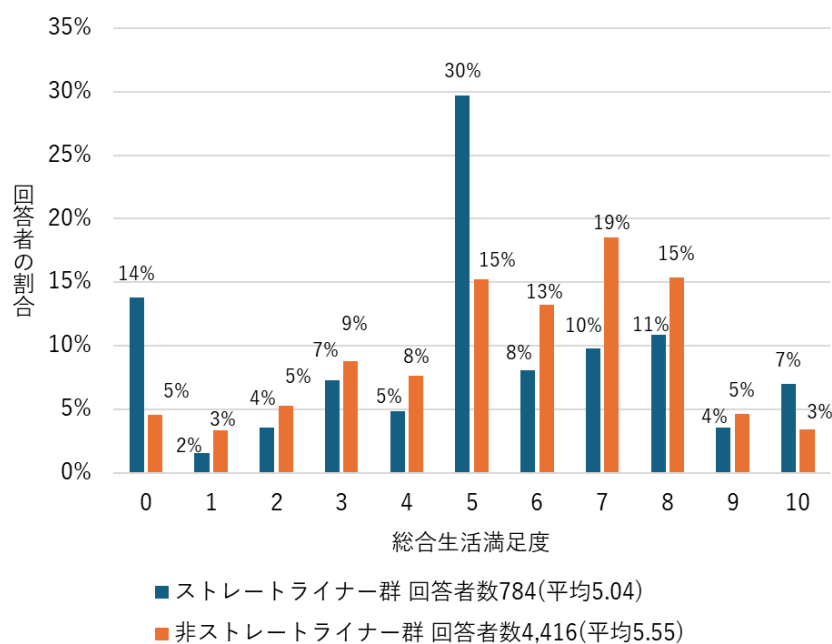
次に、領域別生活満足度の回答が全て同一であった群をストレートライナー群と定義した。遵守群と非遵守群で全回答者に占めるストレートライナーの割合を比較した結果を図 53 に示す。比較の結果、ストレートライナーの割合は、非遵守群で 32.4%、遵守群で 12.8%と、遵守群と比較して非遵守群でストレートライナーの割合が高くなる傾向がみられた。

図 53 遵守群・非遵守群別のストレートライナーの割合の比較



また、ストレートライナーと非ストレートライナーを分けて総合生活満足度の回答内容を比較した結果を図 54 に示す。比較の結果、平均値の差は 0.41 であった。また、各選択肢の回答割合については、非ストレートライナー群と比較してストレートライナー群では左端の選択肢である「0」及び中間の選択肢である「5」において高くなる傾向がみられた。

図 54 ストレートライナー・非ストレートライナー別の総合生活満足度の比較



Ⅲ 複数領域統合型世帯調査の各国における公表状況

本章では、複数領域統合型世帯調査に該当する EU-SILC 及び、我が国の国民生活基礎調査を取り上げ、それらの公表状況や公開内容について比較した。

1. 各国の公表状況

(1) ヨーロッパの事例(EU-SILC)

1) 調査概要

EU-SILC(European Union Statistics on Income and Living Conditions)は欧州連合(EU)における所得、貧困、社会的排除、及び生活状況に関する比較可能な多次元マイクロデータを収集するための基準となる主要な統計調査である。調査結果は国家及び欧州レベルにおける所得、並びに貧困と社会的排除のレベル(水準)と構成に関する、比較可能かつ適時な横断的及び縦断的データとして政策立案や政策評価に活用することを目的としている⁷。

EU-SILC は各対象国の領土内に居住している一般世帯及び世帯内の 16 歳以上の世帯員を対象に、表 26 に示す調査項目を収集している。

⁷ EU-SILC の制度等に関する詳細な説明は総務省(2023)にて整理されている。

表 26 EU-SILC の主な調査項目

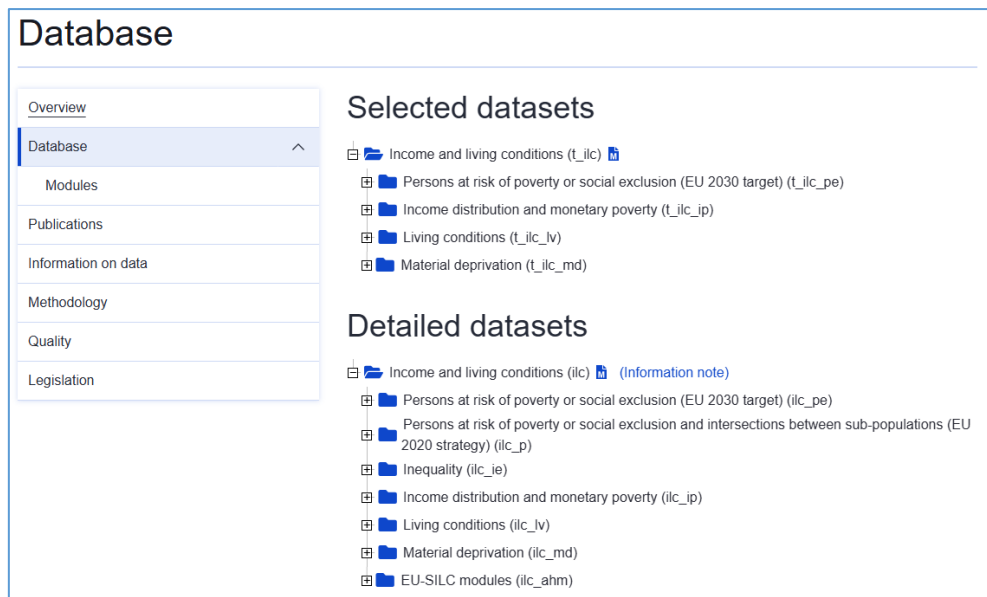
| 調査項目分類 | 主観指標
(モジュール調査を含む) | 客観指標 |
|--------|----------------------|---|
| ①収入 | 収入への満足度 | 世帯の総収入、社会保障収入、年金収入 等 |
| ②貧困 | 家計の財政状況への満足度 | 物質的貧困、こどもの貧困、財務能力 等 |
| ③社会的排除 | 他者への信頼 | スポーツ活動の状況、芸術活動の状況、ボランティア活動の状況、月に 1 回友人や親戚に会うか 等 |
| ④居住 | 住居の状況への満足度 | 住居の種類、家の価格、部屋数、コンピューターとインターネットの使用 等 |
| ⑤労働 | 職業への満足度 | 就労状況、雇用形態、監督責任、契約期間、職場の従業員数 等 |
| ⑥教育 | (該当なし) | 最終学歴、学位の種類、就業状況、研修・職業訓練の状況 等 |
| ⑦健康 | 主観的健康 | 障害の有無と程度、医療へのアクセス、通院した診療科、こどもの健康状態 等 |

総務省(2023)より編集

2) 集計表の公表状況

EU-SILC は原則として EU の統計窓口である Eurostat 上にデータベース形式でそのデータが公開されている。利用者はデータベースの格納内容を示すデータナビゲーション・ツリーから関心のある統計テーマを指定することができる(図 55)。

図 55 EU-SILC Database

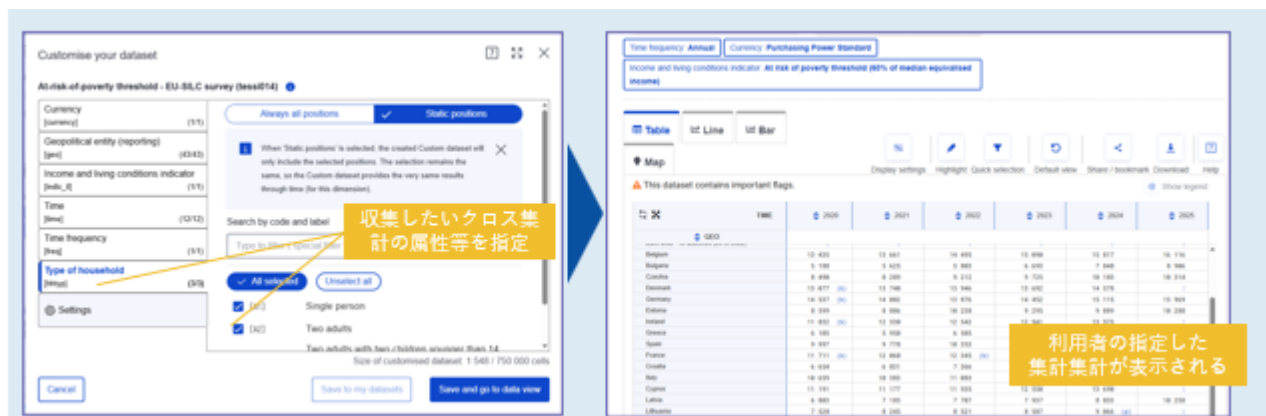


出典:EU-SILC

指定した統計テーマのダウンロード画面を開くと、多次元統計データの閲覧、視覚化、ダウンロードを行うために設計されたプラットフォームが表示され、ユーザーは各指標を任意の軸で切り替え、時系列・地域比較・変数選択等を行うことができる。

各データセットを表示するウェブページの構成は、主に「多次元テーブル表示エリア」と「データ選択パネル(フィルタリング)」から成る。「多次元テーブル表示エリア」では、「性別(Sex)」「年齢階級(Age)」「教育達成度(Educational Attainment)」「生活領域(Domain)」「地域(通常は EU 加盟国+その他)」「時間(Year)」といった変数が標準的に表示され、ユーザーはこれらの変数を行・列・フィルタに割り当てることで、データの構成や表示形式を変更できる。また、「データ選択パネル(フィルタリング)」では、特定の年、国、性別、領域といった変数の選択が可能である。Eurostat のデータブラウザ設計原則により、このパネルは多次元データセットの探索性を高める中核要素である。

図 56 データベース上の統計情報アクセス



出典:EU-SILC

3) 個票情報(マイクロデータ)の提供状況

EU-SILC では前述した集計表に加えて、研究向けの個票情報(マイクロデータ)の提供も整備されている。Eurostat が取り扱う統計のマイクロデータは統計機密保護の観点から一般には公開されていないが、科学的研究を目的とする場合には一定の条件の下で研究用マイクロデータへのアクセスが認められている。具体的には、利用を希望する研究者の所属機関が Eurostat から研究機関として認定を受けたうえで、研究計画、利用データセット、対象年次、対象国、利用目的等を明示して申請し、承認を受ける必要がある⁸。

EU-SILC の研究用マイクロデータは、一般に User Database(UDB)と呼ばれ、各年の横断面データである Cross-sectional UDB と、同一個人又は世帯を一定期間追跡する Longitudinal UDB から構成される。これらのデータには世帯単位及び個人単位の情報が含まれており、所得、就業、教育、健康、住宅、家計困難、物質的剥奪等の情報を複数国・複数年のデータを同一仕様で利用できるようガイドラインに示される変数名及び定義に従って整備されている。ただし、この研究用マイクロデータの利用に当たっては、研究機関の認定、研究計画の承認、利用者の守秘義務、データ管理・保管方法に関する条件、研究成果公表時の秘匿措置等が求められる。また、提供されるデータからは氏名、住所等の直接識別子が除去されるほか、地理情報の粗化、年齢や所得等の処理、希少属性に関する情報の制限等、再識別リスクを低減するための匿名化・秘匿処理が施されている。

なお、EU-SILC については、研究用マイクロデータとは別に、公開マイクロデータ(Public Microdata)も提供されている。本データは実際の個人又は世帯の観測値ではなく、EU-SILC の統計的分布に基づいてシミュレーションにより作成された合成データであり、誰でも無償で利用することができる。これは実際の個人の世帯の観測値ではなく、元の EU-SILC データの統計的分布をもとにシミュレーションを行って作成されたものである。そのため、本データは「統計教育・研修」「EU-SILC 調査の構造・変数の理解」など限定された目的のみで利用可能であり、分析を行いたい場合は、上述したプロセスを踏み、承認を受けたうえで、研究マイクロデータを使用する必要がある⁹。

このように、EU-SILC は個人研究者が独自に取得するというより、研究機関単位での責任体制に基づき情報の提供が評価される点に特徴がある。また、複数国・複数年を比較できるよう整備済みのマイクロデータを提供している点も注目に値する。これは、EU 加盟国等における所得、貧困、社会的排除、生活条件、主観的ウェルビーイング等を個票レベルで国際比較分析するための重要な基盤となっている。

⁸ eurostat Microdata Overview <https://ec.europa.eu/eurostat/web/microdata>

⁹ eurostat Microdata Statistics on income and living conditions <https://ec.europa.eu/eurostat/web/microdata/public-microdata/statistics-on-income-and-living-conditions>

(2) 我が国の事例(国民生活基礎調査)

1) 調査概要

国民生活基礎調査は、統計法(平成 19 年法律第 53 号)に基づく基幹統計である国民生活基礎統計を作成するため、厚生労働省が実施している調査である。調査は、保健、医療、福祉、年金、所得等に関する国民生活の基礎的事項を総合的に把握し、厚生労働行政の企画及び立案に必要な基礎資料を得ることを目的としている。

本調査は 3 年周期で上記全項目を網羅する「大規模調査」を実施し、その中間の各年においては、政策的ニーズの高い項目に絞った「簡易調査」(原則として世帯票及び所得票等のみ)を実施する体系がとられており、各調査年における主な調査内容は表 27 のとおりである。調査内容は国民生活を広範に把握するための調査項目が設定されていることから、我が国のその他の社会統計を扱う公的統計調査(社会生活基本調査、21 世紀出生児縦断調査等)と比較して網羅性が高く、我が国における代表的な複数領域統合型世帯調査といえる。

表 27 国民生活基礎調査の主な調査項目

| 票名 | 調査内容 | 簡易調査 | 大規模調査 |
|-----|---|------|-------|
| 世帯票 | 単独世帯の状況、5 月中の家計支出総額、世帯主との続柄、性別、出生年月、配偶者の有無、医療保険の加入状況、公的年金・恩給の受給状況、公的年金の加入状況、就業状況等 | ○ | ○ |
| 健康票 | 自覚症状、通院、日常生活への影響、健康意識、悩みやストレスの状況、こころの状態、健康診断等の受診状況等 | | ○ |
| 介護票 | 介護が必要な者の性別と出生年月、要介護度の状況、介護が必要となった原因、介護サービスの利用状況、主に介護する者の介護時間、家族等と事業者による主な介護内容等 | | ○ |
| 所得票 | 前年 1 年間の所得の種類別金額・課税等の状況、生活意識の状況等 | ○ | ○ |
| 貯蓄票 | 貯蓄現在高、借入金残高等 | | ○ |

出典:総務省(2023)

2) 集計表の公表状況

調査結果の集計表は、政府統計の総合窓口 e-Stat において CSV 形式で公開されており、利用者はこれを自由にダウンロードすることが可能である。公開される集計表の総数は、3 年に一度実施される大規模調査の年度には 700 件を超えるが、簡易調査となる中間年度では約 200 件となる。

5 種類の調査票の一つである世帯票における集計表の一例を表 28 に示す。なお、集計表ファイルの仕様上、表題に「A・B 別」のように複数のクロス集計軸が併記されている場合、それは A と B を組み合わせた多重クロス集計表のみがファイルに含まれる。そのため、各表に掲載されている内容は多重のクロス集計であることを意味する点に留意が必要である。

表 28 国民生活基礎調査の公開例(世帯票)

| | 表番号 | 表題 |
|-----------------------|-------|--|
| 1
年
次
推
移 | 世帯 1 | 世帯数－構成割合，世帯人員・年次別 |
| | 世帯 2 | 世帯数－構成割合，世帯構造・年次別 |
| | 世帯 3 | 世帯数－構成割合，世帯業態・年次別 |
| | 世帯 4 | 世帯数－構成割合，世帯類型・年次別 |
| | 世帯 5 | 単独世帯数，世帯主の性別・年次別 |
| | 世帯 6 | 世帯数－構成割合，地域ブロック・年次別 |
| | 世帯 7 | 平均世帯人員，年次別 |
| | 世帯 8 | 世帯人員－構成割合，医療保険加入状況・年次別 |
| | 世帯 9 | 公的年金・恩給受給者数－受給割合，性別・年次別 |
| | 世帯 10 | 夫婦ともに 60 歳以上－65 歳以上の夫婦組数－構成割合，公的年金・恩給受給の有無・年次別 |
| | 世帯 11 | 世帯数－指数－全世帯に占める割合，全世帯－高齢者世帯・年次別 |
| | 世帯 12 | 高齢者世帯数－構成割合，世帯構造・年次別 |
| | 世帯 13 | 高齢者世帯数－構成割合，世帯業態・年次別 |
| | 世帯 14 | 世帯数－構成割合－平均児童数，児童の有－児童数－無・年次別 |
| | 世帯 15 | 65 歳以上の者のいる世帯数－構成割合，世帯構造・年次別 |
| | 世帯 16 | 65 歳以上の者のみの世帯数－構成割合，世帯構造・年次別 |
| | 世帯 17 | 65 歳以上の者の数－構成割合，家族形態・年次別 |

3) 個票情報(マイクロデータ)の提供状況

我が国の公的統計は原則、当初目的としていた統計作成のみに用いることとされている一方、統計法の特別の定めにより、公的機関が行う統計の作成等のほか、公的機関と同等の公益性を有する場合(公的機関との共同研究等)や学術研究等のための統計の作成等、一定の要件を満たす場合には調査票情報を利用することができる。国民生活基礎調査についても調査票情報の提供、オーダーメード集計(委託による統計の作成等)¹⁰、匿名データの提供が可能となっている。

まず、より詳細な分析を行う場合には、統計法に基づき、調査票情報の提供を申請することができる。調査票情報の提供は、匿名データよりも情報量の多い個票情報を利用できる可能性がある一方で、利用目的の公益性又は学術性、研究計画の具体性、必要な変数・年次・対象範囲の妥当性、安全管理措置、利用場所、利用者の範囲、成果公表時の秘匿措置等について、所定の審査を受ける必要がある。また、利用終了後には、データの返却又は消去等の管理義務¹¹の履行が求められる¹²。

次に、オーダーメード集計は、利用者からの委託に応じて行政機関等が既存の調査票情報を用いて新たな集計表を作成し、提供する仕組みである。利用者に個票データそのものが提供されるわけではないが、既存の公表集計表では把握できない集計軸による分析が可能となる点で、集計表公表を補完することができる。

さらに、匿名データの提供である。個体が識別されないように加工したマイクロデータを利用者に提供する制度である。匿名データでは個体識別を防ぐため、直接識別子の削除に加え、年齢、所得、地域、世帯類型等の情報についてカテゴリ化、数値の丸め処理、地域区分の粗化等の処理が行われる。国民生活基礎調査についても、提供対象となっている年次・範囲の匿名データを利用することで、世帯構造、所得、健康状態、就業状況等を個票レベルで分析することが可能である。

上記のように、国民生活基礎調査をはじめとする我が国のマイクロデータは利用者からの個別申請に対してその必要性が審査される。情報の提供方法についても個人情報保護の必要性に鑑み、匿名化の程度に応じて段階的な提供方法が用意されている点が特徴である。

¹⁰ 具体的な利用可能統計や申請方法はマイクロデータ利用ポータルサイトに詳しい(<https://www.e-stat.go.jp/microdata/order>)

¹¹ 調査票情報の適正管理措置について <https://www.e-stat.go.jp/microdata/sites/default/files/share/data-use/tekiseikanri.pdf>

¹² このほか、統計センター等が整備するオンサイト施設において、より詳細な調査票情報を安全な環境で利用する仕組みも整備されている。オンサイト利用は、秘匿性の高いデータを安全管理措置の下で分析できる点で有用である。

2. 公表状況の比較から見た我が国の特徴

(1) 公表方法の違い

前頁までの内容を踏まえ、EU-SILC と国民生活基礎調査には公表方法について大きく 2 点の違いがあったと整理できる。

まず、集計表の公開方法の違いである。図 57 に示すように、EU-SILC では Eurostat でデータベース形式による利用者が任意の集計を可変的に選択することができる一方、国民生活基礎調査では e-Stat 上で公開されている事前に用意された固定的な集計表をダウンロードすることが主なアクセス方法である。EU-SILC の公開方法はその可変性から、利用者が集計条件を選択しながら必要な情報を取得でき、目的に応じた集計表にアクセスできる点で有用といえる。ただし、データベース形式で集計を一から組み立てる操作には慣れが必要である点には留意が必要である。

図 57 EU-SILC と国民生活基礎調査比較結果

| EU-SILC | 国民生活基礎調査 |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none">■ 公開方法<ul style="list-style-type: none">・EUの統計サイト（Eurostat）上で調査回答から得られた結果を可変のデータベースを主として公開。■ 利用方法<ul style="list-style-type: none">・利用者が持っている関心のあるテーマに応じて収集したい情報を探していく必要がある。・利用者はデータベースから必要な集計項目を指定し、作成されたクロス集計結果をダウンロードして利用することが可能。・利用者は一からDB形式で集計を組み立てる必要があり、操作には一定の慣れが必要と思料される。 | <ul style="list-style-type: none">■ 公開方法<ul style="list-style-type: none">・政府統計の総合窓口（e-Stat）上で調査回答から得られた固定の集計結果を主として公開。■ 利用方法<ul style="list-style-type: none">・各調査年ごとの結果から、利用者が任意の集計表を選択する必要がある。・利用者はCSVファイルまたはDBからデータをダウンロード・閲覧して利用することが可能。・DB形式も用意されているが、EU-SILCと比較し、クロス集計等の可変性は限定的（個別の集計表の表頭・表側等のレイアウト変更に限る）。 |

次に、閲覧可能な公開情報の違いである。EU-SILC、国民生活基礎調査どちらも原則として調査された項目を複数年に渡りアクセスすることができるが、クロス集計として得られる情報量には明確な差があった。EU-SILC はデータベース形式である特性上、クロス集計として指定できる属性情報は性別、年齢階級、教育、国・地域等の主要な内容に統一されている。対照的に、国民生活基礎調査では前述のとおり大規模調査の年度には 700 件を超える集計表が用意されており、調査内容に関連した詳細なクロス軸で集計された結果も公開されている。例えば、主観指標の集計・公表状況について、EU-SILC と国民生活基礎調査の両者を試行的に比較するため、両調査における健康意識(Self-Perceived Health)の集計状況を比較して示したところ、図 58 に示すとおり、EU-SILC では基本的なクロス軸による集計結果のみが公表されている一方で、国民生活基礎調査ではより関連度合いが高いと思われるクロス軸での集計結果も閲覧可能であることが把握できた。

図 58 健康意識に関する集計状況の比較

| EU-SILC | 国民生活基礎調査 |
|---|--|
| <p>・健康意識（Self-Perceived Health）に関する集計表で使用されているクロス軸は以下のとおり。</p> <p>（基本的なクロス軸）
age class, geopolitical entity(reporting), sex, time, time frequency, unit of measure)、International Standard Classification of Education, (income) quantile</p> | <p>・大規模調査（2022年）分で公表されている集計表のうち、健康意識に関する集計表は15件。</p> <p>・健康意識に関する集計表で使用されているクロス軸は以下のとおり。</p> <p>（基本的なクロス軸）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・性 ・年齢 ・世帯人員 ・教育 ・都道府県 <p>（健康意識と関連性が高いクロス軸）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康状態 ・悩み・ストレスの有無、ストレスの原因 ・平均睡眠時間 ・休養充足度 ・こころの状態 ・飲酒の状況 ・喫煙の状況 ・日ごろ健康のために実行している事柄 ・自覚症状の有無 ・通院の有無 ・健康診断等の受信の有無・機会 ・最も気になる症状 ・最も気になる傷病 |

利便性向上に向けたデータ公表形式について

総じて、EU-SILC 並びに国民生活基礎調査どちらも、その調査規模に応じた広範な結果が公表されていた。EU-SILC ではどの指標であってもクロス集計の軸は一定であったが、国民生活基礎調査はより広範なトピックを扱うクロス集計を公開している点に違いがあった。複数領域統合型世帯調査は分析の有用性が高い調査であるが、クロス集計表の充実、そうした有用性を損なうことなくユーザーに提供できるという点で、利便性向上に資するものである。

Eurostat における EU-SILC のようなデータベース形式を主とする公開方法と比較して、我が国の統計では集計表が膨大になる(数百表程度)傾向があった¹³。集計結果の公開方法は、利用者のニーズやデータ提供の効率性等の観点から総合的に検討する必要があると考えられる。

¹³ ただし、本研究においては、各国統計機関における集計表の公開状況については確認していない。

(2) 調査票情報(マイクロデータ)の提供方法の違い

上述した EU-SILC と国民生活基礎調査で論じた公表方法の違いのほか、個別の調査票情報を含むマイクロデータの提供方法についても違いがみられた。両調査ともに、利用に当たっては厳格な審査や守秘義務、データ管理に関する条件が課される点は共通しているものの、制度設計の思想において違いが見出されるものと整理できる。

第一に、マイクロデータの利用申請において審査・承認される利用者の主体(単位)に制度上の違いがみられる。EU-SILC において Eurostat が提供する研究用マイクロデータは、個人研究者が単独で取得する仕組みではなく、Eurostat から事前に認定を受けた「研究機関単位」での責任体制に基づいて提供される点に特徴がある。利用を希望する研究者は認定機関に所属している必要があり、機関全体のデータ管理体制が重視される。これに対し、国民生活基礎調査をはじめとする我が国の統計法に基づく二次利用制度においては、公益性や学術性が認められる場合、研究者等の「申請個人単位(又は共同研究グループ単位)」での利用申請が基本となる。利用目的の妥当性や研究計画の具体性、申請者自身が用意する利用環境のセキュリティ水準等が、個別の申請ごとに審査される仕組みとなっている。

第二に、提供されるデータの構造や、個人情報保護の観点から設定された提供方式のバリエーションにも違いが存在する。EU-SILC は国際比較研究を前提としているため、複数国・複数年のデータが統一的なガイドラインに基づいて整備されており、時系列での変化を捉えるパネルデータ分析等の高度な国際比較研究が比較的容易に行える情報が提供されている。一方、我が国の国民生活基礎調査は、国内の保健・医療・福祉等に関する基礎資料を得ることを目的とする国内統計であり、個人情報保護を重視し、匿名化の程度に応じた段階的な提供方式が採用されている¹⁴。

¹⁴ なお、参考の比較対象として、アメリカの American Community Survey (ACS) のデータは二次利用を目的として一般に公開されており、研究者、非営利団体、地域団体によって利用されている。そして、ACS のデータを用いて、報告書、研究論文、事業計画、ケーススタディ、データセット、ソフトウェアパッケージなどが作成されている。これらの活動は、一般市民への情報提供のほか、ビジネスベンチャーの促進や地域プロジェクトのための助成金や寄付金の申請等に寄与している(総務省 2023)。

参考資料

A 研究会実施概要

本調査の推進に際し、学識者 2 名のアドバイザー、及び学識者 1 名の有識者を招聘した研究会を設置した。研究会では学識者からの情報提供及び助言を受けた。研究会における実施体制等は以下のとおりである。

【アドバイザー】(50 音順・敬称略、所属は研究会実施時点のもの)

| 氏名 | 所属 |
|-------|-----------|
| 北村 行伸 | 立正大学 学長 |
| 清原 慶子 | 杏林大学 客員教授 |

【有識者】

| 氏名 | 所属 |
|-------|----------------------|
| 土屋 隆裕 | 横浜市立大学 データサイエンス学部 教授 |

【総務省】

| 氏名 | 所属 |
|--------|----------------------|
| 谷本 信賢 | 総務省 統計委員会担当室 室長 |
| 赤谷 俊彦 | 総務省 統計委員会担当室 次長 |
| 松井 竜介 | 総務省 統計委員会担当室 政策企画調査官 |
| 齋藤 恵一 | 総務省 統計委員会担当室 室長補佐 |
| 黒岩 美幸 | 総務省 統計委員会担当室 室長補佐 |
| 孕石 真浩 | 総務省 統計委員会担当室 専門官 |
| 藤原 彦次郎 | 総務省 統計委員会担当室 主査 |

【事務局】

| 氏名 | 所属 |
|-------|--|
| 利川 隆誠 | みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社 社会政策コンサルティング部 マネジャー |
| 松山 里紗 | みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社 社会政策コンサルティング部 シニアコンサルタント |
| 松元 麗乃 | みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社 社会政策コンサルティング部 コンサルタント |
| 宮崎 大輔 | みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社 社会政策コンサルティング部 コンサルタント |

各研究会等の開催概要は以下のとおりである。なお、所属は研究会実施時点のものを記している。

| ■ 第 1 回研究会（本調査研究の概要／試行アンケート調査の調査方針について） | |
|---|---|
| 開催日時 | 2025 年 10 月 23 日(木) 15：00～17：00 |
| 場所 | 総務省第 2 庁舎 6 階特別会議室 |
| 議事次第 | 1 開会
2 本調査研究について
3 試行アンケート調査について
4 その他 |

| ■ 第 2 回研究会（試行アンケート調査：予備調査の結果報告・本調査の調査方針について） | |
|--|--|
| 開催日時 | 2026 年 1 月 21 日(水) 15：00～17：00 |
| 場所 | 総務省第 2 庁舎 6 階特別会議室 |
| 議事次第 | 1 予備調査の結果について
2 本調査の設計について
3 その他 |

| ■ 第 3 回研究会（試行アンケート調査：本調査の結果報告／調査全体の取りまとめ方針について） | |
|---|---|
| 開催日時 | 2026 年 3 月 5 日(木) 10：00～12：00 |
| 場所 | 総務省第 2 庁舎 6 階特別会議室 |
| 議事次第 | 1 本調査の結果について
2 文献調査の整理結果について
3 本調査研究の整理について
4 閉会 |

B 予備調査における基本統計量等

予備調査における基本統計量等を次頁の表 29 に示す。なお、表中に示す数値入力設問の統計値は、回答値の精査や外れ値・入力エラー等の除外処理を行っていない生データに基づく集計値であることに留意されたい。

表 29 予備調査における基本統計量等

| 設問文 | α 集 | | | | | | | | | | β 集 | | | | | | | | | |
|--|-----|-----|------|-----|------|-----|-----|-----|-----|------|------|-----|-----|-----|------|------|-----|-----|-----|------|
| | α 集 | | | | | β 集 | | | | | β-1集 | | | | | β-2集 | | | | |
| | 件数 | 最小値 | 最大値 | 平均値 | 標準偏差 | 件数 | 最小値 | 最大値 | 平均値 | 標準偏差 | 件数 | 最小値 | 最大値 | 平均値 | 標準偏差 | 件数 | 最小値 | 最大値 | 平均値 | 標準偏差 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Q1-1.全体として、最近の生活にどれくらい満足していますか。 | 500 | 1 | 11 | 6.6 | 2.6 | 500 | 1 | 11 | 6.4 | 2.5 | 250 | 1 | 11 | 6.4 | 2.4 | 250 | 1 | 11 | 6.3 | 2.5 |
| 0を「全く満足していない」、10を「非常に満足している」として、0から100スケールで回答してください | 500 | 0 | 2025 | 8.6 | 90.8 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| Q1-2.Q1-1「全体として、最近の生活にどれくらい満足していますか。」で、あなたが「最近」として想起した期間は | 500 | 1 | 4 | 1.5 | 0.7 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| X1.「全体として、最近の生活にどれくらい満足していますか。」で、あなたが「最近」として想起した期間は | - | - | - | - | - | 500 | 1 | 11 | 6.4 | 2.5 | 250 | 1 | 11 | 6.5 | 2.5 | 250 | 1 | 11 | 6.3 | 2.6 |
| Q1-3.全体として、最近1～3か月の生活にどれくらい満足していますか。 | - | - | - | - | - | 500 | 1 | 11 | 6.3 | 2.5 | 250 | 1 | 11 | 6.4 | 2.5 | 250 | 1 | 11 | 6.2 | 2.5 |
| Q1-4.全体として、最近3～5年間の生活にどれくらい満足していますか。 | - | - | - | - | - | 500 | 1 | 11 | 6.3 | 2.5 | 250 | 1 | 11 | 6.5 | 2.5 | 250 | 1 | 11 | 6.2 | 2.6 |
| Q1-5.全体として、最近3～5年間の生活にどれくらい満足していますか。 | 500 | 1 | 11 | 6.5 | 2.6 | 500 | 1 | 11 | 6.3 | 2.4 | 250 | 1 | 11 | 6.4 | 2.4 | 250 | 1 | 11 | 6.2 | 2.4 |
| Q1-3.全体として、1年前の生活にどれくらい満足していますか。 | 500 | 1 | 11 | 6.1 | 2.6 | 500 | 1 | 11 | 5.9 | 2.5 | 250 | 1 | 11 | 6.0 | 2.5 | 250 | 1 | 11 | 5.7 | 2.6 |
| 0は「全く希望をもっていない」、10は「非常に希望をもっている」を示します。 | 500 | 1 | 11 | 6.7 | 2.6 | 500 | 1 | 11 | 6.7 | 2.7 | 250 | 1 | 11 | 7.0 | 2.6 | 250 | 1 | 11 | 6.4 | 2.7 |
| Q1-5.以下の質問では、あなたの生活に関する特定の分野について、どの程度満足しているかを教えてください。 | 500 | 1 | 11 | 6.0 | 2.6 | 500 | 1 | 11 | 5.9 | 2.7 | 250 | 1 | 11 | 6.1 | 2.7 | 250 | 1 | 11 | 5.8 | 2.7 |
| Q1-5.以下の質問では、あなたの生活に関する特定の分野について、どの程度満足しているかを教えてください。 | 500 | 1 | 11 | 6.0 | 2.6 | 500 | 1 | 11 | 5.9 | 2.7 | 250 | 1 | 11 | 6.1 | 2.7 | 250 | 1 | 11 | 5.8 | 2.7 |
| Q1-5.以下の質問では、あなたの生活に関する特定の分野について、どの程度満足しているかを教えてください。 | 262 | 1 | 11 | 6.0 | 2.7 | 226 | 1 | 11 | 5.9 | 2.7 | 110 | 1 | 11 | 5.9 | 2.9 | 116 | 1 | 11 | 6.0 | 2.6 |
| 0を「全く満足していない」、10を「非常に満足している」として、0から100スケールで回答してください | 500 | 1 | 11 | 6.0 | 2.8 | 500 | 1 | 11 | 6.3 | 2.7 | 250 | 1 | 11 | 6.4 | 2.7 | 250 | 1 | 11 | 6.1 | 2.7 |
| Q1-5.以下の質問では、あなたの生活に関する特定の分野について、どの程度満足しているかを教えてください。 | 500 | 1 | 11 | 6.3 | 2.6 | 500 | 1 | 11 | 6.4 | 2.5 | 250 | 1 | 11 | 6.7 | 2.6 | 250 | 1 | 11 | 6.2 | 2.4 |
| 0を「全く満足していない」、10を「非常に満足している」として、0から100スケールで回答してください | 500 | 1 | 11 | 5.9 | 2.7 | 500 | 1 | 11 | 5.7 | 2.8 | 250 | 1 | 11 | 5.8 | 2.9 | 250 | 1 | 11 | 5.7 | 2.8 |
| Q1-5.以下の質問では、あなたの生活に関する特定の分野について、どの程度満足しているかを教えてください。 | 500 | 1 | 11 | 6.2 | 2.5 | 500 | 1 | 11 | 6.2 | 2.5 | 250 | 1 | 11 | 6.2 | 2.5 | 250 | 1 | 11 | 6.3 | 2.5 |
| 0を「全く満足していない」、10を「非常に満足している」として、0から100スケールで回答してください | 500 | 1 | 11 | 6.1 | 2.5 | 500 | 1 | 11 | 6.1 | 2.5 | 250 | 1 | 11 | 6.2 | 2.5 | 250 | 1 | 11 | 6.0 | 2.6 |
| Q2-1.全体的に見て、自分の人生でやっていることとどの程度の価値があると感じていますか。 | 500 | 1 | 11 | 6.1 | 2.5 | 500 | 1 | 11 | 6.1 | 2.5 | 250 | 1 | 11 | 6.2 | 2.5 | 250 | 1 | 11 | 6.0 | 2.6 |
| 0を「全く価値がない」、10を「非常に価値がある」として、0から100スケールで回答してください | 500 | 1 | 11 | 5.7 | 2.6 | 500 | 1 | 7 | 3.7 | 1.5 | 250 | 1 | 7 | 3.8 | 1.5 | 250 | 1 | 7 | 3.6 | 1.5 |
| Q2-2.以下の質問について、どの程度あてはまりますか。 | 500 | 1 | 11 | 5.5 | 2.6 | 500 | 1 | 7 | 3.6 | 1.4 | 250 | 1 | 7 | 3.7 | 1.5 | 250 | 1 | 7 | 3.5 | 1.4 |
| 0を「全くあてはまらない」、10を「完全にあてはまる」として、0から100スケールを使ってあなたの気持ちを示してください | 500 | 1 | 11 | 5.8 | 2.6 | 500 | 1 | 7 | 3.9 | 1.5 | 250 | 1 | 7 | 3.9 | 1.6 | 250 | 1 | 7 | 3.8 | 1.5 |
| Q2-2.以下の質問について、どの程度あてはまりますか。 | 500 | 1 | 11 | 5.9 | 2.7 | 500 | 1 | 7 | 4.1 | 1.5 | 250 | 1 | 7 | 4.2 | 1.5 | 250 | 1 | 7 | 4.0 | 1.5 |
| 0を「全くあてはまらない」、10を「完全にあてはまる」として、0から100スケールを使ってあなたの気持ちを示してください | 500 | 1 | 11 | 6.3 | 2.6 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| Q3-1.全体として、最近の生活にどれくらい満足していますか。 | 500 | 1 | 11 | 6.3 | 2.6 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| -5を「非常に不満である」、+5を「非常に満足している」として、-5から+5のスケールで回答してください | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 設問文 | α 集 | | | | | β 集 | | | | | β-1 集 | | | | | β-2 集 | | | | |
|--|-----|-----|-----|-----|------|-----|-----|-----|-----|------|-------|-----|-----|-----|------|-------|-----|-----|-----|------|
| | 度数 | 最小値 | 最大値 | 平均値 | 標準偏差 | 度数 | 最小値 | 最大値 | 平均値 | 標準偏差 | 度数 | 最小値 | 最大値 | 平均値 | 標準偏差 | 度数 | 最小値 | 最大値 | 平均値 | 標準偏差 |
| | 500 | 1 | 11 | 6.3 | 2.5 | 500 | 1 | 11 | 6.1 | 2.5 | 250 | 1 | 11 | 6.0 | 2.4 | 250 | 1 | 11 | 6.1 | 2.6 |
| Q3-2全体として、最近の生活にどのくらい不満を感じていますか。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 0を「全く不満はない」、10を「非常に不満である」として、0から10のスケールで回答してください。 | 500 | 1 | 11 | 6.3 | 2.5 | 500 | 1 | 11 | 6.1 | 2.5 | 250 | 1 | 11 | 6.0 | 2.4 | 250 | 1 | 11 | 6.1 | 2.6 |
| Q4-1過去7日間で、(肉体的または精神的な)痛みは平均してどのくらいでしたか。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 0は痛みが全くない状態を指し、10は想像しうる最も強い痛みを指すものとして、0から10のスケールで回答してください。 | 500 | 1 | 11 | 5.0 | 2.6 | 500 | 1 | 11 | 5.3 | 2.5 | 250 | 1 | 11 | 5.2 | 2.4 | 250 | 1 | 11 | 5.3 | 2.6 |
| Q4-2以下の質問では、昨日どのように感じたかを探っています。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 0は昨日その感情を「全く」感じなかったことを意味し、10は昨日その感情を「常に」感じていたことを意味するものとして、0から10のスケールで回答してください。 | 500 | 1 | 11 | 6.5 | 2.7 | 500 | 1 | 11 | 6.6 | 2.5 | 250 | 1 | 11 | 6.8 | 2.5 | 250 | 1 | 11 | 6.4 | 2.5 |
| (あなたは昨日、幸せでしたか) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Q4-2以下の質問では、昨日どのように感じたかを探っています。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 0は昨日その感情を「全く」感じなかったことを意味し、10は昨日その感情を「常に」感じていたことを意味するものとして、0から10のスケールで回答してください。 | 500 | 1 | 11 | 5.5 | 2.8 | 500 | 1 | 11 | 5.4 | 2.7 | 250 | 1 | 11 | 5.5 | 2.6 | 250 | 1 | 11 | 5.2 | 2.7 |
| (あなたは昨日、心配についてはどうでしたか) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Q4-2以下の質問では、昨日どのように感じたかを探っています。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 0は昨日その感情を「全く」感じなかったことを意味し、10は昨日その感情を「常に」感じていたことを意味するものとして、0から10のスケールで回答してください。 | 500 | 1 | 11 | 6.9 | 2.6 | 500 | 1 | 11 | 7.0 | 2.5 | 250 | 1 | 11 | 7.2 | 2.4 | 250 | 1 | 11 | 6.8 | 2.6 |
| (あなたは昨日、落ち痛いていましたか) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Q4-2以下の質問では、昨日どのように感じたかを探っています。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 0は昨日その感情を「全く」感じなかったことを意味し、10は昨日その感情を「常に」感じていたことを意味するものとして、0から10のスケールで回答してください。 | 500 | 1 | 11 | 4.3 | 2.8 | 500 | 1 | 11 | 4.3 | 2.7 | 250 | 1 | 11 | 4.4 | 2.6 | 250 | 1 | 11 | 4.2 | 2.7 |
| (あなたは昨日、悲しみについてはどうでしたか) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Q4-2以下の質問では、昨日どのように感じたかを探っています。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 0は昨日その感情を「全く」感じなかったことを意味し、10は昨日その感情を「常に」感じていたことを意味するものとして、0から10のスケールで回答してください。 | 500 | 1 | 11 | 4.5 | 2.7 | 500 | 1 | 11 | 4.5 | 2.7 | 250 | 1 | 11 | 4.6 | 2.7 | 250 | 1 | 11 | 4.5 | 2.7 |
| (あなたは昨日、怒りを感じていましたか) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Q4-2以下の質問では、昨日どのように感じたかを探っています。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 0は昨日その感情を「全く」感じなかったことを意味し、10は昨日その感情を「常に」感じていたことを意味するものとして、0から10のスケールで回答してください。 | 500 | 1 | 11 | 6.4 | 2.6 | 500 | 1 | 11 | 6.3 | 2.5 | 250 | 1 | 11 | 6.5 | 2.6 | 250 | 1 | 11 | 6.2 | 2.5 |
| (あなたは昨日、楽しさ、喜びを感じていましたか) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Q4-2以下の質問では、昨日どのように感じたかを探っています。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 0は昨日その感情を「全く」感じなかったことを意味し、10は昨日その感情を「常に」感じていたことを意味するものとして、0から10のスケールで回答してください。 | 500 | 1 | 11 | 6.4 | 2.7 | 500 | 1 | 11 | 6.2 | 2.7 | 250 | 1 | 11 | 6.4 | 2.8 | 250 | 1 | 11 | 6.0 | 2.6 |
| (あなたは昨日、疲れを感じていましたか) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Q4-2以下の質問では、昨日どのように感じたかを探っています。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 0は昨日その感情を「全く」感じなかったことを意味し、10は昨日その感情を「常に」感じていたことを意味するものとして、0から10のスケールで回答してください。 | 500 | 1 | 11 | 5.9 | 2.8 | 500 | 1 | 11 | 5.8 | 2.8 | 250 | 1 | 11 | 5.8 | 2.9 | 250 | 1 | 11 | 5.8 | 2.7 |
| (あなたは昨日、ストレスを感じていましたか) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Q4-2以下の質問では、昨日どのように感じたかを探っています。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 0は昨日その感情を「全く」感じなかったことを意味し、10は昨日その感情を「常に」感じていたことを意味するものとして、0から10のスケールで回答してください。 | 500 | 1 | 11 | 6.0 | 2.7 | 500 | 1 | 11 | 6.0 | 2.6 | 250 | 1 | 11 | 6.1 | 2.6 | 250 | 1 | 11 | 5.9 | 2.6 |
| (あなたは昨日、たくさん笑ったり微笑んだりしていませんか) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Q5総合的に見て、現在の健康状態はいかがですか。 | 500 | 1 | 5 | 3.2 | 0.9 | 500 | 1 | 5 | 3.3 | 0.9 | 250 | 1 | 5 | 3.3 | 0.9 | 250 | 1 | 5 | 3.2 | 1.0 |
| Q6総合的に見て、現在の心の状態はいかがですか。 | 500 | 1 | 5 | 3.2 | 0.9 | 500 | 1 | 5 | 3.1 | 0.9 | 250 | 1 | 5 | 3.1 | 0.9 | 250 | 1 | 5 | 3.1 | 0.9 |
| Q7最近2週間に以下のような問題がどのくらいの頻度でありましたか。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (緊張、不安、イライラを感じる) | 500 | 1 | 4 | 2.2 | 1.0 | 500 | 1 | 4 | 2.2 | 1.0 | 250 | 1 | 4 | 2.2 | 1.0 | 250 | 1 | 4 | 2.2 | 0.9 |
| Q7最近2週間に以下のような問題がどのくらいの頻度でありましたか。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (心配な気持ちを抑えたり、コントロールできない) | 500 | 1 | 4 | 1.7 | 0.9 | 500 | 1 | 4 | 1.7 | 0.9 | 250 | 1 | 4 | 1.7 | 0.9 | 250 | 1 | 4 | 1.8 | 1.0 |
| Q7最近2週間に以下のような問題がどのくらいの頻度でありましたか。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (何かやるうとしてもほとんど興味が持てなかったり、楽しくない) | 500 | 1 | 4 | 1.9 | 1.0 | 500 | 1 | 4 | 1.9 | 0.9 | 250 | 1 | 4 | 1.8 | 0.9 | 250 | 1 | 4 | 1.9 | 0.9 |
| Q7最近2週間に以下のような問題がどのくらいの頻度でありましたか。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (気分が重かったり、憂鬱だったり、絶望的に感じる) | 500 | 1 | 4 | 1.8 | 0.9 | 500 | 1 | 4 | 1.8 | 1.0 | 250 | 1 | 4 | 1.8 | 0.9 | 250 | 1 | 4 | 1.9 | 1.0 |

| 設問文 | α 集 | | | | | β 集 | | | | | β-1集 | | | | | β-2集 | | | | |
|---|-----|------|------|--------|------|-----|------|------|--------|------|------|------|------|--------|------|------|------|------|--------|------|
| | 度数 | 最小値 | 最大値 | 平均値 | 標準偏差 | 度数 | 最小値 | 最大値 | 平均値 | 標準偏差 | 度数 | 最小値 | 最大値 | 平均値 | 標準偏差 | 度数 | 最小値 | 最大値 | 平均値 | 標準偏差 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Q8 以下の各項目について、最近2週間のあなたの状態に最も近いものに印をつけてください。
(明るく楽しい気分で過ごした) | 500 | 1 | 6 | 3.5 | 1.3 | 500 | 1 | 6 | 3.5 | 1.3 | 250 | 1 | 6 | 3.6 | 1.3 | 250 | 1 | 6 | 3.5 | 1.3 |
| Q8 以下の各項目について、最近2週間のあなたの状態に最も近いものに印をつけてください。
(落ち着いた、リラックスした気分で過ごした) | 500 | 1 | 6 | 3.6 | 1.2 | 500 | 1 | 6 | 3.7 | 1.3 | 250 | 1 | 6 | 3.7 | 1.3 | 250 | 1 | 6 | 3.6 | 1.3 |
| Q8 以下の各項目について、最近2週間のあなたの状態に最も近いものに印をつけてください。
(意欲的で、活動的に過ごした) | 500 | 1 | 6 | 3.3 | 1.4 | 500 | 1 | 6 | 3.3 | 1.3 | 250 | 1 | 6 | 3.3 | 1.3 | 250 | 1 | 6 | 3.3 | 1.3 |
| Q8 以下の各項目について、最近2週間のあなたの状態に最も近いものに印をつけてください。
(くすりと休め、気持ちよく目覚めた) | 500 | 1 | 6 | 3.4 | 1.4 | 500 | 1 | 6 | 3.4 | 1.4 | 250 | 1 | 6 | 3.4 | 1.3 | 250 | 1 | 6 | 3.3 | 1.4 |
| Q8 以下の各項目について、最近2週間のあなたの状態に最も近いものに印をつけてください。
(日常生活の中に、興味のあることがたくさんあった) | 500 | 1 | 6 | 3.2 | 1.3 | 500 | 1 | 6 | 3.3 | 1.3 | 250 | 1 | 6 | 3.3 | 1.2 | 250 | 1 | 6 | 3.3 | 1.3 |
| Q9. (自身の社会生活、仕事、公的サービスへのアクセスを考慮して答えてください。) あなたは、障外感を調 | 476 | 1 | 5 | 3.5 | 1.2 | 500 | 1 | 5 | 3.4 | 1.0 | 250 | 1 | 5 | 3.4 | 1.0 | 250 | 1 | 5 | 3.4 | 1.0 |
| Q10. 過去4週間、どのくらいの頻度で孤独を感じましたか。 | 472 | 1 | 5 | 3.9 | 1.2 | 500 | 1 | 5 | 3.8 | 1.1 | 250 | 1 | 5 | 3.8 | 1.2 | 250 | 1 | 5 | 3.8 | 1.1 |
| Q11. 全体として、最近の生活にどれくらい満足していますか。 | 500 | 1 | 11 | 6.2 | 2.5 | 500 | 1 | 11 | 6.7 | 2.6 | 250 | 1 | 11 | 6.8 | 2.5 | 250 | 1 | 11 | 6.6 | 2.6 |
| Q12. 同一世帯内で生活費を共にしている人数 (本人含む) をお知らせください。 | 500 | 1 | 10 | 2.6 | 1.3 | 500 | 1 | 7 | 2.4 | 1.2 | 250 | 1 | 7 | 2.4 | 1.2 | 250 | 1 | 6 | 2.5 | 1.2 |
| ※数字は半角数字で入力してください。(人) | 500 | 1 | 6 | 1.9 | 1.1 | 500 | 1 | 6 | 1.9 | 1.1 | 250 | 1 | 5 | 1.8 | 1.0 | 250 | 1 | 6 | 2.0 | 1.1 |
| Q13. 世帯主との続柄をお知らせください。 | 500 | 1951 | 2007 | 1977.3 | 15.3 | 500 | 1951 | 2007 | 1977.8 | 15.4 | 250 | 1951 | 2007 | 1977.6 | 15.5 | 250 | 1951 | 2007 | 1977.9 | 15.5 |
| Q14. あなたの生年 (西暦) ・月を記入してください。 | 500 | 1 | 12 | 6.4 | 3.5 | 500 | 1 | 12 | 6.5 | 3.5 | 250 | 1 | 12 | 6.2 | 3.4 | 250 | 1 | 12 | 6.7 | 3.5 |
| ※数字は半角数字で入力してください。(年) | 500 | 1 | 2 | 1.5 | 0.5 | 500 | 1 | 2 | 1.5 | 0.5 | 250 | 1 | 2 | 1.5 | 0.5 | 250 | 1 | 2 | 1.5 | 0.5 |
| Q14. あなたの生年 (西暦) ・月を記入してください。 | 500 | 1 | 47 | 19.8 | 11.2 | 500 | 1 | 48 | 19.7 | 11.7 | 250 | 1 | 47 | 20.3 | 12.0 | 250 | 1 | 48 | 19.1 | 11.3 |
| ※数字は半角数字で入力してください。(月) | 500 | 1 | 4 | 1.6 | 0.8 | 500 | 1 | 4 | 1.6 | 0.8 | 250 | 1 | 4 | 1.6 | 0.8 | 250 | 1 | 4 | 1.6 | 0.8 |
| Q15. あなたの現在の居住地をお答えください。 | 500 | 1 | 8 | 3.3 | 0.9 | 500 | 1 | 8 | 3.1 | 0.4 | 250 | 1 | 5 | 3.0 | 0.3 | 250 | 2 | 8 | 3.1 | 0.5 |
| Q16. あなたの現在の居住地をお答えください。 | 500 | 1 | 4 | 1.6 | 0.8 | 500 | 1 | 4 | 1.6 | 0.8 | 250 | 1 | 4 | 1.6 | 0.8 | 250 | 1 | 4 | 1.6 | 0.8 |
| Q17. 配偶者 (夫または妻) の有無をお答えください。 | 500 | 1 | 4 | 1.6 | 0.8 | 500 | 1 | 4 | 1.6 | 0.8 | 250 | 1 | 4 | 1.6 | 0.8 | 250 | 1 | 4 | 1.6 | 0.8 |
| Q18. 画面表示・動作の確認です。この設問では、内容に関わらず「趣味やスポーツに熱中している時」を選んで | 500 | 1 | 8 | 3.3 | 0.9 | 500 | 1 | 8 | 3.1 | 0.4 | 250 | 1 | 5 | 3.0 | 0.3 | 250 | 2 | 8 | 3.1 | 0.5 |

C 本調査における基本統計量等

本調査における基本統計量等を次頁の表 30 に示す。なお、表中に示す数値入力設問の統計値は、回答値の精査や外れ値・入力エラー等の除外処理を行っていない生データに基づく集計値であることに留意されたい。

表 30 本調査における基本統計量等

| 質問文 | α系 | | | | | β系 | | | | | β-1系 | | | | | β-2系 | | | | |
|---|------|-----|------|------|-------|------|-----|-----|------|------|------|-----|-----|------|------|------|-----|-----|------|------|
| | 件数 | 最小値 | 最大値 | 平均値 | 標準偏差 | 件数 | 最小値 | 最大値 | 平均値 | 標準偏差 | 件数 | 最小値 | 最大値 | 平均値 | 標準偏差 | 件数 | 最小値 | 最大値 | 平均値 | 標準偏差 |
| Q1-1.全体として、最近の生活にどれくらい満足していますか。
0を「全く満足していない」、10を「非常に満足している」として、0から10のスケールで回答してください。 | 2600 | 1 | 11 | 6.52 | 2.64 | 2600 | 1 | 11 | 6.43 | 2.44 | 1300 | 1 | 11 | 6.41 | 2.43 | 1300 | 1 | 11 | 6.45 | 2.46 |
| Q1-2.Q1-1「全体として、最近の生活にどれくらい満足していますか。」で、あなたが「最近」として想定した期間はどれくらいですか。(期間) | 2600 | 0 | 2025 | 5.82 | 42.64 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| X1.「全体として、最近の生活にどれくらい満足していますか。」で、あなたが「最近」として想定した期間はどれくらいですか。(単位) | 2600 | 1 | 4 | 3.35 | 0.91 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| Q1-3.全体として、最近1～3か月間の生活にどれくらい満足していますか。 | - | - | - | - | - | 2600 | 1 | 11 | 6.31 | 2.54 | 1300 | 1 | 11 | 6.34 | 2.47 | 1300 | 1 | 11 | 6.28 | 2.61 |
| Q1-4.全体として、最近1年間の生活にどれくらい満足していますか。 | - | - | - | - | - | 2600 | 1 | 11 | 6.36 | 2.51 | 1300 | 1 | 11 | 6.37 | 2.46 | 1300 | 1 | 11 | 6.34 | 2.56 |
| Q1-5.全体として、最近3～5年間の生活にどれくらい満足していますか。 | - | - | - | - | - | 2600 | 1 | 11 | 6.34 | 2.46 | 1300 | 1 | 11 | 6.32 | 2.46 | 1300 | 1 | 11 | 6.36 | 2.47 |
| Q1-3.全体として、1年間の生活にどれくらい満足していますか。 | 2600 | 1 | 11 | 6.40 | 2.58 | 2600 | 1 | 11 | 6.31 | 2.50 | 1300 | 1 | 11 | 6.30 | 2.50 | 1300 | 1 | 11 | 6.31 | 2.49 |
| Q1-4.全体として、ご自身の将来についてどの程度希望を感じていますか。 | 2600 | 1 | 11 | 6.09 | 2.67 | 2600 | 1 | 11 | 5.93 | 2.57 | 1300 | 1 | 11 | 5.90 | 2.55 | 1300 | 1 | 11 | 5.97 | 2.59 |
| Q1-5.以下の質問では、あなたの生活に関する特定の分野について、どの程度満足しているかを教えてください。
0を「全く満足していない」、10を「非常に満足している」として、0から10のスケールで回答してください。 | 2600 | 1 | 11 | 6.74 | 2.68 | 2600 | 1 | 11 | 6.73 | 2.74 | 1300 | 1 | 11 | 6.72 | 2.74 | 1300 | 1 | 11 | 6.75 | 2.75 |
| (住宅の質・居住環境) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Q1-5.以下の質問では、あなたの生活に関する特定の分野について、どの程度満足しているかを教えてください。
0を「全く満足していない」、10を「非常に満足している」として、0から10のスケールで回答してください。 | 2600 | 1 | 11 | 5.91 | 2.69 | 2600 | 1 | 11 | 5.88 | 2.66 | 1300 | 1 | 11 | 5.85 | 2.68 | 1300 | 1 | 11 | 5.91 | 2.65 |
| (統計支出状況・やりくり) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Q1-5.以下の質問では、あなたの生活に関する特定の分野について、どの程度満足しているかを教えてください。
0を「全く満足していない」、10を「非常に満足している」として、0から10のスケールで回答してください。 | 1340 | 1 | 11 | 5.88 | 2.83 | 1299 | 1 | 11 | 5.90 | 2.77 | 650 | 1 | 11 | 5.88 | 2.74 | 649 | 1 | 11 | 5.93 | 2.81 |
| (育児の状況) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Q1-5.以下の質問では、あなたの生活に関する特定の分野について、どの程度満足しているかを教えてください。
0を「全く満足していない」、10を「非常に満足している」として、0から10のスケールで回答してください。 | 2185 | 1 | 11 | 6.06 | 2.71 | 2176 | 1 | 11 | 6.17 | 2.69 | 1100 | 1 | 11 | 6.09 | 2.68 | 1076 | 1 | 11 | 6.24 | 2.70 |
| (就業状況・労働環境) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Q1-5.以下の質問では、あなたの生活に関する特定の分野について、どの程度満足しているかを教えてください。
0を「全く満足していない」、10を「非常に満足している」として、0から10のスケールで回答してください。 | 2600 | 1 | 11 | 6.45 | 2.58 | 2600 | 1 | 11 | 6.47 | 2.58 | 1300 | 1 | 11 | 6.49 | 2.59 | 1300 | 1 | 11 | 6.45 | 2.56 |
| (あなたご自身の教育環境・教育水準) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Q1-5.以下の質問では、あなたの生活に関する特定の分野について、どの程度満足しているかを教えてください。
0を「全く満足していない」、10を「非常に満足している」として、0から10のスケールで回答してください。 | 2600 | 1 | 11 | 5.87 | 2.79 | 2600 | 1 | 11 | 5.78 | 2.77 | 1300 | 1 | 11 | 5.76 | 2.76 | 1300 | 1 | 11 | 5.80 | 2.77 |
| (世帯・自身の所得や資産) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Q1-5.以下の質問では、あなたの生活に関する特定の分野について、どの程度満足しているかを教えてください。
0を「全く満足していない」、10を「非常に満足している」として、0から10のスケールで回答してください。 | 2600 | 1 | 11 | 6.19 | 2.55 | 2600 | 1 | 11 | 6.22 | 2.54 | 1300 | 1 | 11 | 6.26 | 2.55 | 1300 | 1 | 11 | 6.18 | 2.52 |
| (社会とのつながり) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Q1-5.以下の質問では、あなたの生活に関する特定の分野について、どの程度満足しているかを教えてください。
0を「全く満足していない」、10を「非常に満足している」として、0から10のスケールで回答してください。 | 2600 | 1 | 11 | 6.28 | 2.54 | 2600 | 1 | 11 | 6.15 | 2.53 | 1300 | 1 | 11 | 6.13 | 2.53 | 1300 | 1 | 11 | 6.16 | 2.53 |
| (人生で本当にやりたいことや価値のあることができる) | 2600 | 1 | 11 | 5.77 | 2.62 | 2600 | 1 | 7 | 3.79 | 1.50 | 1300 | 1 | 7 | 3.78 | 1.52 | 1300 | 1 | 7 | 3.81 | 1.49 |
| Q2.2.以下の質問では、自分の人生でやっていることとどの程度の価値があると感じていますか。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 0を「全く満足していない」、10を「非常に満足している」として、0から10のスケールを使ってあなたの気持ちを示してください。 | 2600 | 1 | 11 | 5.49 | 2.56 | 2600 | 1 | 7 | 3.68 | 1.47 | 1300 | 1 | 7 | 3.65 | 1.47 | 1300 | 1 | 7 | 3.71 | 1.46 |
| (1は毎日、自分の行っていることから達成感を得ている) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Q2.2.以下の質問について、どの程度あてはまりますか。 | 2600 | 1 | 11 | 5.83 | 2.69 | 2600 | 1 | 7 | 3.88 | 1.53 | 1300 | 1 | 7 | 3.86 | 1.53 | 1300 | 1 | 7 | 3.90 | 1.53 |
| 0を「全くあてはまらない」、10を「完全にあてはまる」として、0から10のスケールを使ってあなたの気持ちを示してください。 | 2600 | 1 | 11 | 6.13 | 2.67 | 2600 | 1 | 7 | 4.11 | 1.51 | 1300 | 1 | 7 | 4.11 | 1.51 | 1300 | 1 | 7 | 4.12 | 1.50 |
| Q2.2.以下の質問について、どの程度あてはまりますか。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 0を「全くあてはまらない」、10を「完全にあてはまる」として、0から10のスケールを使ってあなたの気持ちを示してください。 | 2600 | 1 | 11 | 6.31 | 2.71 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| (私にとって人生は、学び、変化し、成長し続けるものである) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Q3-1.全体として、最近の生活にどれくらい満足していますか。 | 2600 | 1 | 11 | 5.72 | 2.54 | 2600 | 1 | 11 | 5.65 | 2.51 | 1300 | 1 | 11 | 5.81 | 2.52 | 1300 | 1 | 11 | 5.89 | 2.50 |
| 0を「全く不満はない」、10を「非常に不満である」として、0から10のスケールで回答してください。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 設問文 | α 系 | | | | | β 系 | | | | | β-1系 | | | | | β-2系 | | | | |
|--|------|------|--------|---------|----------|------|------|--------|---------|----------|------|------|--------|---------|----------|------|------|--------|---------|----------|
| | 件数 | 最小値 | 最大値 | 平均値 | 標準偏差 | 件数 | 最小値 | 最大値 | 平均値 | 標準偏差 | 件数 | 最小値 | 最大値 | 平均値 | 標準偏差 | 件数 | 最小値 | 最大値 | 平均値 | 標準偏差 |
| | α 系 | β 系 | β-1系 | β-2系 | α 系 | β 系 | β-1系 | β-2系 | α 系 | β 系 | β-1系 | β-2系 | α 系 | β 系 | β-1系 | α 系 | β 系 | β-1系 | β-2系 | α 系 |
| Q9. 自身の社会生活、仕事、公的サービスへのアクセスを考慮してください。あなたは、哪外都を覚えてますか。 | 2411 | 1 | 5 | 3.57 | 1.26 | 2600 | 1 | 5 | 3.33 | 1.06 | 1300 | 1 | 5 | 3.30 | 1.05 | 1300 | 1 | 5 | 3.35 | 1.06 |
| Q10. 過去4週間、どのくらいの頻度で孤独を感じましたか。 | 2387 | 1 | 5 | 3.89 | 1.29 | 2600 | 1 | 5 | 3.71 | 1.20 | 1300 | 1 | 5 | 3.71 | 1.20 | 1300 | 1 | 5 | 3.72 | 1.19 |
| Q11. 全体として、最近の生活にどれくらい満足していますか。 | 2600 | 1 | 11 | 6.24 | 2.63 | 2600 | 1 | 11 | 6.84 | 2.53 | 1300 | 1 | 11 | 6.83 | 2.55 | 1300 | 1 | 11 | 6.84 | 2.52 |
| Q12. ご自身を含め、現在あなたのご家庭で同居されている方をすべてお選びください。（いくつでも） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ※あなたから見た年齢をお答えください。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1. 配偶者/パートナー | 1377 | 0 | 1 | 0.53 | 0.50 | 1394 | 0 | 1 | 0.54 | 0.50 | 711 | 0 | 1 | 0.55 | 0.50 | 683 | 0 | 1 | 0.53 | 0.50 |
| 2. 小学生以下の子ども | 335 | 0 | 1 | 0.13 | 0.34 | 344 | 0 | 1 | 0.13 | 0.34 | 173 | 0 | 1 | 0.13 | 0.34 | 171 | 0 | 1 | 0.13 | 0.34 |
| 3. 中学生以上の子ども | 472 | 0 | 1 | 0.16 | 0.39 | 477 | 0 | 1 | 0.16 | 0.39 | 243 | 0 | 1 | 0.19 | 0.39 | 234 | 0 | 1 | 0.18 | 0.38 |
| 4. あなた | 421 | 0 | 1 | 0.16 | 0.37 | 494 | 0 | 1 | 0.19 | 0.39 | 235 | 0 | 1 | 0.18 | 0.38 | 259 | 0 | 1 | 0.20 | 0.40 |
| 5. あなたの親 | 507 | 0 | 1 | 0.20 | 0.40 | 566 | 0 | 1 | 0.22 | 0.41 | 260 | 0 | 1 | 0.20 | 0.40 | 306 | 0 | 1 | 0.24 | 0.42 |
| 6. 兄弟・姉妹 | 173 | 0 | 1 | 0.07 | 0.25 | 208 | 0 | 1 | 0.08 | 0.27 | 84 | 0 | 1 | 0.06 | 0.25 | 124 | 0 | 1 | 0.10 | 0.29 |
| 7. その他 | 79 | 0 | 1 | 0.03 | 0.17 | 74 | 0 | 1 | 0.03 | 0.17 | 35 | 0 | 1 | 0.03 | 0.16 | 39 | 0 | 1 | 0.03 | 0.17 |
| 8. 同居していない人はいない | 630 | 0 | 1 | 0.24 | 0.43 | 563 | 0 | 1 | 0.22 | 0.41 | 292 | 0 | 1 | 0.22 | 0.42 | 271 | 0 | 1 | 0.21 | 0.41 |
| Q13. 同一世帯内で生活費を共にしている人数（本人含む）をお知らせください。 | 2600 | 1 | 99 | 2.43 | 2.26 | 2600 | 1 | 33 | 2.50 | 1.53 | 1300 | 1 | 33 | 2.47 | 1.60 | 1300 | 1 | 22 | 2.52 | 1.46 |
| ※数字は半角数字で入力してください。（人） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Q14. 世帯主との関係をお知らせください。 | 2600 | 1 | 6 | 1.87 | 1.13 | 2600 | 1 | 6 | 1.84 | 1.07 | 1300 | 1 | 6 | 1.81 | 1.05 | 1300 | 1 | 6 | 1.87 | 1.10 |
| ※数字は半角数字で入力してください。（年） | 2600 | 1951 | 2008 | 1977.37 | 15.25 | 2600 | 1951 | 2007 | 1977.32 | 15.21 | 1300 | 1951 | 2007 | 1977.43 | 15.18 | 1300 | 1951 | 2007 | 1977.22 | 15.24 |
| Q15. あなたの生年（西暦）月を記入してください。 | 2600 | 1 | 12 | 6.44 | 3.49 | 2600 | 1 | 12 | 6.54 | 3.49 | 1300 | 1 | 12 | 6.50 | 3.45 | 1300 | 1 | 12 | 6.38 | 3.53 |
| ※数字は半角数字で入力してください。（月） | 2600 | 1 | 2 | 1.50 | 0.50 | 2600 | 1 | 2 | 1.50 | 0.50 | 1300 | 1 | 2 | 1.50 | 0.50 | 1300 | 1 | 2 | 1.50 | 0.50 |
| Q16. あなたの性別をお答えください。 | 2600 | 1 | 48 | 19.73 | 11.40 | 2600 | 1 | 48 | 19.81 | 11.50 | 1300 | 1 | 48 | 19.75 | 11.42 | 1300 | 1 | 48 | 19.88 | 11.58 |
| Q17. あなたの現在の居住地をお答えください。 | 2600 | 1 | 4 | 1.63 | 0.84 | 2600 | 1 | 4 | 1.62 | 0.84 | 1300 | 1 | 4 | 1.60 | 0.83 | 1300 | 1 | 4 | 1.63 | 0.85 |
| Q18. 配偶者（または妻）の有無をお答えください。 | 2600 | 1 | 6 | 1.63 | 1.17 | 2600 | 1 | 6 | 1.62 | 1.15 | 1300 | 1 | 6 | 1.65 | 1.17 | 1300 | 1 | 6 | 1.58 | 1.12 |
| Q19. あなたはどのような住居に暮らしていますか。 | 2600 | 1 | 99 | 4.01 | 3.51 | 2600 | 1 | 99 | 3.99 | 3.56 | 1300 | 1 | 99 | 3.92 | 3.69 | 1300 | 1 | 74 | 4.05 | 3.43 |
| ※居住用の部屋数には、キッチン、浴室、トイレ、廊下、物置、バルコニー、業務用の部屋は含まずにお答えください。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Q20. お住まいの住居全体の床面積はどれくらいですか。床面積には、キッチン、浴室、トイレ、廊下も含まれます。 | 2600 | 1 | 999999 | 1384.16 | 34359.29 | 2600 | 1 | 999999 | 1667.32 | 39211.51 | 1300 | 1 | 999999 | 1670.74 | 39222.70 | 1300 | 1 | 999999 | 1663.89 | 39215.42 |
| ※床面積には、バルコニーは含まれません。 ※ 床面積の換算 一坪=33㎡ 2畳=33㎡ | 2600 | 1 | 999999 | 1384.16 | 34359.29 | 2600 | 1 | 999999 | 1667.32 | 39211.51 | 1300 | 1 | 999999 | 1670.74 | 39222.70 | 1300 | 1 | 999999 | 1663.89 | 39215.42 |
| ※数字は半角数字で入力してください。（㎡） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Q22. 1ヶ月の家賃又は間代をお知らせください。 | 927 | 0 | 140000 | 2901.04 | 14124.70 | 912 | 0 | 125000 | 3415.90 | 15291.43 | 483 | 0 | 110000 | 3370.25 | 14712.10 | 429 | 0 | 125000 | 3467.29 | 15935.62 |
| ※共益費または管理費（共用部分の電気料・清掃費など）も含めてください。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ※無向の場合は「0」万円と書いてください。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ※数字は半角数字で入力してください。（万円） | 2600 | 1 | 6 | 3.57 | 1.19 | 2600 | 1 | 6 | 3.57 | 1.18 | 1300 | 1 | 6 | 3.54 | 1.19 | 1300 | 1 | 6 | 3.60 | 1.16 |
| Q23. あなたのご家庭における毎月の収入を考えて、費計はやりくりできていますか。 | 2600 | 1 | 2 | 1.54 | 0.50 | 2600 | 1 | 2 | 1.54 | 0.50 | 1300 | 1 | 2 | 1.54 | 0.50 | 1300 | 1 | 2 | 1.53 | 0.50 |
| ※ご家庭全員の収入を含めてお答えください。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Q24. あなたの「ご家庭の経済的な余裕はどの程度ですか。（1はのうら、少なくとも連続して1週間の休職を自宅外（友人・家族宅等での滞在や世帯所有の休職用宿泊施設を含む）で過ごすことができます） | 2600 | 1 | 2 | 1.18 | 0.38 | 2600 | 1 | 2 | 1.19 | 0.39 | 1300 | 1 | 2 | 1.19 | 0.39 | 1300 | 1 | 2 | 1.18 | 0.39 |
| Q24. あなたの「ご家庭の経済的な余裕はどの程度ですか。（2は1回、肉・鶏肉・魚を含む食事、または同等のベジタリアン食を摂取することができます） | 2600 | 1 | 2 | 1.30 | 0.46 | 2600 | 1 | 2 | 1.31 | 0.46 | 1300 | 1 | 2 | 1.30 | 0.46 | 1300 | 1 | 2 | 1.31 | 0.46 |
| Q24. あなたの「ご家庭の経済的な余裕はどの程度ですか。（住居を満員に保つことができます） | 2600 | 1 | 2 | 1.20 | 0.40 | 2600 | 1 | 2 | 1.20 | 0.40 | 1300 | 1 | 2 | 1.20 | 0.40 | 1300 | 1 | 2 | 1.20 | 0.40 |

| 設問文 | α 集 | | | | | β 集 | | | | | β -1集 | | | | | β -2集 | | | | |
|---|------|-----|-----|-------|-------|------|-----|-----|-------|-------|-------|-----|-----|-------|-------|-------|-----|-----|-------|-------|
| | 度数 | 最小値 | 最大値 | 平均値 | 標準偏差 | 度数 | 最小値 | 最大値 | 平均値 | 標準偏差 | 度数 | 最小値 | 最大値 | 平均値 | 標準偏差 | 度数 | 最小値 | 最大値 | 平均値 | 標準偏差 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Q34.就業している方にお伺いします。過去1週間の総就業時間をお知らせください。
なお、複数の仕事をした場合、すべての合計をお答えください。
※就業を行っていない方は「0時間」と入力してください。
※数字は半角数字で入力してください。(10問) | 2600 | 0 | 161 | 23.94 | 21.93 | 2600 | 0 | 168 | 24.79 | 21.19 | 1300 | 0 | 100 | 25.25 | 20.80 | 1300 | 0 | 168 | 24.33 | 21.56 |
| Q35.過去5年間で振り返って、失業していた期間はありましたか。
※現在失業中の方も「過去5年間で失業歴はある」とお答えください。
※過去5年間で過去5年間に失業歴が「ある」と回答した方にお伺いします。直近の失業期間はどのくらいでしたか。
※現在失業中の方は現在までの期間をお答えください。(ヶ月間)
※失業期間が1ヶ月未満の方は「1ヶ月間」と書いてください。
※失業期間ではない方にお伺いします。就業希望の有無についてお知らせください。
Q36.求職中ではない方にお伺いします。就業希望の有無についてお知らせください。
Q37.求職中、転職活動の状況をお知らせください。現在採用結果を待っている方も「仕事を探している」を選択してください。
Q38.あなたの最終学歴をお知らせください。
※海外で取得した資格は日本の同等資格に換算してください。
※中学校卒業その他これに準ずる経歴のうち最も程度の高いものを最終学歴としてご回答ください。在学中の学校は最終学歴ではありません。
Q39.過去12か月に、生徒、学生であったことがありますか。
※期間の一部のみ該当する場合でも「はい」とお答えください。
Q40.慢性的疾患や長期にわたる健康上の問題をお持ちですか。
※少なくとも6か月間持続している、または持続すると予想される病気や健康上の問題があれば「はい」とお答えください。
Q41.健康上の問題により、日常生活の活動に制限がありますか。
Q42.あなたの過去1か月の平均通勤時間をお知らせください。
Q43.画面表示・動作の確認です。この設問では、内容に関わらず「画面やスガーズに集中している時」を選んでください。
Q44.あなたの世帯全体の年間収入(税、社会保険料込)はおよそどのくらいですか。
Q45.あなたご自身の仕事による年間収入(税、社会保険料込)はおよそどのくらいですか。
Q46.あなたの世帯全体の金融資産(預貯金や有価証券等)は、およそどのくらいですか。
(純資産(負債の額から借金の額を引いたもの)ではなく、借金を引く前の額をお答えください)
Q47.ふだん、親族/友人と直接会って一緒に過ごすのはどのくらいの頻度ですか。
(親族)
Q47.ふだん、親族/友人と直接会って一緒に過ごすのはどのくらいの頻度ですか。
(友人)
Q48.過去12か月に、次の活動に参加しましたか。参加した場合、その頻度はどの程度ですか。
(ボランティア・地域活動)
Q48.過去12か月に、次の活動に参加しましたか。参加した場合、その頻度はどの程度ですか。
(レジャー・運動)
Q49.もし必要になったとき、金銭的援助(お金、ローン、または同僚の支援)を頼める親戚、友人、隣人、その他の人はいいますか。
※同居している方を除いてお答えください。
Q50.もし必要になったとき、金銭的援助以外の助けを頼める親戚、友人、隣人、その他の人はいいますか。
例えば、個人的な問題について話す相手や、日暮の活動を手伝ってくれる人を想像してください。
※同居している方を除いてお答えください。
Q51.過去起きた出来事についてお聞きします。それぞれの期間に起きた出来事について当てはまるものを選んでください。
※その期間に該当するものがない場合は、「当てはまるものはない」を選んでください。
※基準日は本日と、例えばちょうど1年前の出来事は「3か月前(1年以内)」に含めてください。 | 2600 | 1 | 2 | 1.27 | 0.44 | 2600 | 1 | 2 | 1.27 | 0.44 | 2600 | 1 | 2 | 1.25 | 0.43 | 1300 | 1 | 2 | 1.28 | 0.45 |
| 1.引うつ越えをした | 40 | 0 | 1 | 0.02 | 0.12 | 57 | 0 | 1 | 0.02 | 0.15 | 26 | 0 | 1 | 0.02 | 0.14 | 31 | 0 | 1 | 0.02 | 0.15 |
| 2.配偶者・パートナーとの同居を始めた | 27 | 0 | 1 | 0.01 | 0.10 | 30 | 0 | 1 | 0.01 | 0.11 | 14 | 0 | 1 | 0.01 | 0.10 | 16 | 0 | 1 | 0.01 | 0.11 |
| 3.配偶者・パートナーとの同居をやめた | 42 | 0 | 1 | 0.02 | 0.13 | 34 | 0 | 1 | 0.01 | 0.11 | 19 | 0 | 1 | 0.01 | 0.12 | 15 | 0 | 1 | 0.01 | 0.11 |
| 4.働き始めた(就業開始) | 41 | 0 | 1 | 0.02 | 0.12 | 38 | 0 | 1 | 0.01 | 0.12 | 24 | 0 | 1 | 0.02 | 0.13 | 14 | 0 | 1 | 0.01 | 0.10 |
| 5.仕事を辞めた(離職・退職) | 24 | 0 | 1 | 0.01 | 0.10 | 21 | 0 | 1 | 0.01 | 0.09 | 12 | 0 | 1 | 0.01 | 0.10 | 9 | 0 | 1 | 0.01 | 0.08 |
| 6.転職した | 13 | 0 | 1 | 0.01 | 0.07 | 12 | 0 | 1 | 0.00 | 0.07 | 9 | 0 | 1 | 0.01 | 0.08 | 3 | 0 | 1 | 0.00 | 0.05 |
| 7.新たな健康上の問題(病気・けが等)と診断された(あなた本人/配偶者・パートナー) | 44 | 0 | 1 | 0.02 | 0.13 | 32 | 0 | 1 | 0.01 | 0.11 | 19 | 0 | 1 | 0.01 | 0.12 | 13 | 0 | 1 | 0.01 | 0.10 |
| 8.子どもが独り立ちをした | 4 | 0 | 1 | 0.00 | 0.04 | 7 | 0 | 1 | 0.00 | 0.05 | 4 | 0 | 1 | 0.00 | 0.06 | 3 | 0 | 1 | 0.00 | 0.05 |
| 9.出産があった(あなた本人/配偶者・パートナー) | 4 | 0 | 1 | 0.00 | 0.04 | 9 | 0 | 1 | 0.00 | 0.06 | 7 | 0 | 1 | 0.01 | 0.07 | 2 | 0 | 1 | 0.00 | 0.04 |
| 10.身近な人との別居があった(配偶者・パートナー、家族、親族、親しい友人など) | 32 | 0 | 1 | 0.01 | 0.11 | 34 | 0 | 1 | 0.01 | 0.11 | 22 | 0 | 1 | 0.02 | 0.13 | 12 | 0 | 1 | 0.01 | 0.10 |
| 11.離婚した | 1 | 0 | 1 | 0.00 | 0.02 | 3 | 0 | 1 | 0.00 | 0.03 | 2 | 0 | 1 | 0.00 | 0.04 | 1 | 0 | 1 | 0.00 | 0.03 |
| 12.当てはまるものはない | 2355 | 0 | 1 | 0.91 | 0.29 | 2357 | 0 | 1 | 0.91 | 0.29 | 1170 | 0 | 1 | 0.90 | 0.30 | 1187 | 0 | 1 | 0.91 | 0.28 |

| 設問文 | α 系 | | | | | β 系 | | | | | β-1系 | | | | | β-2系 | | | | |
|---|-----|-----|-----|------|------|-----|-----|-----|------|------|------|-----|-----|------|------|------|-----|-----|------|------|
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 度数 | 最小値 | 最大値 | 平均値 | 標準偏差 | 度数 | 最小値 | 最大値 | 平均値 | 標準偏差 | 度数 | 最小値 | 最大値 | 平均値 | 標準偏差 | 度数 | 最小値 | 最大値 | 平均値 | 標準偏差 |
| Q01.過去起きた出来事についてお聞きします。それぞれの期間に起きた出来事について当てはまるものすべてを選んでください。
※その期間に該当するものがない場合は、「当てはまるものはない」を選んでください。
※基準日は本日とし、例えばちょうど1年前の出来事は「3か月超～1年以内」に含めてください。 | 41 | 0 | 1 | 0.02 | 0.12 | 44 | 0 | 1 | 0.02 | 0.13 | 23 | 0 | 1 | 0.02 | 0.13 | 21 | 0 | 1 | 0.02 | 0.13 |
| 1.引っこ越した | 37 | 0 | 1 | 0.01 | 0.12 | 35 | 0 | 1 | 0.01 | 0.12 | 14 | 0 | 1 | 0.01 | 0.10 | 21 | 0 | 1 | 0.02 | 0.13 |
| 2.配偶者・パートナーとの同居を始めた | 49 | 0 | 1 | 0.02 | 0.14 | 40 | 0 | 1 | 0.02 | 0.12 | 20 | 0 | 1 | 0.02 | 0.12 | 20 | 0 | 1 | 0.02 | 0.12 |
| 3.配偶者・パートナーとの同居をやめた | 37 | 0 | 1 | 0.01 | 0.12 | 35 | 0 | 1 | 0.01 | 0.12 | 17 | 0 | 1 | 0.01 | 0.11 | 18 | 0 | 1 | 0.01 | 0.12 |
| 4.働き始めた（就業開始） | 46 | 0 | 1 | 0.02 | 0.13 | 32 | 0 | 1 | 0.01 | 0.11 | 13 | 0 | 1 | 0.01 | 0.10 | 19 | 0 | 1 | 0.01 | 0.12 |
| 5.仕事を辞めた（離職・退職） | 26 | 0 | 1 | 0.01 | 0.10 | 17 | 0 | 1 | 0.01 | 0.08 | 9 | 0 | 1 | 0.01 | 0.08 | 8 | 0 | 1 | 0.01 | 0.08 |
| 6.転職した | 42 | 0 | 1 | 0.02 | 0.13 | 40 | 0 | 1 | 0.02 | 0.12 | 20 | 0 | 1 | 0.02 | 0.12 | 20 | 0 | 1 | 0.02 | 0.12 |
| 7.新たな健康上の問題（病気・けが等）と診断された（あなた本人／配偶者・パートナー） | 5 | 0 | 1 | 0.00 | 0.04 | 8 | 0 | 1 | 0.00 | 0.06 | 3 | 0 | 1 | 0.00 | 0.05 | 5 | 0 | 1 | 0.00 | 0.06 |
| 8.子どもが独り立ちをした | 14 | 0 | 1 | 0.01 | 0.07 | 6 | 0 | 1 | 0.00 | 0.05 | 2 | 0 | 1 | 0.00 | 0.04 | 4 | 0 | 1 | 0.00 | 0.06 |
| 9.出産があった（あなた本人／配偶者・パートナー） | 36 | 0 | 1 | 0.01 | 0.12 | 29 | 0 | 1 | 0.01 | 0.11 | 13 | 0 | 1 | 0.01 | 0.10 | 16 | 0 | 1 | 0.01 | 0.11 |
| 10.身近な人との死別があった（配偶者・パートナー、家族・親族、親しい友人など） | 3 | 0 | 1 | 0.00 | 0.03 | 3 | 0 | 1 | 0.00 | 0.03 | 1 | 0 | 1 | 0.00 | 0.03 | 2 | 0 | 1 | 0.00 | 0.04 |
| 11.離婚した | 23 | 0 | 1 | 0.00 | 0.06 | 8 | 0 | 1 | 0.00 | 0.06 | 6 | 0 | 1 | 0.00 | 0.07 | 2 | 0 | 1 | 0.00 | 0.04 |
| 12.当てはまるものはない | 23 | 0 | 1 | 0.89 | 0.31 | 23 | 0 | 1 | 0.90 | 0.30 | 11 | 0 | 1 | 0.91 | 0.29 | 11 | 0 | 1 | 0.90 | 0.31 |
| Q01.過去起きた出来事についてお聞きします。それぞれの期間に起きた出来事について当てはまるものすべてを選んでください。
※その期間に該当するものがない場合は、「当てはまるものはない」を選んでください。
※基準日は本日とし、例えばちょうど1年前の出来事は「3か月超～1年以内」に含めてください。 | 92 | 0 | 1 | 0.04 | 0.18 | 111 | 0 | 1 | 0.04 | 0.20 | 52 | 0 | 1 | 0.04 | 0.20 | 59 | 0 | 1 | 0.05 | 0.21 |
| 1.引っこ越した | 30 | 0 | 1 | 0.01 | 0.11 | 39 | 0 | 1 | 0.02 | 0.12 | 19 | 0 | 1 | 0.01 | 0.12 | 20 | 0 | 1 | 0.02 | 0.12 |
| 2.配偶者・パートナーとの同居を始めた | 62 | 0 | 1 | 0.02 | 0.15 | 46 | 0 | 1 | 0.02 | 0.13 | 24 | 0 | 1 | 0.02 | 0.13 | 22 | 0 | 1 | 0.02 | 0.13 |
| 3.配偶者・パートナーとの同居をやめた | 98 | 0 | 1 | 0.04 | 0.19 | 87 | 0 | 1 | 0.03 | 0.18 | 41 | 0 | 1 | 0.03 | 0.17 | 46 | 0 | 1 | 0.04 | 0.18 |
| 4.働き始めた（就業開始） | 94 | 0 | 1 | 0.04 | 0.19 | 80 | 0 | 1 | 0.03 | 0.17 | 46 | 0 | 1 | 0.04 | 0.18 | 34 | 0 | 1 | 0.03 | 0.16 |
| 5.仕事を辞めた（離職・退職） | 56 | 0 | 1 | 0.02 | 0.15 | 61 | 0 | 1 | 0.02 | 0.15 | 31 | 0 | 1 | 0.02 | 0.15 | 30 | 0 | 1 | 0.02 | 0.15 |
| 6.転職した | 71 | 0 | 1 | 0.03 | 0.16 | 76 | 0 | 1 | 0.03 | 0.17 | 37 | 0 | 1 | 0.03 | 0.17 | 39 | 0 | 1 | 0.03 | 0.17 |
| 7.新たな健康上の問題（病気・けが等）と診断された（あなた本人／配偶者・パートナー） | 23 | 0 | 1 | 0.01 | 0.09 | 22 | 0 | 1 | 0.01 | 0.09 | 10 | 0 | 1 | 0.01 | 0.09 | 12 | 0 | 1 | 0.01 | 0.10 |
| 8.子どもが独り立ちをした | 31 | 0 | 1 | 0.01 | 0.11 | 20 | 0 | 1 | 0.01 | 0.09 | 10 | 0 | 1 | 0.01 | 0.09 | 10 | 0 | 1 | 0.01 | 0.09 |
| 9.出産があった（あなた本人／配偶者・パートナー） | 74 | 0 | 1 | 0.03 | 0.17 | 79 | 0 | 1 | 0.03 | 0.17 | 38 | 0 | 1 | 0.03 | 0.17 | 41 | 0 | 1 | 0.03 | 0.17 |
| 10.身近な人との死別があった（配偶者・パートナー、家族・親族、親しい友人など） | 9 | 0 | 1 | 0.00 | 0.06 | 8 | 0 | 1 | 0.00 | 0.06 | 6 | 0 | 1 | 0.00 | 0.07 | 2 | 0 | 1 | 0.00 | 0.04 |
| 11.離婚した | 21 | 0 | 1 | 0.81 | 0.39 | 21 | 0 | 1 | 0.81 | 0.39 | 10 | 0 | 1 | 0.82 | 0.39 | 10 | 0 | 1 | 0.81 | 0.39 |
| 12.当てはまるものはない | 21 | 0 | 1 | 0.81 | 0.39 | 21 | 0 | 1 | 0.81 | 0.39 | 10 | 0 | 1 | 0.82 | 0.39 | 10 | 0 | 1 | 0.81 | 0.39 |
| Q01.過去起きた出来事についてお聞きします。それぞれの期間に起きた出来事について当てはまるものすべてを選んでください。
※その期間に該当するものがない場合は、「当てはまるものはない」を選んでください。
※基準日は本日とし、例えばちょうど1年前の出来事は「3か月超～1年以内」に含めてください。 | 185 | 0 | 1 | 0.07 | 0.26 | 172 | 0 | 1 | 0.07 | 0.25 | 84 | 0 | 1 | 0.06 | 0.25 | 88 | 0 | 1 | 0.07 | 0.25 |
| 1.引っこ越した | 67 | 0 | 1 | 0.03 | 0.15 | 60 | 0 | 1 | 0.02 | 0.15 | 31 | 0 | 1 | 0.02 | 0.15 | 29 | 0 | 1 | 0.02 | 0.15 |
| 2.配偶者・パートナーとの同居を始めた | 61 | 0 | 1 | 0.02 | 0.15 | 44 | 0 | 1 | 0.02 | 0.13 | 19 | 0 | 1 | 0.01 | 0.12 | 25 | 0 | 1 | 0.02 | 0.14 |
| 3.配偶者・パートナーとの同居をやめた | 112 | 0 | 1 | 0.04 | 0.20 | 96 | 0 | 1 | 0.04 | 0.19 | 52 | 0 | 1 | 0.04 | 0.20 | 44 | 0 | 1 | 0.03 | 0.18 |
| 4.働き始めた（就業開始） | 125 | 0 | 1 | 0.05 | 0.21 | 110 | 0 | 1 | 0.04 | 0.20 | 56 | 0 | 1 | 0.04 | 0.20 | 54 | 0 | 1 | 0.04 | 0.20 |
| 5.仕事を辞めた（離職・退職） | 95 | 0 | 1 | 0.04 | 0.19 | 93 | 0 | 1 | 0.04 | 0.19 | 57 | 0 | 1 | 0.04 | 0.20 | 36 | 0 | 1 | 0.03 | 0.16 |
| 6.転職した | 71 | 0 | 1 | 0.03 | 0.16 | 80 | 0 | 1 | 0.03 | 0.17 | 49 | 0 | 1 | 0.04 | 0.19 | 31 | 0 | 1 | 0.02 | 0.15 |
| 7.新たな健康上の問題（病気・けが等）と診断された（あなた本人／配偶者・パートナー） | 40 | 0 | 1 | 0.02 | 0.12 | 29 | 0 | 1 | 0.01 | 0.11 | 12 | 0 | 1 | 0.01 | 0.10 | 17 | 0 | 1 | 0.01 | 0.11 |
| 8.子どもが独り立ちをした | 28 | 0 | 1 | 0.01 | 0.10 | 41 | 0 | 1 | 0.02 | 0.12 | 23 | 0 | 1 | 0.02 | 0.13 | 18 | 0 | 1 | 0.01 | 0.12 |
| 9.出産があった（あなた本人／配偶者・パートナー） | 146 | 0 | 1 | 0.06 | 0.23 | 134 | 0 | 1 | 0.05 | 0.22 | 71 | 0 | 1 | 0.05 | 0.23 | 63 | 0 | 1 | 0.05 | 0.21 |
| 10.身近な人との死別があった（配偶者・パートナー、家族・親族、親しい友人など） | 24 | 0 | 1 | 0.01 | 0.10 | 11 | 0 | 1 | 0.00 | 0.06 | 5 | 0 | 1 | 0.00 | 0.06 | 6 | 0 | 1 | 0.00 | 0.07 |
| 11.離婚した | 19 | 0 | 1 | 0.73 | 0.44 | 19 | 0 | 1 | 0.76 | 0.43 | 9 | 0 | 1 | 0.75 | 0.43 | 10 | 0 | 1 | 0.76 | 0.43 |
| 12.当てはまるものはない | 19 | 0 | 1 | 0.73 | 0.44 | 19 | 0 | 1 | 0.76 | 0.43 | 9 | 0 | 1 | 0.75 | 0.43 | 10 | 0 | 1 | 0.76 | 0.43 |
| Q01.過去起きた出来事についてお聞きします。それぞれの期間に起きた出来事について当てはまるものすべてを選んでください。
※その期間に該当するものがない場合は、「当てはまるものはない」を選んでください。
※基準日は本日とし、例えばちょうど1年前の出来事は「3か月超～1年以内」に含めてください。 | 175 | 0 | 1 | 0.07 | 0.25 | 188 | 0 | 1 | 0.07 | 0.26 | 106 | 0 | 1 | 0.08 | 0.27 | 82 | 0 | 1 | 0.06 | 0.24 |
| 1.引っこ越した | 90 | 0 | 1 | 0.03 | 0.18 | 83 | 0 | 1 | 0.03 | 0.18 | 41 | 0 | 1 | 0.03 | 0.17 | 42 | 0 | 1 | 0.03 | 0.18 |
| 2.配偶者・パートナーとの同居を始めた | 71 | 0 | 1 | 0.03 | 0.16 | 59 | 0 | 1 | 0.02 | 0.15 | 25 | 0 | 1 | 0.02 | 0.14 | 34 | 0 | 1 | 0.03 | 0.16 |
| 3.配偶者・パートナーとの同居をやめた | 103 | 0 | 1 | 0.04 | 0.19 | 93 | 0 | 1 | 0.04 | 0.19 | 47 | 0 | 1 | 0.04 | 0.19 | 46 | 0 | 1 | 0.04 | 0.18 |
| 4.働き始めた（就業開始） | 107 | 0 | 1 | 0.04 | 0.20 | 113 | 0 | 1 | 0.04 | 0.20 | 56 | 0 | 1 | 0.04 | 0.20 | 57 | 0 | 1 | 0.04 | 0.20 |
| 5.仕事を辞めた（離職・退職） | 91 | 0 | 1 | 0.04 | 0.18 | 102 | 0 | 1 | 0.04 | 0.19 | 55 | 0 | 1 | 0.04 | 0.20 | 47 | 0 | 1 | 0.04 | 0.19 |
| 6.転職した | 82 | 0 | 1 | 0.03 | 0.17 | 75 | 0 | 1 | 0.03 | 0.17 | 34 | 0 | 1 | 0.03 | 0.16 | 41 | 0 | 1 | 0.03 | 0.17 |
| 7.新たな健康上の問題（病気・けが等）と診断された（あなた本人／配偶者・パートナー） | 48 | 0 | 1 | 0.02 | 0.13 | 37 | 0 | 1 | 0.01 | 0.12 | 19 | 0 | 1 | 0.01 | 0.12 | 18 | 0 | 1 | 0.01 | 0.12 |
| 8.子どもが独り立ちをした | 34 | 0 | 1 | 0.01 | 0.11 | 31 | 0 | 1 | 0.01 | 0.11 | 14 | 0 | 1 | 0.01 | 0.10 | 17 | 0 | 1 | 0.01 | 0.11 |
| 9.出産があった（あなた本人／配偶者・パートナー） | 135 | 0 | 1 | 0.05 | 0.22 | 108 | 0 | 1 | 0.04 | 0.20 | 50 | 0 | 1 | 0.04 | 0.19 | 58 | 0 | 1 | 0.04 | 0.21 |
| 10.身近な人との死別があった（配偶者・パートナー、家族・親族、親しい友人など） | 23 | 0 | 1 | 0.01 | 0.09 | 19 | 0 | 1 | 0.01 | 0.09 | 9 | 0 | 1 | 0.01 | 0.08 | 10 | 0 | 1 | 0.01 | 0.09 |
| 11.離婚した | 19 | 0 | 1 | 0.75 | 0.43 | 19 | 0 | 1 | 0.76 | 0.43 | 9 | 0 | 1 | 0.76 | 0.43 | 9 | 0 | 1 | 0.76 | 0.43 |
| 12.当てはまるものはない | 19 | 0 | 1 | 0.75 | 0.43 | 19 | 0 | 1 | 0.76 | 0.43 | 9 | 0 | 1 | 0.76 | 0.43 | 9 | 0 | 1 | 0.76 | 0.43 |

D 回帰分析による追加分析

総合生活満足度及び不満と客観指標等との関係について回帰分析を行った結果を示す。まず、総合生活満足度及び不満について、年齢や性別等の基本的な属性情報との関係を確認するため、基本統制変数モデルとして式(1)及び式(2)による推計を行った。

$$\text{総合生活満足度}_i = \beta_0 + \beta_1 \text{年齢}_i + \beta_2 \left(\text{年齢}_i - \overline{\text{年齢}} \right)^2 + \beta_3 \text{女性}_i + \beta_4 \text{世帯人数}_i + \gamma' \mathbf{X}_i + \varepsilon_i \quad (1)$$

$$\text{不満}_i = \beta_0 + \beta_1 \text{年齢}_i + \beta_2 \left(\text{年齢}_i - \overline{\text{年齢}} \right)^2 + \beta_3 \text{女性}_i + \beta_4 \text{世帯人数}_i + \gamma' \mathbf{X}_i + \varepsilon_i \quad (2)$$

ここで、 i は個人を表すインデックスであり、被説明変数は式(1)では総合生活満足度、式(2)では不満を採用しそれぞれの関係の違いを比較した。年齢と総合生活満足度の間の非線形な関係を捉えるため、年齢の二乗項をモデルに加えている。この際、多重共線性を緩和するとともに 1 次項(β_1)の解釈を容易にするため、二乗項は平均中心化を行っている(年齢 はサンプルにおける年齢の平均値である)。女性ダミーは女性の場合に 1 をとる。 $\mathbf{X}_i$ はその他の統制変数(都道府県、結婚状態、教育水準、調査票の種類、及び使用デバイス)の各カテゴリー・ダミー変数からなるベクトルであり、 ε_i は誤差項である。推定には不均一分散に頑健な標準誤差を用いている。

上記の推定結果は表 31 に示すとおりである。年齢・性別・婚姻状態・教育水準において、総合生活満足度と不満では、統計的に有意な変数に相違があった。特に、婚姻状態については既婚と比較し、未婚であることは総合生活満足度では約 1 ポイント低く、不満についても約 0.5 ポイント高い結果であった。教育水準については卒業した教育課程が高度になるにつれて総合生活満足度が高くなる傾向がみられ、ベースラインと比較し、高専・短大卒では約 1.0 ポイント、大学卒では 1.2 ポイント、大学院卒では 1.3 ポイント総合生活満足度が高かった。他方で、調査票や回答者が利用したデバイスによる総合生活満足度及び不満への統計的に有意な結果は観察されず、本編で示した一部の対象比較を除いて当該属性の全体への影響は限定的であることが示唆された。

また、残差分析について式(1)の結果を図 59 に、式(2)の結果を図 60 に示した。それぞれ、図左上が等分散性を示しており、縦軸に標準化残差の平方根をとり、横軸に残差のあてはめ値をとっている。図 59、図 60 とも分散が不均一であることが見て取れるため、回帰分析においては不均一分散に頑健な標準誤差を用いた。図右上は残差の正規性を確認した Q-Q プロット(Quantile-Quantile Plot)であり、縦軸に残差の期待値による累積確率をとり、横軸に標準正規分布の累積確率をとっている。こちらも図 59、図 60 ともに残差は上下限付近では正規分布には従っていない部分がみられた。これは総合生活満足度及び不満が 0 から 10 を取る 11 件法の上下限では大きな偏りがあったことに起因するものと考えられる。最後に図左下は残差の事後予測を示した分布である。図 59 では青色の残差の実測値は緑色の予測値と比較し、やや左裾が長い分布となっている。図 60 においては残差の実測値は下限や中央において多峰性がみられた。

表 31 総合生活満足度と不満との偏回帰係数の比較(基本統制変数モデル)

| 総合生活満足度と不満との偏回帰係数の比較
(基本統制変数モデル) | (1)
総合生活満足度 | (2)
不満 |
|-------------------------------------|------------------------|------------------------|
| 統制変数 | | |
| 年齢 | -0.1666***
(0.0157) | -0.0048†
(0.0029) |
| 年齢 ² (中心化済) | 0.0018***
(0.0002) | -0.0011***
(0.0002) |
| 女性ダミー | 0.3272***
(0.0724) | -0.0053
(0.0742) |
| 婚姻状態 (基準：既婚) | | |
| 未婚 | -1.0049***
(0.0944) | 0.4685***
(0.0901) |
| 死別 | -0.6801*
(0.2683) | 0.1604
(0.2861) |
| 離別 | -0.9341***
(0.1473) | 0.3502*
(0.1452) |
| 世帯人数 | -0.0078
(0.0373) | 0.0285
(0.0221) |
| 教育水準 (基準：中学校以下) | | |
| 高等学校 | 0.7005*
(0.3006) | -0.1666
(0.3014) |
| 専門学校 | 0.6385*
(0.3106) | -0.1837
(0.3107) |
| 高専・短大 | 1.0508***
(0.3121) | -0.4161
(0.3127) |
| 大学 | 1.2383***
(0.2982) | -0.2773
(0.2990) |
| 大学院 | 1.3452***
(0.3293) | -0.5999†
(0.3290) |
| 調査票ダミー (基準：α票) | | |
| β1票 | -0.0913
(0.0811) | 0.0711
(0.0847) |
| β2票 | -0.0639
(0.0833) | 0.1669†
(0.0859) |
| デバイス (基準：タブレット等) | | |
| PC | -0.1108
(0.2224) | 0.2319
(0.2209) |
| スマートフォン | -0.2824
(0.2167) | 0.1633
(0.2141) |
| 定数項 | 8.6382***
(0.5639) | 4.7987***
(0.4397) |
| 都道府県ダミー | モデルに含む | モデルに含む |
| 観測数 | 5,200 | 5,200 |
| 自由度 | 5,136 | 5,136 |
| R^2 | 0.09352 | 0.03532 |
| Adjusted R^2 | 0.0824 | 0.02349 |
| F統計量 | 9.173*** | 3.027*** |

注：括弧内は頑健標準誤差を示す。

† $p<0.1$, * $p<0.05$, ** $p<0.01$, *** $p<0.001$

図 59 基本統制変数モデルの残差分析(総合生活満足度)

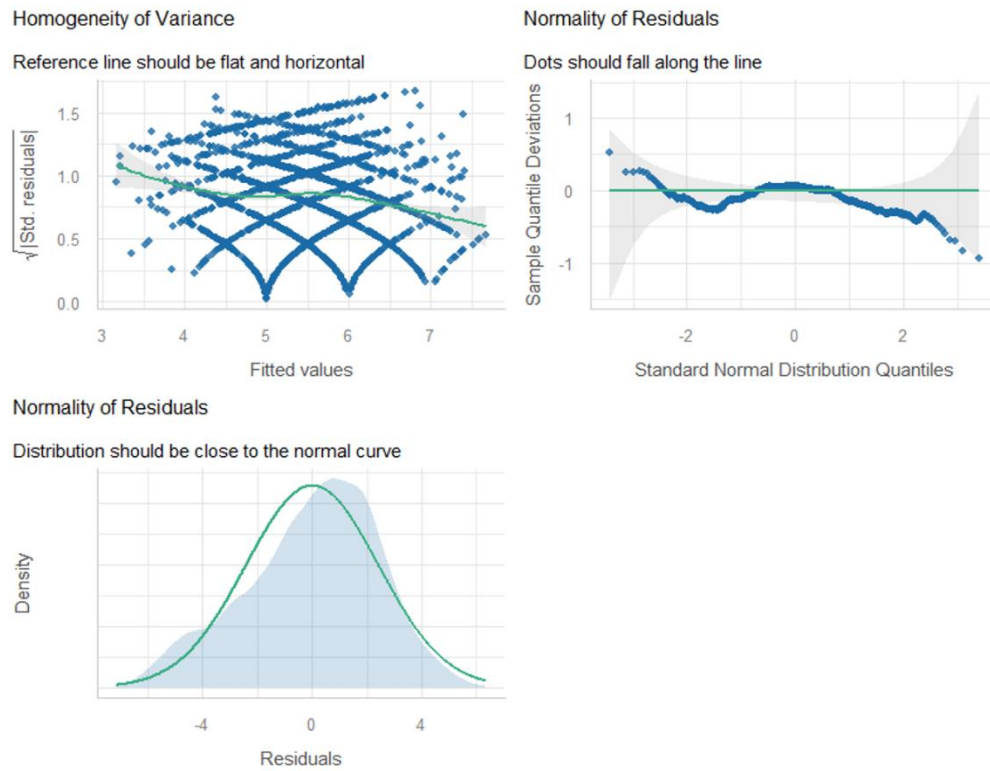
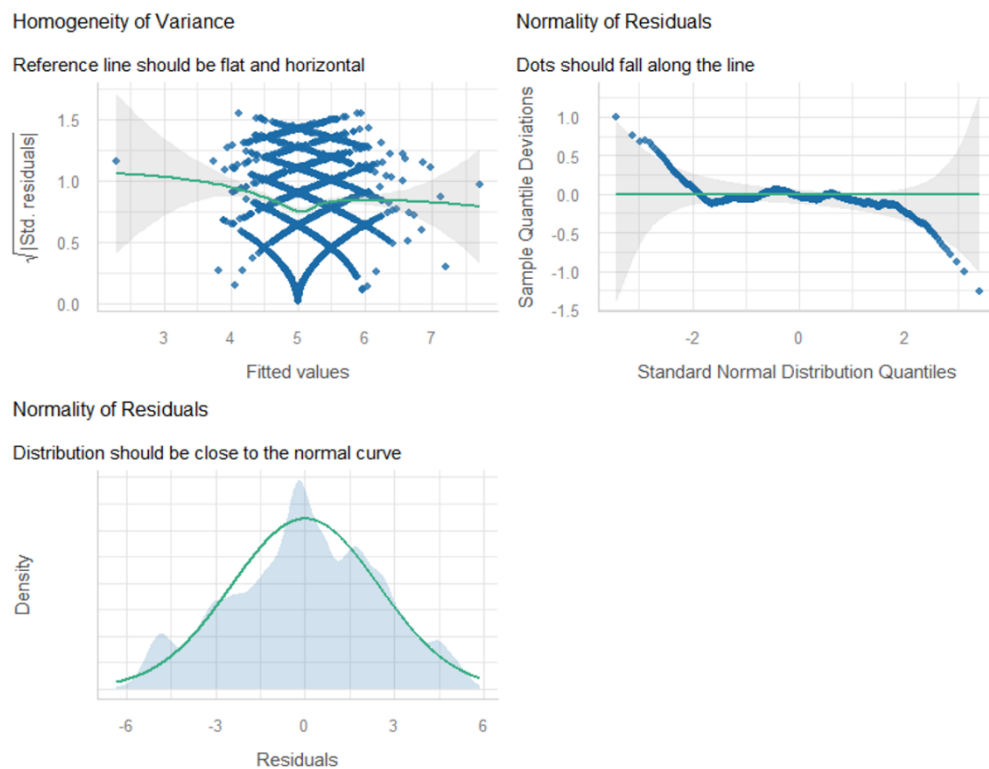


図 60 基本統制変数モデルの残差分析(不満)



次に、領域別客観指標モデルとして、基本統制変数モデルに複数の領域に係る指標を加えることで各指標の影響を確認した。

$$\begin{aligned} \text{総合生活満足度}_i &= \beta_0 + \boldsymbol{\gamma}'\text{経済状況}_i + \boldsymbol{\delta}'\text{居住状況}_i + \boldsymbol{\zeta}'\text{就業状況}_i + \boldsymbol{\eta}'\text{健康状態}_i + \boldsymbol{\theta}'\text{社会的関係}_i \\ &+ \beta_1\text{年齢}_i + \beta_2\left(\text{年齢}_i - \overline{\text{年齢}}\right)^2 + \beta_3\text{女性}_i + \beta_4\text{世帯人数}_i + \boldsymbol{\lambda}'\mathbf{X}_i + \varepsilon_i \end{aligned} \quad (3)$$

$$\begin{aligned} \text{不満}_i &= \beta_0 + \boldsymbol{\gamma}'\text{経済状況}_i + \boldsymbol{\delta}'\text{居住状況}_i + \boldsymbol{\zeta}'\text{就業状況}_i + \boldsymbol{\eta}'\text{健康状態}_i + \boldsymbol{\theta}'\text{社会的関係}_i + \beta_1\text{年齢}_i \\ &+ \beta_2\left(\text{年齢}_i - \overline{\text{年齢}}\right)^2 + \beta_3\text{女性}_i + \beta_4\text{世帯人数}_i + \boldsymbol{\lambda}'\mathbf{X}_i + \varepsilon_i \end{aligned} \quad (4)$$

ここで、 i は個人を表すインデックスである。式(1)及び式(2)で示した統制変数(年齢、年齢の二乗項、女性ダミー、世帯人数、及び都道府県・結婚状態・教育水準・調査票・デバイスの各ダミー変数ベクトル $\mathbf{X}_i$)に加え、本モデルでは領域別の指標を追加している。経済状況 $_i$ は家計のやりくりの容易さ、世帯所得、金融資産、居住状況 $_i$ は持ち家等のカテゴリー・ダミー、1人当たり床面積、就業状況 $_i$ は 8 区分の就業状況ダミー、失業歴の有無、健康状態 $_i$ は慢性疾患の有無、活動制限、睡眠時間を表すベクトルである。また、社会的関係 $_i$ は社会的関係資本を捉えるベクトルであり、親友及び友人との接触頻度、金銭的・非金銭的な支援者の有無(ダミー変数)、ボランティア及び趣味への参加頻度を含む。 ε_i は誤差項であり、推定には不均一分散に頑健な標準誤差を用いている。

総合生活満足度及び不満と客観指標との関係について、領域別の指標を加えて回帰分析を行った結果を表 32 に示す。総合生活満足度に対しては、経済状況の「家計のやりくり(の容易さ)」が約 0.8 ポイント、社会的関係資本の「金銭的・非金銭的支援先の有無」がそれぞれ約 0.4 ポイント、0.1%の有意水準で統計的に正の有意な影響を与えていた。他方で、不満に対しては、「家計のやりくり(の容易さ)」が約-0.5 ポイントの強い負の係数(不満を抑制する効果)を示した。また、「友人との接触頻度」が約-0.1 ポイント、0.1%の有意水準で統計的に有意な影響を与えており、社会とのつながりや活動への参加は不満に対して不満の蓄積を抑制・緩衝する効果を持つことが示唆された。

なお、残差分析(図 61、図 62)の結果は基本統制変数モデルと同様の傾向を示しており、分散の不均一性や評価尺度の上下限における偏りが確認された。

表 32 総合生活満足度と不満との偏回帰係数の比較(領域別客観指標モデル)

| 総合生活満足度と不満との偏回帰係数の比較
(領域別客観指標モデル) | (1)
総合生活満足度 | (2)
不満 |
|--------------------------------------|------------------------|------------------------|
| 経済状況 | | |
| 家計のやりくり | 0.7917***
(0.0338) | -0.4645***
(0.0393) |
| 世帯所得 | -0.0033
(0.0116) | 0.0227 †
(0.0127) |
| 金融資産 | 0.0335*
(0.0149) | -0.0282
(0.0172) |
| 住居形態 (基準：持ち家) | | |
| 借家 | -0.1486 †
(0.0798) | 0.0178
(0.0911) |
| 公営住宅 | -0.5363**
(0.2063) | 0.2308
(0.2376) |
| 社宅 | -0.5874*
(0.2292) | 0.1591
(0.2465) |
| 間借り | -0.2791
(0.1918) | 0.3004
(0.2098) |
| その他 | -0.6170**
(0.2255) | 0.2342
(0.2184) |
| 一人あたり床面積 | 0.0000
(0.0000) | -0.0000 †
(0.0000) |
| 就業状況 (基準：雇用者) | | |
| 失業中 | -0.1387
(0.2027) | 0.5129*
(0.2119) |
| 退職済み | -0.0437
(0.1180) | -0.1488
(0.1437) |
| 健康問題で就労不可 | -0.5648**
(0.2162) | -0.0067
(0.2737) |
| 学生・生徒 | 0.0300
(0.1936) | -0.1488
(0.1960) |
| 家事労働 | -0.1164
(0.1066) | 0.1052
(0.1279) |
| 会社経営・自営業主・家族従事者 | -0.1864 †
(0.1108) | 0.0532
(0.1317) |
| その他 | -0.4429***
(0.1228) | -0.1416
(0.1395) |
| 失業歴あり | -0.0678
(0.0765) | -0.0059
(0.0872) |
| 健康状況 | | |
| 慢性疾患あり | -0.0989
(0.0766) | 0.0246
(0.0881) |
| 活動制限 | 0.3501***
(0.0765) | -0.2534**
(0.0928) |
| 睡眠時間 | 0.1489***
(0.0303) | -0.0814*
(0.0333) |

| | | |
|-------------------------------|------------------------|------------------------|
| 社会関係 | | |
| 親友との接触頻度 | -0.0201
(0.0169) | -0.0123
(0.0196) |
| 友人との接触頻度 | 0.0705**
(0.0224) | -0.0845***
(0.0255) |
| 金銭的支援先あり | 0.3968***
(0.0760) | 0.0449
(0.0859) |
| 非金銭支援先あり | 0.3736***
(0.0786) | -0.1296
(0.0874) |
| 活動参加 | | |
| ボランティア・地域活動参加頻度 | -0.0324
(0.0360) | -0.0727†
(0.0395) |
| レクリエーション・趣味参加頻度 | 0.1119***
(0.0204) | -0.0336
(0.0239) |
| 統制変数 | | |
| 年齢 | 0.0069*
(0.0030) | -0.0011
(0.0033) |
| 年齢 ² （中心化済） | 0.0009***
(0.0002) | -0.0004*
(0.0002) |
| 女性ダミー | 0.2657***
(0.0669) | 0.0088
(0.0770) |
| 婚姻状態（基準：既婚） | | |
| 未婚 | -0.6790***
(0.0843) | 0.3834***
(0.0934) |
| 離別 | -0.3893†
(0.2116) | 0.1494
(0.2651) |
| 死別 | -0.5588***
(0.1207) | 0.2140
(0.1468) |
| 世帯人数 | 0.0037
(0.0247) | 0.0247
(0.0204) |
| 定数項 | 0.5866
(0.4770) | 6.977***
(0.4397) |
| 都道府県ダミー | モデルに含む | モデルに含む |
| 教育水準ダミー | モデルに含む | モデルに含む |
| 調査票ダミー | モデルに含む | モデルに含む |
| デバイスダミー | モデルに含む | モデルに含む |
| 観測数 | 5,200 | 5,200 |
| 自由度 | 5,110 | 5,110 |
| R^2 | 0.3373 | 0.1116 |
| <i>Adjusted R²</i> | 0.3257 | 0.0961 |
| <i>F統計量</i> | 30.60*** | 5.73*** |

注：括弧内は頑健標準誤差を示す。

† p<0.1, *p<0.05, **p<0.01, ***p<0.001

図 61 領域別客観指標モデルの残差分析(総合生活満足度)

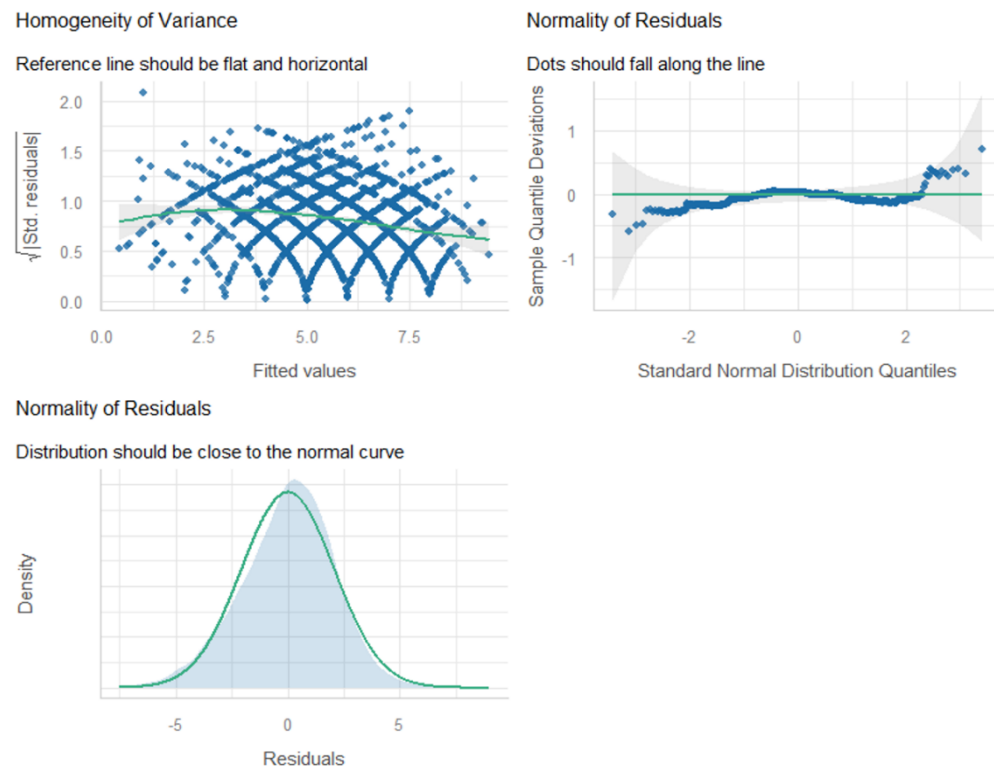
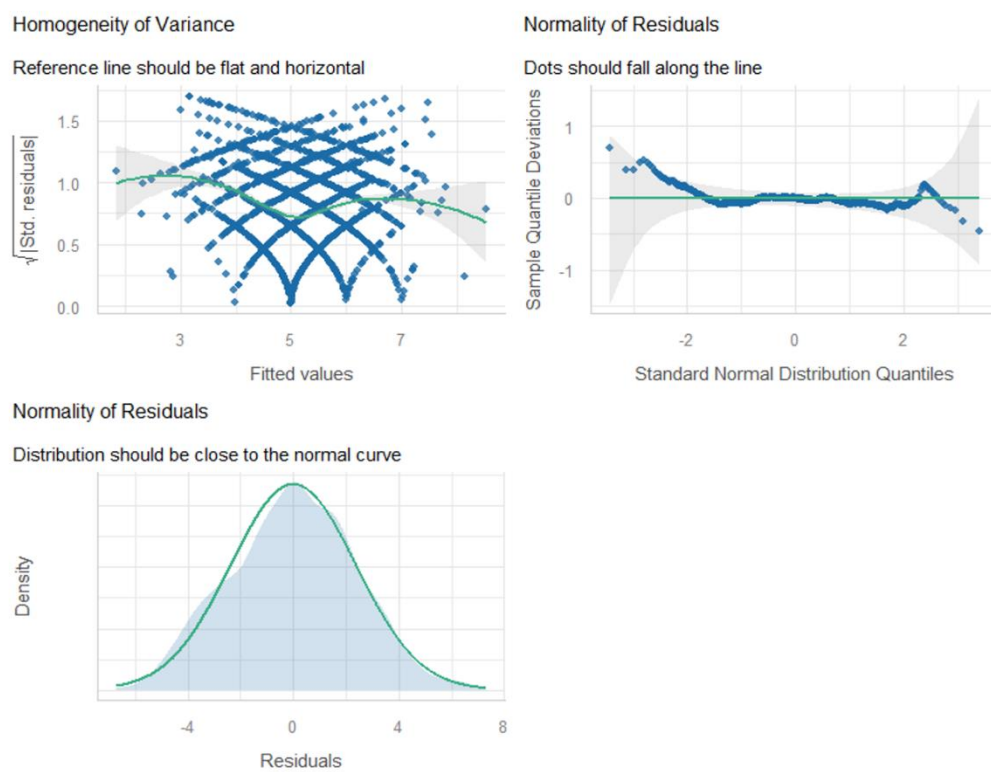


図 62 領域別客観指標モデルの残差分析(不満)



最後に、領域別生活満足度モデルとして、領域別客観指標モデルに領域別生活満足度に関する指標を加えることで各指標の影響を確認した(表 33)。

$$\begin{aligned} \text{総合生活満足度}_i &= \beta_0 + \mu' \text{領域別生活満足度}_i + \gamma' \text{経済状況}_i + \delta' \text{居住状況}_i + \zeta' \text{就業状況}_i \\ &+ \eta' \text{健康状態}_i + \theta' \text{社会的関係}_i + \beta_1 \text{年齢}_i + \beta_2 \left(\text{年齢}_i - \overline{\text{年齢}} \right)^2 + \beta_3 \text{女性}_i \\ &+ \beta_4 \text{世帯人数}_i + \lambda' \mathbf{X}_i + \varepsilon_i \end{aligned} \quad (5)$$

$$\begin{aligned} \text{不満}_i &= \beta_0 + \mu' \text{領域別生活満足度}_i \\ &+ \gamma' \text{経済状況}_i + \delta' \text{居住状況}_i + \zeta' \text{就業状況}_i + \eta' \text{健康状態}_i + \theta' \text{社会的関係}_i \\ &+ \beta_1 \text{年齢}_i + \beta_2 \left(\text{年齢}_i - \overline{\text{年齢}} \right)^2 + \beta_3 \text{女性}_i + \beta_4 \text{世帯人数}_i + \lambda' \mathbf{X}_i + \varepsilon_i \end{aligned} \quad (6)$$

ここで、 i は個人を表すインデックスである。先述の回帰式と同様、式(3)及び式(4)で示した説明変数(経済状況、居住状況、就業状況、健康状態、社会的関係、統制変数)に加え、本モデルでは社会統計における領域別生活満足度の指標を追加している。領域別生活満足度 $_i$ は住宅の質・居住環境、家計支出・やりくり、育児の状況、就業状況・労働環境、教育環境・教育水準、所得や資産、社会とのつながりの7つの領域に関する満足度を示すベクトルである。 ε_i は誤差項であり、推定には不均一分散に頑健な標準誤差を用いている。

表 33 に示す本モデルの推定結果から、前述してきた回帰分析の結果と整合しながら、総合生活満足度を高める要因と不満を増大(あるいは軽減)させる要因の間に明確な非対称性が存在することが確認された。

第一に、領域別生活満足度が被説明変数に与える効果に顕著な違いが観察された。被説明変数が「総合生活満足度」のモデルにおいて、全ての領域別生活満足度(住宅、家計支出、育児、就業、教育、所得、社会とのつながり)の推定係数は正であり、5%から 0.1%までの水準で統計的に有意であった。これは、個別の生活領域における主観的評価の向上が、生活全体の満足度を押し上げるという OECD(2013)の見解からも整合的な結果が得られた。他方、被説明変数が「不満」のモデルにおいては、これらの領域別生活満足度の係数は全て統計的に有意ではない結果となった。

第二に、領域別生活満足度が不満に寄与しない一方で、特定の客観指標が不満に対して強い説明力を持つことが明らかとなった。客観指標である「家計のやりくり(の容易さ)」は不満に対して負の有意な係数(約-0.3 ポイント)を示しており、日々の資金繰りの困難さが直接的に不満を増大させることがわかる。また、就業状況において「失業中」のダミー変数は、不満に対して正の有意な係数(約 0.7 ポイント)であった。そして、社会関係の指標群において、「友人との接触頻度(約-0.1 ポイント)」や「ボランティア・地域活動参加頻度(約-0.1 ポイント)」は、不満に対して負の有意な係数を示した。この結果から、社会的なつながりや活動への参加が不満の蓄積を抑制する効果を持つことが示唆される。これらの客観指標は「不満」との関連性が示された一方で、「総合生活満足度」のモデルでは統計的に有意な結果として認められなかった。すなわち、当該指標は満足度の向上には寄与せず、むしろ生活基盤の劣化や孤立を通じて不満を特異的に引き起こす要因として位置づけられる。

第三に、両モデルの調整済決定係数($Adjusted R^2$)を比較すると、本推計モデルの説明力に顕著な乖離がみられた。「総合生活満足度」のモデルでは調整済決定係数は 0.6222 とかなり高い値を示していた。対照的に、

「不満」のモデルでは調整済決定係数が 0.0832 に留まっており、モデルの適合度が著しく低かった。この結果からは、不満の分散の大部分が本モデルの説明変数では捉えきれない未観測要因(Unobserved Heterogeneity)や誤差項に依存していることが示唆される¹⁵。なお、調整済決定係数の低さについては、未観測要因に加え、「不満」という概念の測定困難性(回答者間の解釈のばらつき等)や、サンプルにおける不満回答者の少数性による分布の偏りも一因として考えられる点に留意が必要である。

以上の 3 点の知見を総合すると、総合生活満足度と不満が、単一の効用関数の両極に位置する概念ではなく、それぞれ異なる決定要因を有している可能性が考えられる。したがって、複数領域統合型世帯調査において国民のウェルビーイングを包括的に把握するためには、従来の「生活満足度」の測定にとどまらず、社会的なセーフティネットの欠如や突発的な困窮を捉えるための指標として「不満」を独立して測定することの有用性が強く示唆される。なお、本分析の結果は横断データに基づく変数間の統計的な関連性(相関関係)を示したものであり、厳密な因果関係の特定を意図するものではない点に留意されたい。

¹⁵ 本調査の枠組みでは観測しきれない要因として、例えば一時的なネガティブ・ショック(突発的なトラブル、事故、急性のストレスなど)や個人の心理的気質等に影響を受けている可能性が考えられる。

表 33 総合生活満足度と不満との偏回帰係数の比較(領域別生活満足度モデル)

| 総合生活満足度と不満との偏回帰係数の比較
(領域別生活満足度モデル) | (1)
総合生活満足度 | (2)
不満 |
|---------------------------------------|-----------------------|------------------------|
| 領域別生活満足度 | | |
| 住宅の質・居住環境 | 0.1408***
(0.0235) | -0.0121
(0.0318) |
| 家計支出状況・やりくり | 0.1720***
(0.0321) | 0.0202
(0.0413) |
| 育児の状況 | 0.0609**
(0.0197) | 0.0082
(0.0278) |
| 就業状況・労働環境 | 0.1165***
(0.0242) | -0.0549
(0.0340) |
| 教育環境・教育水準 | 0.0531*
(0.0269) | 0.0429
(0.0404) |
| 所得や資産 | 0.1412***
(0.0323) | -0.0723
(0.0456) |
| 社会とのつながり | 0.1094***
(0.0258) | 0.0617
(0.0393) |
| 経済状況 | | |
| 家計のやりくり | 0.0543
(0.0390) | -0.2809***
(0.0575) |
| 世帯所得 | -0.0058
(0.0116) | 0.0179
(0.0174) |
| 金融資産 | 0.0150
(0.0161) | -0.0036
(0.0261) |
| 住居形態(基準:持ち家) | | |
| 借家 | 0.0144
(0.0810) | 0.1182
(0.1299) |
| 社宅・寮 | -0.2381
(0.2285) | -0.0190
(0.3494) |
| 住み込み・間借り | 0.0625
(0.2557) | -0.0467
(0.3276) |
| 親の家に同居 | -0.0030
(0.1729) | 0.2543
(0.2470) |
| その他 | -0.0152
(0.2426) | -0.0900
(0.3003) |
| 一人当たり床面積 | -0.0000
(0.0000) | -0.0000***
(0.0000) |
| 就業状況(基準:被雇用者) | | |
| 失業中 | 0.0155
(0.2413) | 0.7026*
(0.3246) |
| 退職済み | 0.0611
(0.1807) | -0.1836
(0.2462) |
| 長期にわたる健康問題で就労不可 | -0.7020**
(0.2147) | 0.2277
(0.3826) |
| 学生・生徒 | -0.1549
(0.1731) | -0.0472
(0.2534) |
| 家事労働 | 0.1188
(0.1224) | 0.1849
(0.1962) |
| 会社経営・自営業主・家族従事者 | 0.0735
(0.1162) | -0.0144
(0.1809) |
| その他 | -0.1469
(0.1293) | 0.0181
(0.1915) |
| 失業歴あり | 0.0108
(0.0856) | -0.0740
(0.1256) |

| | | |
|-------------------------------|-----------------------|-----------------------|
| 健康状況 | | |
| 慢性疾患あり | 0.0259
(0.0935) | -0.0437
(0.1416) |
| 活動制限 | 0.1258
(0.0891) | -0.1248
(0.1411) |
| 睡眠時間 | 0.0071
(0.0315) | -0.0044
(0.0481) |
| 社会関係 | | |
| 親友との接触頻度 | 0.0135
(0.0178) | -0.0109
(0.0288) |
| 友人との接触頻度 | 0.0159
(0.0236) | -0.0896*
(0.0371) |
| 金銭的支援先あり | 0.1358
(0.0891) | 0.0072
(0.1307) |
| 非金銭的支援先あり | 0.2317*
(0.0911) | -0.0768
(0.1293) |
| 活動参加 | | |
| ボランティア・地域活動参加頻度 | -0.0127
(0.0415) | -0.1261*
(0.0583) |
| レクリエーション・趣味参加頻度 | 0.0446 †
(0.0245) | -0.0304
(0.0388) |
| 統制変数 | | |
| 年齢 | 0.0006
(0.0032) | 0.0004
(0.0048) |
| 年齢 ² （中心化済） | 0.0003
(0.0002) | -0.0000
(0.0003) |
| 女性ダミー | 0.1783*
(0.0734) | 0.0844
(0.1107) |
| 婚姻状態（基準：既婚） | | |
| 未婚 | -0.1597 †
(0.0936) | 0.2060
(0.1380) |
| 死別 | -0.0177
(0.3801) | 0.6416
(0.4830) |
| 離別 | -0.1178
(0.1434) | 0.1190
(0.2194) |
| 世帯人数 | -0.0129
(0.0079) | 0.0438**
(0.0142) |
| 定数項 | 0.9377 †
(0.5100) | 5.7750***
(0.8318) |
| 都道府県ダミー | モデルに含む | モデルに含む |
| 教育水準ダミー | モデルに含む | モデルに含む |
| 調査票ダミー | モデルに含む | モデルに含む |
| デバイスダミー | モデルに含む | モデルに含む |
| 観測数 | 2,600 | 2,600 |
| 自由度 | 2,503 | 2,503 |
| R^2 | 0.6361 | 0.0832 |
| <i>Adjusted R²</i> | 0.6222 | 0.0481 |
| <i>F統計量</i> | 52.19*** | 2.69*** |

注：括弧内は頑健標準誤差を示す。

† p<0.1, *p<0.05, **p<0.01, ***p<0.001

図 63 領域別生活満足度モデルの残差分析(総合生活満足度)

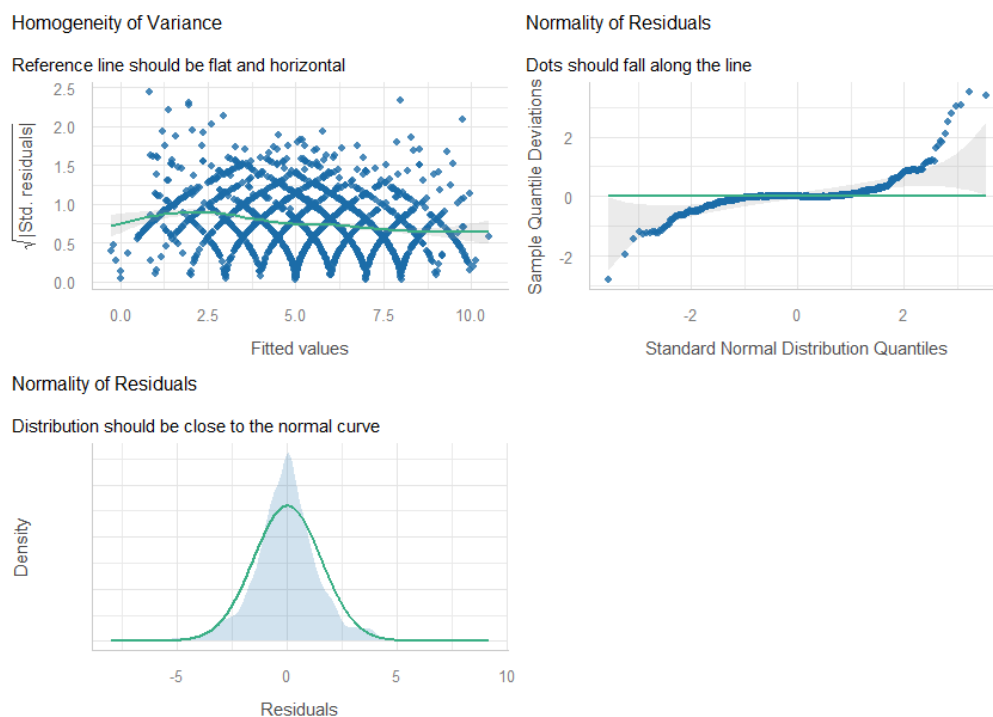
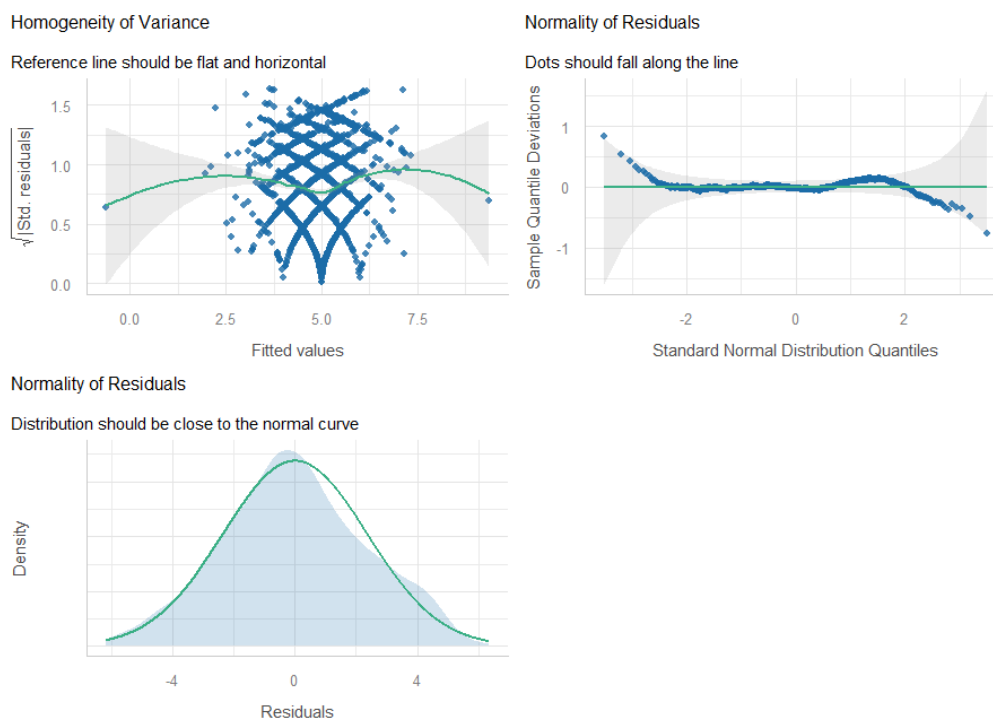


図 64 領域別生活満足度モデルの残差分析(不満)



E 参考文献リスト(アルファベット順)

1. Burchell, B., & Marsh, C. (1992). The effect of questionnaire length on survey response. *Quality and Quantity*, 26(3), 233–244.
2. Crowne, D. P., & Marlowe, D. (1960). Marlowe-Crowne social desirability scale. *Journal of Consulting Psychology*, 24(4), 349–354.
3. Davern, M., & Cummins, R. A. (2006). Is life dissatisfaction the opposite of life satisfaction? *Australian Journal of Psychology*, 58(1), 1–7.
4. DeCastellarnau, A., & Revilla, M. (2017). Two approaches to evaluate measurement quality in online surveys: An application using the Norwegian citizen panel. *Survey Research Methods*, 11(4), 415–433.
5. Herzog, A. R., & Bachman, J. G. (1981). Effects of questionnaire length on response quality. *Public Opinion Quarterly*, 45, 549–559.
6. Krosnick, J. A., & Alwin, D. F. (1987). An evaluation of a cognitive theory of response-order effects in survey measurement. *Public Opinion Quarterly*, 51(2), 201–219.
7. Krosnick, J. A. (1991). Response strategies for coping with the cognitive demands of attitude measures in surveys. *Applied Cognitive Psychology*, 5(3), 213–236.
8. Lozano, L. M., García-Cueto, E., & Muñiz, J. (2008). Effect of the number of response categories on the reliability and validity of rating scales. *Methodology*, 4(2), 73–79.
9. Maniaci, M. R., & Rogge, R. D. (2014). Caring about carelessness: Participant inattention and its effects on research. *Journal of Research in Personality*, 48, 61–83.
10. 増田真也・坂上貴之（2014）．調査の回答における中間選択—原因，影響とその対策—．心理学評論，57(4)，472–494．
11. 増田真也・坂上貴之・北岡和代・佐々木恵（2016）．回答指示の非遵守と反応バイアスの関連．心理学研究，87，354–363．
12. 増田真也・坂上貴之・北岡和代（2017）．多くの項目に回答することによる中間選択の増加．行動計量学，44(2)，117–128．
13. McClendon, M. J., & O'Brien, D. J. (1988). Question-order effects on the determinants of subjective well-being. *Public Opinion Quarterly*, 52(3), 351–364.
14. 三浦麻子・小林哲郎（2018）．オンライン調査における努力の最小限化が回答行動に及ぼす影響．行動計量学，45(1)，1–11．
15. 大森翔子（2021）．インターネット調査における省力回答者に関する一考察．NIRA 政策研究ノート，3，1–10．
16. OECD. (2013). *OECD guidelines on measuring subjective well-being*. OECD Publishing.
17. OECD. (2025). *OECD guidelines on measuring subjective well-being: 2025 update*. OECD Publishing.
18. 総務省統計委員会担当室委託調査・エム・アール・アイ リサーチアソシエーツ株式会社（2024）．複数領域統合型世帯調査に関する調査研究（アジアの事例を参考にした社会統計整備の検討）．

19. 総務省統計委員会担当室委託調査・みずほサーチ&テクノロジーズ株式会社（2023）．複数領域統合型世帯調査に関する調査研究.
20. Souders, D. J., & Yu, Y. (2025). Beyond the bipolar: Allowing satisfaction and dissatisfaction to coexist. *Frontiers in Psychology*, 16, 1572220.
21. Strack, F., Martin, L. L., & Schwarz, N. (1988). Priming and communication: Social determinants of information use in judgments of life satisfaction. *European Journal of Social Psychology*, 18(5), 429–442.
22. Tourangeau, R., Rips, L. J., & Rasinski, K. (2000). *The psychology of survey response*. Cambridge University Press.
23. Tourangeau, R., Couper, M. P., & Conrad, F. (2004). Spacing, position, and order: Interpretive heuristics for visual features of survey questions. *Public Opinion Quarterly*, 68(3), 368–393.
24. Tourangeau, R., & Yan, T. (2007). Sensitive questions in surveys. *Psychological Bulletin*, 133(5), 859–883.
25. Tourangeau, R., Conrad, F. G., & Couper, M. P. (2013). *The science of web surveys*. Oxford University Press. （大隅昇・鳩真紀子・井田潤治・小野裕亮 訳，2019，『ウェブ調査の科学—調査計画から分析まで—』朝倉書店．）

F 調査票(α票)

あなたの身の回りや生活に関するアンケート

モニターの皆様へのお願い

本アンケートには、一般に公開していない情報が含まれる場合があります。

本アンケート内で知り得た情報について、決して第三者に口外しないよう、お願いします。

「第三者への口外」に含まれる例

- 口頭、電話、メール等で友人・知人に話す
- SNSやブログ、掲示板等へ書き込む
- その他、手段を問わず、情報を第三者に伝達する行為

依頼主よりモニターの皆様へ

本アンケートは、総務省統計委員会担当室がみずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社に委託して実施している「複数領域統合型世帯調査に関する調査研究（調査実施上の論点の検討）」の一環として行うものです。

「複数領域統合型世帯調査」とは、医療、教育、所得といった複数の領域についての世帯調査であり、複雑化する社会経済状況のもとで、世帯・個人の状況を総合的に把握するための統計調査として、諸外国で整備が進められています。

アンケート調査の実施は、委託先であるみずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社が行っています。

調査結果は今後の研究に活用させていただきます。皆様のご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

注意事項

- 複数のアンケート画面を同時に開くと、正常に回答できません。
アンケートはひとつずつご回答ください。
- アンケートへの回答は、「動作環境」に記載の環境からお願いします。
- 本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)
- 未成年者、成年被後見人、被保佐人または被補助人である方は、必ず保護者その他の法定代理人に同意を得た上でご参加ください。アンケートの途中で同意をいただく場面が生じた場合も、個別に保護者その他の法定代理人に同意を得ていただくよう、お願いします。
- 回答結果は、当社の「個人情報保護方針」に基づいて取り扱います。
- 回答結果は、性別・年齢・居住都道府県等を付記した上で、本アンケートの依頼主に提供されます。
- 本アンケート内で個別に同意を得ない限り、氏名・メールアドレス等の個人を特定できる情報を削除または加工（暗号化を含みます）せずに依頼主に提供することはありません。
- 当社は依頼主から回答や分析結果の一部を取得して、後日別の調査の案内を送付するために利用することがあります。
- 回答内容や分析結果に健康情報や疾患傾向等の要配慮個人情報が含まれていた場合、当社が当該要配慮個人情報を取得することがあります。

上記の内容をご確認いただき、同意してご協力いただける場合のみ、「同意し、アンケート開始」を押してアンケートを開始してください。

同意し、アンケート開始

質問位置指定テスト 実行

性別

☒ 男性

☐ 女性

年齢

歳

都道府県

北海道



開始

閉じる

Q1-1
必須

全体として、最近の生活にどれくらい満足していますか。

0を「全く満足していない」、10を「非常に満足している」として、0から10のスケールで回答してください。

| | | | | | | | | | | | |
|---|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| | 0
(全く満足していない) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10
(非常に満足している) |
| → | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

Q1-2
必須

Q1-1「全体として、最近の生活にどれくらい満足していますか。」で、あなたが「最近」として想起した期間はどれくらいですか。

期間

単位

選択してください



次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

Q1-3
必須

全体として、1年前の生活にどれくらい満足していましたか。

| | 0
(全く満足していなかった) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10
(非常に満足していた) |
|--|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

Q1-4
必須

全体として、ご自身の将来についてどの程度希望を感じていますか。
0は「全く希望をもっていない」、10は「非常に希望をもっている」を示します。

| | 0
(全く希望をもっていない) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10
(非常に希望をもっている) |
|--|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

Q1-5
必須

以下の質問では、あなたの生活に関する特定の分野について、どの程度満足しているかをお尋ねします。
0を「全く満足していない」、10を「非常に満足している」として、0から10のスケールで回答してください。

➡

| | 0
(全く満足していない) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10
(非常に満足している) | 該当しない |
|------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1. 住宅の質・居住環境 ➡ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |
| 2. 家計支出状況・やりくり ➡ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |
| 3. 育児の状況（該当世帯のみ） ➡ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |
| 4. 就業状況・労働環境（該当世帯のみ） ➡ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |
| 5. あなたご自身の教育環境・教育水準 ➡ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |
| 6. 世帯・自身の所得や資産 ➡ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |
| 7. 社会とのつながり ➡ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

Q2-1
必須

全体的に見て、自分の人生でやっていることにどの程度の価値があると感じていますか。
0を「全く価値がない」、10を「非常に価値がある」として、0から10のスケールで回答してください。

| | 0
(全く価値がない) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10
(非常に価値がある) |
|--|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

Q2-2
必須

以下の質問について、どの程度あてはまりますか。
0を「全くあてはまらない」、10を「完全にあてはまる」として、0から10のスケールを使ってあなたの気持ちを示してください。

| | 0
(全くあてはまらない) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10
(完全にあてはまる) |
|----------------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1. 人生で本当にやりたいことや価値のあることができている。 | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |
| 2. ほぼ毎日、自分の行っていることから達成感を得ている。 | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |
| 3. 総じて、自身についてとてもポジティブな気持ちをもっている。 | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |
| 4. 私にとって人生は、学び、変化し、成長し続けるものである。 | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

Q3-1
必須

全体として、最近の生活にどれくらい満足していますか。
-5を「非常に不満である」、+5を「非常に満足している」として、-5から+5のスケールで回答してください。



| -5
(非常に不満である) | -4 | -3 | -2 | -1 | 0
(どちらでもない) | +1 | +2 | +3 | +4 | +5
(非常に満足している) |
|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

Q3-2
必須

全体として、最近の生活にどのくらい不満を感じていますか。
0を「全く不満はない」、10を「非常に不満である」として、0から10のスケールで回答してください。



| 0
(全く不満はない) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10
(非常に不満である) |
|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

Q4-1
必須

過去7日間で、(肉体的または精神的な) 痛みは平均してどのくらいでしたか。
0は痛みが全くない状態を指し、10は想像しうる最も強い痛みを指すものとして、0から10のスケールで回答してください。

| | 0
(痛みが全くない) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10
(想像しうる最も強い痛み) |
|---|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
|  | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

Q4-2
必須

以下の質問では、昨日どのように感じたかを尋ねています。
0は昨日その感情を「全く」感じなかったことを意味し、10は昨日その感情を「常に」感じていたことを意味するものとして、0から10のスケールで回答してください。

| | 0
(全くない) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10
(常に) |
|---------------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1. あなたは昨日、幸せでしたか。 | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |
| 2. あなたは昨日、心配についてはどうでしたか。 | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |
| 3. あなたは昨日、落ち着いていましたか。 | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |
| 4. あなたは昨日、悲しみについてはどうでしたか。 | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |
| 5. あなたは昨日、怒りを感じていましたか。 | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |
| 6. あなたは昨日、楽しさ、喜びを感じていましたか。 | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |
| 7. あなたは昨日、疲れを感じていましたか。 | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |
| 8. あなたは昨日、ストレスを感じていましたか。 | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |
| 9. あなたは昨日、たくさん笑ったり微笑んだりしていましたか。 | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

Q5
必須

総合的に見て、現在の健康状態はいかがですか。

| | 非常に悪い | 悪い | ふつう | 良い | 非常に良い |
|--|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

Q6
必須

総合的に見て、現在の心の状態はいかがですか。

- ☐ 1. 非常に悪い
- ☐ 2. 悪い
- ☐ 3. ふつう
- ☐ 4. 良い
- ☐ 5. 非常に良い

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

Q7
必須

最近2週間に以下のような問題がどのくらいの頻度でありましたか。

| | 0
(全くない) | 1
(数日) | 2
(半分以上) | 3
(ほとんど毎日) |
|-----------------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1. 緊張、不安、イライラを感じる。 | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |
| 2. 心配な気持ちを抑えたり、コントロールできない。 | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |
| 3. 何かやろうとしてもほとんど興味が持てなかったり、楽しくない。 | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |
| 4. 気分が重かったり、憂鬱だったり、絶望的に感じる。 | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

Q8
必須

以下の各項目について、最近2週間のあなたの状態に最も近いものに印をつけてください。



| | | 0
(全くない) | 1
(ほんのたまに) | 2
(半分未満の期間を) | 3
(半分以上の期間を) | 4
(ほとんどいつも) | 5
(いつも) |
|-----------------------------|---|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1. 明るく楽しい気分で過ごした。 | ➡ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |
| 2. 落ち着いた、リラックスした気分で過ごした。 | ➡ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |
| 3. 意欲的で、活動的に過ごした。 | ➡ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |
| 4. ぐっすりと休め、気持ちよく目覚めた。 | ➡ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |
| 5. 日常生活の中に、興味のあることがたくさんあった。 | ➡ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

Q9 必須 (自身の社会生活、仕事、公的サービスへのアクセスを考慮して教えてください。)
あなたは、疎外感を覚えていますか。

- ☐ 1. 非常にそう思う
- ☐ 2. そう思う
- ☐ 3. どちらでもない
- ☐ 4. そうは思わない
- ☐ 5. 全くそう思わない
- ☐ 6. わからない
- ☐ 7. 答えたくない

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

Q10 必須 過去4週間、どのくらいの頻度で孤独を感じましたか。

- ☐ 1. いつも
- ☐ 2. たいてい
- ☐ 3. ときどき
- ☐ 4. すこしだけ
- ☐ 5. 全くない
- ☐ 6. わからない
- ☐ 7. 答えたくない

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

Q11
必須

全体として、最近の生活にどれくらい満足していますか。
0を「全く満足していない」、10を「非常に満足している」として、0から10のスケールで回答してください。



| 0
(全く満足していない) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10
(非常に満足している) |
|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

Q12
必須

ご自身を含め、現在あなたのご家庭で同居されている方をすべてお選びください。
(いくつでも)

※あなたから見た続柄でお答えください。

- ☐ 1. 配偶者/パートナー
- ☐ 2. 小学生以下の子ども
- ☐ 3. 中学生以上の子ども
- ☐ 4. あなた
- ☐ 5. あなたの親
- ☐ 6. 兄弟・姉妹
- ☐ 7. その他
- ☐ 8. 同居している人はいない

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

Q13
必須

同一世帯内で生活費を共にしている人数（本人含む）をお知らせください。

※数字は半角数字で入力してください。

人

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

Q14
必須

世帯主との続柄をお知らせください。

- ☐ 1. 世帯主本人
- ☐ 2. 配偶者・パートナー
- ☐ 3. 子
- ☐ 4. 親
- ☐ 5. その他親族（兄弟姉妹、祖父母、孫、義理の親など）
- ☐ 6. その他非親族

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

Q15
必須

あなたの生年（西暦）・月を記入してください。

※数字は半角数字で入力してください。

年 月

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

Q16
必須

あなたの性別を教えてください。

この質問は登録情報を再掲しています。現在の情報と異なる場合は選択しなおしてください。
登録情報の修正は[こちら](#)からお願いします。

- ☒ 1. 男性
- ☐ 2. 女性

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

Q17
必須

あなたの現在の居住地をお答えください。

この質問は登録情報を再掲しています。現在の情報と異なる場合は選択しなおしてください。
登録情報の修正は[こちら](#)からお願いします。

- | | | | |
|-------------------------------|--|--------------------------------|--------------------------------|
| ☐ 1. 北海道 | ☒ 13. 東京都 | ☐ 25. 滋賀県 | ☐ 37. 香川県 |
| ☐ 2. 青森県 | ☐ 14. 神奈川県 | ☐ 26. 京都府 | ☐ 38. 愛媛県 |
| ☐ 3. 岩手県 | ☐ 15. 新潟県 | ☐ 27. 大阪府 | ☐ 39. 高知県 |
| ☐ 4. 宮城県 | ☐ 16. 富山県 | ☐ 28. 兵庫県 | ☐ 40. 福岡県 |
| ☐ 5. 秋田県 | ☐ 17. 石川県 | ☐ 29. 奈良県 | ☐ 41. 佐賀県 |
| ☐ 6. 山形県 | ☐ 18. 福井県 | ☐ 30. 和歌山県 | ☐ 42. 長崎県 |
| ☐ 7. 福島県 | ☐ 19. 山梨県 | ☐ 31. 鳥取県 | ☐ 43. 熊本県 |
| ☐ 8. 茨城県 | ☐ 20. 長野県 | ☐ 32. 島根県 | ☐ 44. 大分県 |
| ☐ 9. 栃木県 | ☐ 21. 岐阜県 | ☐ 33. 岡山県 | ☐ 45. 宮崎県 |
| ☐ 10. 群馬県 | ☐ 22. 静岡県 | ☐ 34. 広島県 | ☐ 46. 鹿児島県 |
| ☐ 11. 埼玉県 | ☐ 23. 愛知県 | ☐ 35. 山口県 | ☐ 47. 沖縄県 |
| ☐ 12. 千葉県 | ☐ 24. 三重県 | ☐ 36. 徳島県 | ☐ 48. 国外 |

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

Q18
必須

配偶者（夫または妻）の有無をお答えください。
「配偶者」には、事実上夫婦として生活しているが、婚姻届を提出していない場合も含まれます。

- ☐ 1. 配偶者あり
- ☐ 2. 未婚
- ☐ 3. 死別
- ☐ 4. 離別

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

Q19
必須

あなたはどのような住居に暮らしていますか。

- ☐ 1. 持ち家
- ☐ 2. (借家) 民営の賃貸住宅
- ☐ 3. (借家) 都道府県・市区町村営賃貸住宅
- ☐ 4. (借家) 都市再生機構 (UR) ・公社などの賃貸住宅
- ☐ 5. (借家) 給与住宅 (社宅・公務員住宅など)
- ☐ 6. その他 (無償の借家、学生寮など)

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

Q20
必須

お住まいの住居には、居住用の部屋がいくつありますか。

※居住用の部屋数には、キッチン、浴室、トイレ、廊下、物置、バルコニー、業務用の部屋は含まずにお答えください。

※数字は半角数字で入力してください。

部屋

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

Q21
必須

お住まいの住居全体の床面積はどれくらいですか。
床面積には、キッチン、浴室、トイレ、廊下も含まれます。

※床面積には、ベランダ・バルコニーは含まれません。

※床面積の換算 一坪=3.3m² 二畳=3.3m²

※数字は半角数字で入力してください。

m²

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

Q22
必須

1か月の家賃又は間代をお知らせください。

※共益費または管理費（共用部分の電気料・清掃費など）も含めてください。

※無料の場合は「0」万円と書いてください。

※数字は半角数字で入力してください。

万円

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

Q23
必須

あなたのご家庭における毎月の収入を考えて、家計はやりくりできていますか。

※ご家庭全員の収入を含めてお答えください。

- ☐ 1. 非常に困難
- ☐ 2. 困難
- ☐ 3. やや困難
- ☐ 4. やや容易
- ☐ 5. 容易
- ☐ 6. 非常に容易

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

Q24
必須

あなたのご家庭の経済的な余裕はどの程度ですか。

| | 1. | 2. |
|---|-----------------------|-----------------------|
| | はい | いいえ |
| 1年のうち、少なくとも連続して1週間の休暇を
自宅外（友人・親族宅等での滞在や世帯所有の休暇用宿泊施設を含む）
で過ごすことができる。 | ☐ | ☐ |
| 2日に1回、肉・鶏肉・魚を含む食事、
または同等のベジタリアン食を摂取することができる。 | ☐ | ☐ |
| ご家庭の自己資金から20万円以上の予期せぬ支出を行うことができる。 | ☐ | ☐ |
| 住居を適温に保つことができる。 | ☐ | ☐ |

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

Q25
必須

過去12か月間、あなたのご家庭は以下の費用の支払いが遅れたことはありますか。

※次の費用ごとに1つだけチェックしてください。

| | | 1
回
だ
け
あ
っ
た | 複
数
回
あ
っ
た | な
い | 該
当
な
し
(該
当
す
る
支
出
が
な
い) |
|----|---|---------------------------------|----------------------------|-----------------------|---|
| 1. | ご家庭が居住する住居・住宅の住宅ローンに関する利息および／または返済 | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |
| 2. | 自動車や家具などの消費者ローンに関する利息および／または返済
(当座貸越は除く) | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |
| 3. | 光熱水費(電気・ガス・水道料金) | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

Q26
必須

あなたの世帯にいる子ども（孫を除く）の年齢は何歳ですか。
年齢の低い順（末子→・・・）に**5人まで**記入してください。

※子どもの数に応じた数だけのテキストボックスを入力してお進みください。
※数字は半角数字で入力してください。

(1)最も年齢の低いお子さま 歳

(2)次に年齢の低いお子さま 歳

(3)次に年齢の低いお子さま 歳

(4)次に年齢の低いお子さま 歳

(5)次に年齢の低いお子さま 歳

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

Q27
必須

小学生以下の子どもについて、以下の施設やサービスを利用していますか。

※該当するすべての欄にチェックを入れてください。

| | 1. | 2. | 3. | 4. | 5. |
|--|--|--------------------------|-----------------------------------|-------------------------------|--------------------------|
| | 幼稚園・保育所・認定こども園等の就学前の教育・保育施設
(認可外保育施設・企業主導型保育等を含む) | 学童保育 (放課後児童クラブ等) | 家庭内での有償支援サービス (ベビーシッターや家事・育児代行など) | 習い事・教育サービス (知育教室・英語・音楽・スポーツ等) | 該当なし |
| | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

Q28
必須

小学生以下の子どもについて、普段、世帯員以外の人から無償で育児・子育ての手助けを受けていますか。
(いくつでも)

- ☐ 1. 親族（祖父母など）から受けている
- ☐ 2. 近隣の知人・友人などから受けている
- ☐ 3. その他（ボランティアなど）から受けている
- ☐ 4. 受けていない

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

Q29
必須

あなたの現在の就業状態をお知らせください。

※学生・生徒の方は、働いている場合でも「学生・生徒」を選んでください。
※以下の選択肢から選んでください。

- ☐ 1. 被雇用者
- ☐ 2. 失業中
- ☐ 3. 退職済み
- ☐ 4. 長期にわたる健康問題により就労できていない
- ☐ 5. 学生、生徒
- ☐ 6. 家事労働
- ☐ 7. 会社経営、自営業主、家族従業者
- ☐ 8. その他

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

Q30
必須

あなたの配偶者の、現在の就業状態をお知らせください。

※学生・生徒の方は、働いている場合でも「学生・生徒」を選んでください。
※以下の選択肢から選んでください。

- ☐ 1. 被雇用者
- ☐ 2. 失業中
- ☐ 3. 退職済み
- ☐ 4. 長期にわたる健康問題により就労できていない
- ☐ 5. 学生、生徒
- ☐ 6. 家事労働
- ☐ 7. 会社経営、自営業主、家族従業者
- ☐ 8. その他

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

Q31 就業している方にお伺いします。
必須 あなたの現在の主な仕事の業種についてお答えください。

- | | |
|----------------------------------|---|
| ☐ 1. 農林水産業 | ☐ 8. 金融業、保険業、不動産業、物品賃貸業 |
| ☐ 2. 建設業 | ☐ 9. 学術研究、専門・技術サービス業 |
| ☐ 3. 製造業 | ☐ 10. 宿泊業、飲食サービス業 |
| ☐ 4. 情報通信業 | ☐ 11. 教育、学習支援業 |
| ☐ 5. 運輸業、郵便業 | ☐ 12. 医療、福祉 |
| ☐ 6. 卸売業 | ☐ 13. 公務員 |
| ☐ 7. 小売業 | ☐ 14. その他 |
| | ☐ 15. 該当なし |

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

Q32 現在の主な仕事の雇用契約について、雇用期間の定めはありますか。
必須 最も当てはまるものを1つ選んでください。

※「派遣」「臨時」「契約社員」「パート・アルバイト」などの呼び方にかかわらず、ここでは
“雇用契約期間の定め”で選んでください。
※派遣の場合は、派遣先ではなく派遣元（雇っている会社）との契約期間でお答えください。

- ☐ 1. 定めがない（無期：定年までの雇用を含む）
- ☐ 2. 定めがある（有期：1回あたりの契約期間がおおむね「1年超」）
- ☐ 3. 定めがある（有期：1回あたりの契約期間がおおむね「1年以下」）
- ☐ 4. わからない
- ☐ 5. 該当しない

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

Q33
必須

就業している方にお伺いします。
過去1週間の就業日数をお知らせください。

※短時間であっても就業があった日を1日と数えてください。
※就業を行っていない方は「0日」と入力してください。
※数字は半角数字で入力してください。

日

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

Q34
必須

就業している方にお伺いします。
過去1週間の総就業時間をお知らせください。
なお、複数の仕事をした場合は、すべての合計をお答えください。

※就業を行っていない方は「0時間」と入力してください。
※数字は半角数字で入力してください。

時間

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

Q35
必須

過去5年間を振り返って、失業していた期間はありましたか。

※現在失業中の方も「過去5年間で失業歴はある」とお答えください。

- ☐ 1. 過去5年間で失業歴はない
- ☐ 2. 過去5年間で失業歴はある

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

Q35-1 前問で過去5年間に失業歴が「ある」と回答した方にお伺いします。
必須 直近の失業期間はどのくらいでしたか。

※現在失業中の方は現在までの期間をお答えください。
※失業期間が1ヶ月未満の方は「1ヶ月間」と書いてください。

ヶ月間

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

Q36 就業していない方にお伺いします。
必須 就業希望の有無についてお知らせください。

- ☐ 1. 収入を伴う仕事をしたいと思っている
- ☐ 2. 収入を伴う仕事をしたいと思っていない

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

Q37 求職・転職活動の状況をお知らせください。
必須 現在採用結果を待っている方も「仕事を探している」を選択してください。

- ☐ 1. 仕事を探している
- ☐ 2. 仕事を探していない

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

Q38
必須

あなたの最終学歴をお知らせください。

※海外で取得した資格は日本の同等資格に換算してください。

※学校卒業その他これに準ずる経歴のうち最も程度の高いものを最終学歴としてご回答ください。在学中の学校は最終学歴ではありません。

- ☐ 1. 中学校
- ☐ 2. 高等学校
- ☐ 3. 専門学校
- ☐ 4. 高専・短大
- ☐ 5. 大学
- ☐ 6. 大学院

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

Q39
必須

過去12か月間に、生徒、学生であったことがありますか。

※期間の一部のみ該当する場合でも「はい」とお答えください。

- ☐ 1. はい
- ☐ 2. いいえ

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

Q40
必須

慢性疾患や長期にわたる健康上の問題をお持ちですか。

※少なくとも6か月間持続している、または持続すると予想される病気や健康上の問題があれば「はい」とお答えください。

- ☐ 1. はい
- ☐ 2. いいえ

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

Q41
必須

健康上の問題により、日常生活の活動に制限がありますか。

- ☐ 1. 著しく制限がある
- ☐ 2. いくらか制限があるが、深刻ではない
- ☐ 3. 制限はない

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

Q42
必須

あなたの過去1か月の1日の平均睡眠時間をお知らせください。

- ☐ 5時間未満
- ☐ 5時間以上6時間未満
- ☐ 6時間以上7時間未満
- ☐ 7時間以上8時間未満
- ☐ 8時間以上9時間未満
- ☐ 9時間以上

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

Q43
必須

画面表示・動作の確認です。
この設問では、内容に関わらず「趣味やスポーツに熱中している時」を選んでください。

- ☐ 1. 仕事にうちこんでいる時
- ☐ 2. 勉強や教養などに身を入れている時
- ☐ 3. 趣味やスポーツに熱中している時
- ☐ 4. ゆったりと休養している時
- ☐ 5. 家族団らんの時
- ☐ 6. 友人や知人と会合、雑談している時
- ☐ 7. 社会奉仕や社会活動をしている時
- ☐ 8. その他

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

Q44
必須

あなたの世帯全体の年間収入（税・社会保険料込）はおよそどのくらいですか。

- | | |
|--|--|
| ☐ 100万円未満 | ☐ 1,000万円以上1,200万円未満 |
| ☐ 100万円以上200万円未満 | ☐ 1,200万円以上1,400万円未満 |
| ☐ 200万円以上300万円未満 | ☐ 1,400万円以上1,600万円未満 |
| ☐ 300万円以上400万円未満 | ☐ 1,600万円以上1,800万円未満 |
| ☐ 400万円以上500万円未満 | ☐ 1,800万円以上2,000万円未満 |
| ☐ 500万円以上600万円未満 | ☐ 2,000万円以上3,000万円未満 |
| ☐ 600万円以上700万円未満 | ☐ 3,000万円以上5,000万円未満 |
| ☐ 700万円以上800万円未満 | ☐ 5,000万円以上1億円未満 |
| ☐ 800万円以上900万円未満 | ☐ 1億円以上 |
| ☐ 900万円以上1,000万円未満 | |

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

Q45
必須

あなたご自身の仕事による年間収入（税・社会保険料込）はおよそどのくらいですか。

- | | |
|--|--|
| ☐ 100万円未満 | ☐ 1,000万円以上1,200万円未満 |
| ☐ 100万円以上200万円未満 | ☐ 1,200万円以上1,400万円未満 |
| ☐ 200万円以上300万円未満 | ☐ 1,400万円以上1,600万円未満 |
| ☐ 300万円以上400万円未満 | ☐ 1,600万円以上1,800万円未満 |
| ☐ 400万円以上500万円未満 | ☐ 1,800万円以上2,000万円未満 |
| ☐ 500万円以上600万円未満 | ☐ 2,000万円以上3,000万円未満 |
| ☐ 600万円以上700万円未満 | ☐ 3,000万円以上5,000万円未満 |
| ☐ 700万円以上800万円未満 | ☐ 5,000万円以上1億円未満 |
| ☐ 800万円以上900万円未満 | ☐ 1億円以上 |
| ☐ 900万円以上1,000万円未満 | |

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

Q46
必須

あなたの世帯全体の金融資産（預貯金や有価証券等）は、およそどのくらいですか。
（純資産（資産の額から借金の額を引いたもの）ではなく、借金を引く前の額をお答えください）

- ☐ 100万円未満
- ☐ 100万円以上300万円未満
- ☐ 300万円以上500万円未満
- ☐ 500万円以上700万円未満
- ☐ 700万円以上1000万円未満
- ☐ 1000万円以上2000万円未満
- ☐ 2000万円以上5000万円未満
- ☐ 5000万円以上1億円未満
- ☐ 1億円以上3億円未満
- ☐ 3億円以上

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
（システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。）

Q47
必須

ふだん、親族／友人と直接会って一緒に過ごすのはどのくらいの頻度ですか。

| | | 1
(毎日) | 2
(毎週 (ただし毎日ではない)) | 3
(月に数回程度) | 4
(月に1回程度) | 5
(少なくとも年に1回) | 6
(数年に1回) | 7
(全くない) |
|-------|---|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1. 親族 | ➡ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |
| 2. 友人 | ➡ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

Q48 必須 過去12か月間に、次の活動に参加しましたか。
参加した場合、その頻度はどの程度ですか。

| | 1
(週1回以上) | 2
(月1回程度) | 3
(年に数回程度) | 4
(年1回) | 5
(参加していない) |
|------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1. ボランティア・地域活動 ➡ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |
| 2. レクリエーション・趣味 ➡ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

Q49 必須 もし必要になったとき、金銭的援助（お金、ローン、または同様の支援）を頼める親戚、友人、隣人、その他の人はいますか。

※同居している方を除いてお答えください。

- ☐ 1. はい
- ☐ 2. いいえ

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

Q50
必須

もし必要になったとき、金銭的援助以外の助けを頼める親戚、友人、隣人、その他の人はいますか。
例えば、個人的な問題について話す相手や、日常の活動を手伝ってくれる人を想像してください。

※同居している方を除いてお答えください。

- ☐ 1. はい
- ☐ 2. いいえ

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

Q51
必須

過去起きた出来事についてお聞きます。
それぞれの期間に起きた出来事について当てはまるものをすべて選んでください。

※その期間に該当するものがない場合は、「当てはまるものはない」を選んでください。
※基準日は本日とし、例えばちょうど1年前の出来事は「3か月超～1年以内」に含めてください。



| | 1. | 2. | 3. | 4. | 5. | 6. | 7. | 8. | 9. | 10. | 11. | 12. |
|------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--|--------------------------|--------------------------|---------------------------------------|--------------------------|--------------------------|
| | 引っ越しをした | 配偶者・パートナーとの同居を始めた | 配偶者・パートナーとの同居をやめた | 働き始めた（就業開始） | 仕事を辞めた（退職・退職） | 転職した | 新たな健康上の問題（病気・けが等）と診断された
（あなた本人／配偶者・パートナー） | 子どもが独り立ちをした | 出産があった（あなた本人／配偶者・パートナー） | 身近な人との死別があった（配偶者・パートナー、家族、親族、親しい友人など） | 離婚した | 当てはまるものはない |
| 過去1か月以内 | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |
| 1か月超～3か月以内 | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |
| 3か月超～1年以内 | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |
| 1年超から3年以内 | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |
| 3年超～5年以内 | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
（システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。）

必須 この質問は「次へ」を選択してください。

☐ 1. 次へ

次へ

本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)

アンケートにご回答いただき、ありがとうございました。